佐賀県文化財調査報告書第147集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　19

２００１年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　19

２００１年3月

佐 賀 県 教 育 委 員 会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業等の施工に先立ち実施した、埋蔵文化財の確認調査の結果をまとめたものです。

本県には埋蔵文化財が多数存在しており、県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と農業等を営む方々の生活基盤を整備する事業との調整を図るため、文化財の確認調査と記録の保存を進めております。

今回、平成12年度農業基盤整備事業等施工地区について文化財確認調査を行った結果、旧石器時代から近世にわたる各時代の遺跡が確認され、ここにその成果の一端を紹介するものです。

本書を文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

この調査にあたって、文化庁、九州農政局、県農林部、各市町村教育委員会・農林担当課並びに地元関係各位の深い御理解と御協力をいただきましたことに対し、心からお礼申し上げます。

平成13年3月31日

佐賀県教育委員会
教育長　松尾 正廣

例　　言

1. 本書は国庫補助を受け、平成11年度に確認調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査報告書である。また、附編として嘉瀬川ダム建設事業・その他公共事業に伴う文化財確認調査結果について所収している。
2. 調査は市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行った。
3. トレンチ（試掘坑）位置図作成、遺構の実測、写真撮影は調査員が行った。また、地形測量図作成・空中写真撮影作業については委託により実施した。
4. 遺物の整理・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化財課（神埼事務所）で行った。
   ・遺物整理 …… 田中 ハルミ
   ・遺物整理、遺物実測、製図 …… 一番ケ瀬 富士子・江島 美恵子・上瀧 光子・山口 美佐子
   ・製　　図 …… 三好 文子
5. 本書の執筆は下記の分担で行った。
   Ⅰ、Ⅱ［3－（3）を除く］、Ⅳ、Ⅴ ……市川 浩文（佐賀県教育委員会）
   Ⅱ－3－（3）……西田 和己（佐賀県教育委員会）
   Ⅲ－1 ……太田　睦（中原町教育委員会）
   Ⅲ－2、3……原田 大介（上峰町教育委員会）
   Ⅲ－4 ……桑原 幸則（神埼町教育委員会）
   Ⅲ－5 ……中野　充（佐賀市教育委員会）
   Ⅲ－6 ……三代 俊行（佐賀市教育委員会）
   Ⅲ－7 ……岩永 雅彦（多久市教育委員会）
   Ⅲ－8、9……田島 龍太（唐津市教育委員会）
   Ⅲ－10、11 ……草場 誠司（唐津市教育委員会）
6. 本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を記した。
7. 挿図中の■は遺構・遺物が確認されたトレンチ、□は遺構・遺物が確認されなかったトレンチを示す。
8. 本書Ⅱ.平成11年度文化財確認調査の概要は調査員から提出された調査結果報告を基に編集者がまとめている。Ⅱの報告及びⅢの各担当者の原稿のうち、「土壙」や「……跡」の表記等については統一を図り、また一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。
9. 本書の編集は市川が行った。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過

1．平成12年度農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査 …… 1
(1) 農林業基盤整備事業等に係る協議 …… 1
(2) 文化財確認調査 …… 1
(3) 農林業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議 …… 1
2．調査組織 …… 2

Ⅱ．平成11年度文化財確認調査の概要

1．佐賀東部地区の調査 …… 8
(1) 鳥栖市 …… 9
(2) 中原町 …… 9
(3) 東脊振村 …… 10
2．佐賀西部地区の調査 …… 15
(1) 佐賀市 …… 15
(2) 富士町 …… 21
3．佐賀南部地区の調査 …… 21
(1) 武雄市 …… 21
(2) 鹿島市 …… 25
(3) 有明町 …… 25
4．佐賀北部地区の調査 …… 29
(1) 伊万里市 …… 29
(2) 相知町 …… 35
(3) 浜玉町 …… 37
5．佐賀上場地区の調査 …… 43
(1) 唐津市 …… 43
(2) 玄海町 …… 49
(3) 肥前町 …… 49

6．附　編（嘉瀬川ダム建設事業・その他公共事業に伴う文化財確認調査） …… 50
(1) 嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財確認調査 …… 50
(2) 厳木バイパス建設事業に伴う文化財確認調査 …… 50

Ⅲ. 平成11年度発掘調査の概要……52

1. 鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区（中原町）……52
2. 船石遺跡（上峰町）……54
3. 船石南遺跡（上峰町）……56
4. 利田柳遺跡8・9・10区（神埼町）……58
5. 石土井遺跡1区（佐賀市）……60
6. 野中遺跡1・2区（佐賀市）……62
7. 八ツ溝遺跡（多久市）……64
8. 菅牟田荒谷遺跡（唐津市）……66
9. 東山Ⅰ遺跡（唐津市）……68
10. 岸高Ⅱ遺跡（唐津市）……70
11. 外原遺跡（唐津市）……72

Ⅳ. まとめ……74

Ⅴ. 資　料　－平成12年度農林業基盤整備事業に係る文化財調査一覧表－……77

挿図目次

図1　平成11年度農林業基盤整備事業等に伴う文化財調査地位置図……3～4
図2　佐賀東部地区調査地位置図……8
図3　中原町：九千部山横断線トレンチ配置図……10
図4　東脊振村：佐賀東部地区トレンチ配置図……12
図5　ＳＤ097平面図・土層図及び出土遺物①……13
図6　ＳＤ097出土遺物②……14
図7　佐賀西部地区調査地位置図……16
図8　佐賀市：金立東部地区トレンチ配置図……18
図9　佐賀市：兵庫北部地区・幹線水路徳永線トレンチ配置図……19
図10 富士町：佐賀北部2期地区トレンチ配置図　20
図11 佐賀南部地区調査地位置図……22
図12 武雄市：武雄北部2期地区トレンチ配置図……23
図13 鹿島市：多良岳2期地区トレンチ配置図……24
図14 有明町：龍王溜池現況図……26
図15 龍王溜池底樋呑口付近概要図……27
図16 佐賀北部地区調査地位置図①……30
図17佐賀北部地区調査地位置図②……31
図18 伊万里市：煤屋地区トレンチ配置図……32
図19 伊万里市：峰地区トレンチ配置図……33
図20 伊万里市：小木原線トレンチ配置図……34
図21 相知町：浅井谷線トレンチ配置図……36
図22 浅井谷線確認調査出土遺物……37
図23 浜玉町：ひれふり地区トレンチ配置図……40～41
図24 浜玉町：今坂地区トレンチ配置図……42
図25 佐賀上場地区調査地位置図……44
図26 唐津市：鶏の尾地区トレンチ配置図……45
図27 唐津市：宇木半田2期地区トレンチ配置図……46
図28 玄海町：玄海支線24号トレンチ配置図……47

図29 肥前町：赤坂地区トレンチ配置図 ……48
図30 大野代官所位置図 ……51
図31 厳木バイパス調査地位置図 ……51
図32 鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区位置図 ……52
図33 船石遺跡位置図 ……54
図34 船石南遺跡位置図 ……56
図35 利田柳遺跡8・9・10区位置図 ……58
図36 石土井遺跡1区位置図 ……60
図37 野中遺跡1・2区位置図 ……62
図38 八ツ溝遺跡位置図 ……64
図39 八ツ溝遺跡出土遺物 ……65
図40 菅牟田荒谷遺跡位置図 ……66
図41 東山Ⅰ遺跡位置図 ……68
図42 岸高Ⅱ遺跡位置図 ……70
図43 外原遺跡位置図 ……72

図版目次

図版1　龍王溜池調査状況 ……28
図版2　ひれふり地区確認調査状況 ……38
図版3　嘉瀬川ダム建設事業に伴う確認調査 ……51
図版4　鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区 ……53
図版5　船石遺跡 ……55
図版6　船石南遺跡 ……57
図版7　利田柳遺跡8・9・10区 ……59
図版8　石土井遺跡1区 ……61
図版9　野中遺跡1・2区 ……63
図版10 八ツ溝遺跡 ……65
図版11 菅牟田荒谷遺跡 ……67
図版12 東山Ⅰ遺跡 ……69
図版13 岸高Ⅰ遺跡 ……71
図版14 外原遺跡 ……73

表目次

表1　農林業基盤整備事業施工予定地内文化財確認調査（平成11年度実施）……5～6
表2　平成11年度農林業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表 ……5～6
表3　平成12年度農林業基盤整備事業等に係る文化財調査一覧表 ……77～80

報告書抄録

ふりがな	さがけんのうぎょうきばんせいびじぎょうにかかわるぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書19
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第147集
編集者名	市川 浩文
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840－8570　佐賀県佐賀市城内1丁目1－59　　TEL. 0952 (24) 2111
発行年月日	2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査対象面積 (確認調査) ha	調査原因
佐賀県農業基盤整備地区内遺跡 嘉瀬川ダム建設予定地内遺跡 その他公共事業予定地内遺跡	佐賀県内					19990401 ～ 20000331	335.5ha	農業基盤整備事業 嘉瀬川ダム建設事業 その他公共事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物	特記事項
佐賀県農業基盤整備地区内遺跡 嘉瀬川ダム建設予定地内遺跡 その他公共事業予定地内遺跡	集落 墓地 古墳	旧石器時代 ～ 近世	集落遺構 甕棺墓 石棺墓・土壙墓 古墳 窯跡 堤・樋管 山城関連遺構 等	土器 石器 陶磁器	確認調査報告のほかに平成11年度に農林業基盤整備事業に伴い実施された11遺跡の調査概要を所収。

Ⅰ．調査に至る経過

1. 平成12年度農林業基盤整備事業等に係る文化財確認調査

(1) 農林業基盤整備事業等に係る協議

例年、次年度の農林業基盤整備事業については、県農林部と県教育委員会が締結した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項（昭和53年4月1日締結、昭和59年4月1日一部改正)」に基づき、文化財確認調査の有無等について協議を実施している。平成12年度農林業基盤整備事業施工地区のうち、予備調査（分布・試掘・確認調査）が必要となった地区は、佐賀東部地区（鳥栖市・基山町・中原町・東脊振村・脊振村・神埼町・千代田町）14.7ｈａ、佐賀西部地区（佐賀市・多久市・富士町・大和町・小城町・三日月町・芦刈町）77.9ｈａ、佐賀南部地区（江北町・大町町・北方町・武雄市・鹿島市・有明町・山内町・太良町・嬉野町）79.9ｈａ、佐賀北部地区（伊万里市・相知町・七山村・浜玉町・厳木町・西有田町・有田町・北波多村）95ｈａ、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町）68ｈａの合計335.5ｈａである。施工主体は、県農林部・農村農地整備局所管の県営、市町村所管の団体営事業等に区分される。また、九州農政局筑後川下流農業水利事務所所管の筑後川下流用水事業に伴う協議（佐賀市・大和町・神埼町・三日月町)、佐賀中部農地防災事業所所管の農業用水関係事業に伴う協議（佐賀市・川副町・久保田町・牛津町・芦刈町）もなされた。

(2) 文化財確認調査

協議した施工計画について現地踏査などの結果をもとに検討を行い、文化財確認調査が必要と認められた地区（表1）を決定した。これを受け、当該市町村教育委員会・農林担当課、県農林部・農村農地整備局との第1回目の「平成12年度農林業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する第1回協議会」を県教育委員会が主催して10月17日に開催し、文化財確認調査の時期など円滑な実施について協議した。

文化財確認調査は原則として稲刈り終了から麦の作付けまでの期間（10月下旬～12月上旬）までの間に行ったが、地区によっては上物の状況等により、年度末までずれ込む箇所もあった。

確認調査は原則として、2ｍ×2ｍのトレンチ（試掘坑）を20ｍ間隔で碁盤目状に、農道・林道等、調査対象地区が狭い場合はほぼ等間隔に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、範囲などを調査した。

(3) 農林業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議

確認調査を実施した結果、佐賀東部地区で1,400㎡、佐賀西部地区で93,000㎡、佐賀南部地区で1,450㎡、佐賀北部地区で10,500㎡、佐賀上場地区で2,400㎡の合計108,750㎡の遺跡の広がりが確認された。内容としては弥生時代の集落、古墳、中世山城、明治初頭の磁器窯跡等を確認した他、特筆すべきものとして近世の溜池堤の調査を行った。平成11年12月10日には「平成12年度農林業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する第2回協議会」を開催し、確認調査の結果をもとに、文化財の保存について工事計画との調整を計った。このうち圃場整備等においては盛土による保存、農道・林道・用排水路等については路線の変更により遺跡の保存に努めたが、設計変更によっても保存が不可能なものについては、協議の上、工事実施前に記録保存の措置を取ることとした。この結果、平成12年度以降に本発掘調査を実施することとなったのは、佐賀東部地区で1,000㎡、佐賀西部地区で6,000㎡、佐賀南部地区で500㎡、佐賀北部地区で8,000㎡、佐賀上場地区で2,400㎡の合計17,900㎡である。また工事の内容及び遺跡の内容等を鑑みて、確認調査の範囲で記録保存を実施したものは、有明町龍王溜池の近世堤など計950㎡である。

2. 調査組織

平成11年度

調査主体　佐賀県教育委員会

総　括

局　長　佛坂　勝男　県文化財課長

次　長　園田　義孝　県文化財副課長　　大橋　康二　県文化財副課長　　東中川忠美　県文化財副課長

庶　務

津野　建夫　県文化課庶務係専門員　　相川ミエ子　県文化課庶務係主査

毎熊　　近　県文化課庶務係主事　　陶山　　優　県文化課庶務係主事

調　査

調査総括　西田　和己　県文化財課管理・指導班企画調整主査

徳富　則久　県文化財課管理・指導班企画調整主査

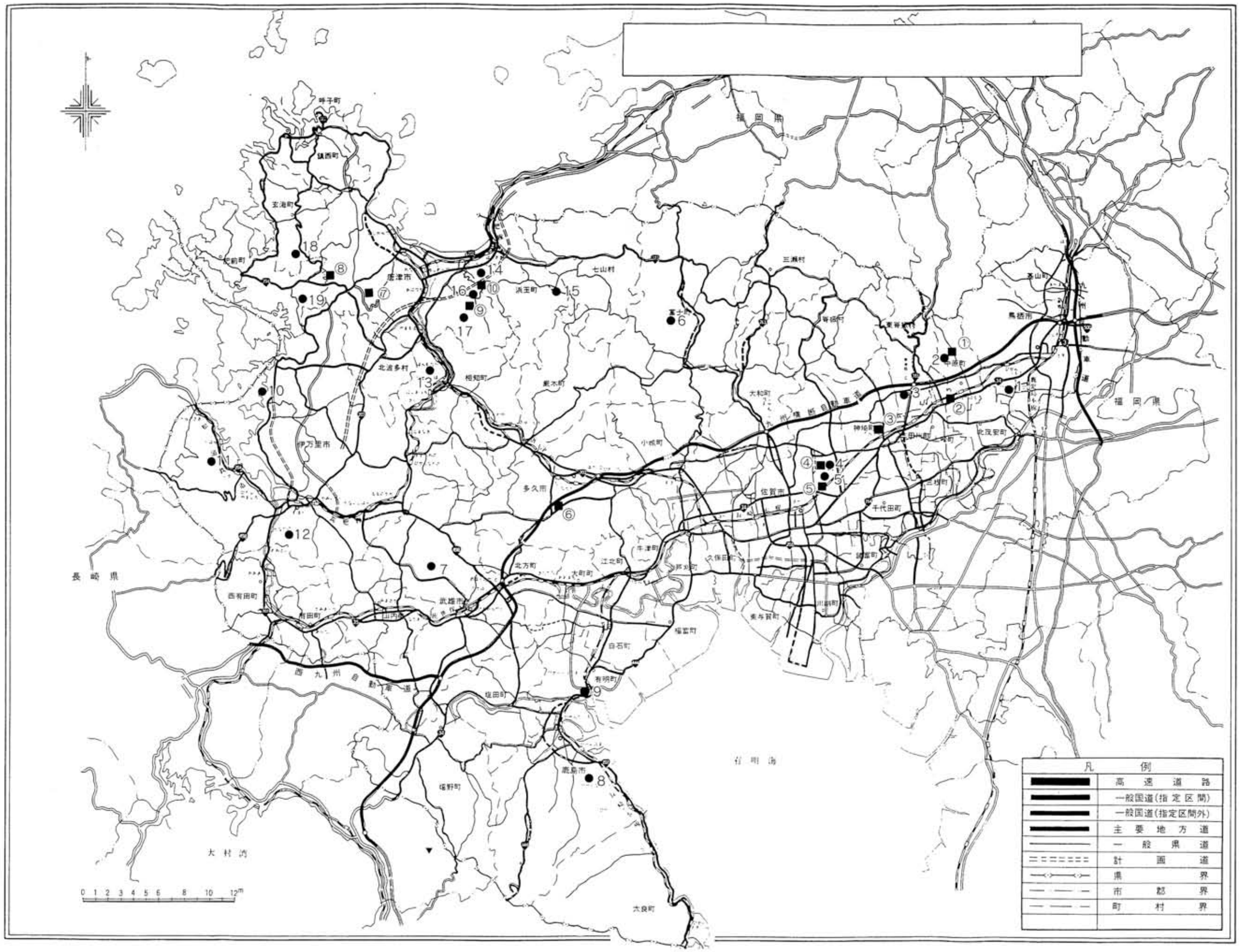
調査主任　市川　浩文　県文化財課管理・指導班文化財保護主事

調査員

樋口　秀信	県文化財課管理・指導班主査	宗像　　剛	富士町教育委員会
古川　直樹	県文化財課管理・指導班指導主事	太田　　睦	中原町教育委員会
楠本　正士	佐賀市教育委員会	中尾　修二	浜玉町教育委員会
中野　　充	佐賀市教育委員会	永田　　淳	浜玉町教育委員会
内田　孔明	唐津市教育委員会	黒田　裕一	相知町教育委員会
草場　誠司	唐津市教育委員会	藤井　浩司	肥前町教育委員会
湯浅　満暢	鳥栖市教育委員会	有光　宏之	玄海町教育委員会
島内　浩輔	伊万里市教育委員会		
原田　保則	武雄市教育委員会		
淵　加代子	武雄市教育委員会		
加田　隆志	鹿島市教育委員会		

調査協力

佐賀市教育委員会	千代田町教育委員会	七山村教育委員会
唐津市教育委員会	東脊振村教育委員会	厳木町教育委員会
鳥栖市教育委員会	脊振村教育委員会	相知町教育委員会
多久市教育委員会	基山町教育委員会	北波多村教育委員会
伊万里市教育委員会	中原町教育委員会	玄海町教育委員会
武雄市教育委員会	北茂安町教育委員会	鎮西町教育委員会
鹿島市教育委員会	上峰町教育委員会	西有田町教育委員会
川副町教育委員会	小城町教育委員会	山内町教育委員会
久保田町教育委員会	三日月町教育委員会	北方町教育委員会
大和町教育委員会	牛津町教育委員会	大町町教育委員会
富士町教育委員会	芦刈町教育委員会	江北町教育委員会
神埼町教育委員会	浜玉町教育委員会	有明町教育委員会



確認調査地区	
	佐賀東部地区
	1. 鳥栖市(鳥栖地区)
	2. 中原町(九千部山横断線)
	3. 東脊振村(佐賀東部地区)
	佐賀西部地区
	4. 佐賀市(金立東部)
	5. 〃 (兵庫北部)
	〃 (幹線水路徳永線)
	6. 富士町(佐賀北部2期)
	佐賀南部地区
	7. 武雄市(武雄北部2期)
	8. 鹿島市(多良岳2期)
	9. 有明町(龍王溜池)
	佐賀北部地区
	10.伊万里市(煤屋)
	11. 〃 (峰)
	12. 〃 (小木原線)
	13.相知町(浅井谷)
	14.浜玉町(ひれふり)
	15. 〃 (今坂)
	佐賀上場地区
	16.唐津市(鴨の尾)
	17. 〃 (宇木半田2期)
	18.玄海町(玄海支線24号)
	19.肥前町(赤坂)

発掘調査遺跡	
	①鷹取山遺跡 (TTY)
	②船石 (FNI)
	船石南遺跡 (FIM)
	③利田柳遺跡 (TDY)
	④石土井遺跡 (ISD)
	⑤野中遺跡 (NNK)
	⑥八ツ溝遺跡 (YTM)
	⑦菅牟田荒谷遺跡 (SMA)
	⑧東山Ⅰ遺跡 (HGY Ⅰ)
	⑨岸高Ⅱ遺跡 (KID Ⅱ)
	⑩外原遺跡 (SOB)

図1　平成11年度農林業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図

表１　農林業基盤整備事業施工予定地区内文化財確認調査（平成11年度実施）

地　区	市町村名	工事地区名	所　在　地	確認調査対象	調　査　結　果	担当者	備　考
佐賀東部地区	鳥　栖　市	鳥栖北部	鳥栖市江島町字西谷	０．２ｈａ	弥生土器・須恵器数点、遺構なし	湯 浅	本行遺跡
	中　原　町	九千部山横断線	中原町大字原古賀字丸山	０．８ｈａ	通路状遺構、須恵器杯	太 田	鷹取山遺跡
	東脊振村	佐賀東部	東脊振村大字大曲字西前田	延長　200m	弥生時代の集落跡	市 川	西前田遺跡
佐賀西部地区	佐　賀　市	金立東部	佐賀市金立町大字薬師丸	１０ｈａ	弥生時代、平安～中世の集落跡	楠本・中野	上九郎遺跡
		兵庫北部	佐賀市兵庫町大字若宮	２４．１ｈａ	土師器・陶器・染付	市川・古川	未周知
		幹線水路徳永線	佐賀市兵庫町大字若宮	延長 450m	遺構・遺物なし	市川・古川	未周知
	富　士　町	佐賀北部2期	富士町大字栗並	０．２ｈａ	土師器・陶磁器・黒曜石数点出土、遺構なし	宗 像	未周知
佐賀南部地区	武　雄　市	武雄北部2期	武雄市武内町大字真手野字内田	１．０ｈａ	陶器片出土、遺構なし	原田・淵	古屋敷窯跡
	鹿　島　市	多良岳2期	鹿島市浜町字皿山	０．５ｈａ	明治～大正時代の磁器窯跡	加 田	浜町皿山窯跡
	有　明　町	龍王溜池	有明町大字深浦字平山	０．４ｈａ	近世期溜池の堤・樋管	西田・古川・市川	龍王峠古墳群
佐賀北部地区	伊万里市	煤屋	伊万里市波多津町大字煤屋字皆治ケ浦	０．２ｈａ	遺構・遺物なし	島 内	未周知
		峰	伊万里市山代町久原字馬洗川	１８．５９ｈａ	黒曜石数点出土、遺構なし	島 内	楠殿屋敷跡
		小木原線	伊万里市二里町大里字小木原	０．２ｈａ	黒曜石剥片・チップ多量に出土	島 内	腰岳遺跡群
	相　知　町	浅井谷	相知町大字牟田部字浅井谷	０．８ｈａ	弥生時代の土器、縄文時代の石器出土	黒 田	未周知
	浜　玉　町	ひれふり	浜玉町大字横田、東山田	２１．６ｈａ	古墳・石棺墓・土坑墓	中尾・永田・市川	大岩西遺跡・小山田古墳
		今坂	浜玉町大字平原字原田	１００ｈａ	土器・須恵器・陶器数点出土、遺構なし	永 田	未周知
佐賀上場地区	唐　津　市	鶏の尾	唐津市半田字鶏の尾	０．５２ｈａ	古墳・近世墓	草 場	鶏の尾古墳群
		宇木半田2期	唐津市宇木字大谷、東山田	延長　300m	遺構・遺物なし	内 田	未周知
	玄　海　町	玄海支線24号	玄海町大字牟形	０．１４ｈａ	遺構・遺物なし	有 光	未周知
	肥　前　町	赤坂	肥前町大字赤坂字太田	１．２ｈａ	遺構・遺物なし	藤 井	未周知

表２　平成11年度 農林業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表

地　区	市町村名	遺　跡　名	略　号	所　在　地	調査面積	調査主体者	調査担当者	遺　跡　の　内　容
佐賀東部地区	中　原　町	鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区	ＴＴＹ	三養基郡中原町大字原古賀字丸山	1,500㎡	中原町教育委員会	太 田	中世山城跡関連の土塁・通路
	上　峰　町	船石遺跡	ＦＮＩ	三養基郡上峰町大字堤地内	530㎡	上峰町教育委員会	原 田	弥生時代の集落跡
	〃	船石南遺跡	ＦＩＭ	〃	270㎡	上峰町教育委員会	〃	弥生時代の集落跡・墓地
	神　埼　町	利田柳遺跡8・9・10区	ＴＤＹ	神埼郡神埼町大字竹地内	3,500㎡	神埼町教育委員会	桑 原	弥生時代の集落跡・墓地、古墳時代・中世の集落跡
佐賀西部地区	佐　賀　市	石土井遺跡1区	ＩＳＤ	佐賀市金立町大字薬師丸	3,200㎡	佐賀市教育委員会	中 野	弥生時代の集落跡、平安時代の用水路？
		野中遺跡1・2区	ＮＮＫ	佐賀市兵庫町大字若宮	850㎡	佐賀市教育委員会	三 代	近世の集落跡
	多　久　市	八ツ溝遺跡	ＹＴＭ	多久市多久町八ツ溝	5,400㎡	多久市教育委員会	岩 永	縄文・弥生～古墳・奈良時代の集落跡・遺物包含層
佐賀上場地区	唐　津　市	菅牟田荒谷遺跡	ＳＭＡ	唐津市菅牟田字荒谷	2,700㎡	唐津市教育委員会	内 田	旧石器・縄文時代の遺物包含層
		東山Ⅰ遺跡	ＨＧＹＩ	唐津市東山字縫城	350㎡	唐津市教育委員会	内 田	旧石器・縄文時代の遺物包含層
		岸高Ⅱ遺跡	ＫＩＤⅡ	唐津市半田字桜崎	2,000㎡	唐津市教育委員会	草 場	弥生時代・中世・近世の墓地
		外原遺跡	ＳＯＢ	唐津市半田字桜崎	2,400㎡	唐津市教育委員会	草 場	中世の炭窯、旧石器・縄文時代の遺物包含層

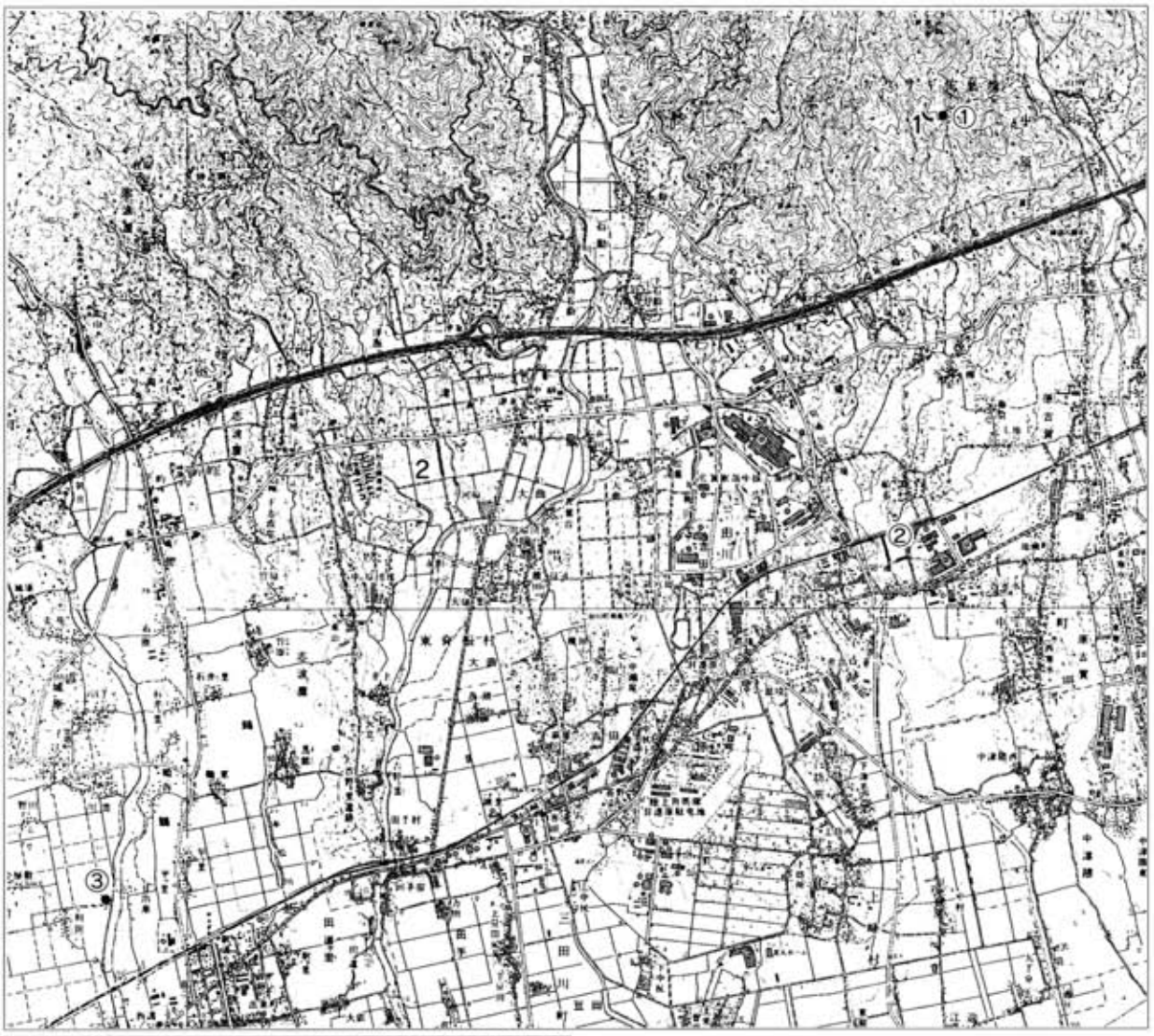
太良町教育委員会　　塩田町教育委員会　　嬉野町教育委員会

九州農政局筑後川下流農業水利事務所
九州農政局佐賀中部農地防災事業所
佐賀中部農林事務所
鳥栖農林事務所
武雄農林事務所
鹿島農林事務所
伊万里農林事務所
唐津農林事務所
各市町村農林担当課
地元各位

調査指導　知野 泰明　日本大学専任講師

Ⅱ．平成11年度文化財確認調査の概要

1．佐賀東部地区の調査



1　九千部山横断線
2　佐賀東部地区
3　鳥栖地区

①　鷹取山遺跡
②　船石・船石南遺跡
③　利田柳遺跡

図2　佐賀東部地区調査地位置図（1/50,000）

(1) 鳥栖市

調査対象地区名　　**県営かんがい排水事業鳥栖北部地区線　揚水機場建設**

調査対象地所在地　　鳥栖市江島町字西谷3256の742

調査対象面積　　約0.2ｈａ

調査対象地区の立地　鳥栖市南西部、沼川左岸の標高約30ｍの舌状台地上に立地する。

周辺の遺跡及び内容　調査対象区は周知の埋蔵文化財包蔵地である本行遺跡に含まれる。本行遺跡では今回調査対象地区の北50ｍの地点で平成3年度から平成5年度にかけて工場建設に伴い発掘調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡・墓地が確認されたほか、11点にのぼる弥生時代の青銅器鋳型や中広形銅矛・小銅鐸・鋤先などの青銅製品が出土しており、鋳造関係遺構は確認されていないものの、鳥栖市安永田遺跡と並んで弥生時代における当該地の活発な青銅器生産を物語る遺跡として著名である。また、西側一帯の丘陵上には、古墳時代後期の群集墳が散在して分布する。

調査方法及び内容　調査対象地区内にNo.1～8の8箇所のトレンチを設定し、バックフォー及び作業員により掘削を行った。このうち、三つのトレンチから小穴を計9個確認したが、その残存状況は良好でなく、周辺部への面的な広がりは認められなかった。小穴からの出土遺物はなく、これらの小穴が何らかの遺構に伴うものかどうかは不明である。なお、耕作土中から弥生土器及び須恵器片が出土した。

所　　見　調査の結果、対象地区の現況は果樹園に利用されており、それに伴う造成、及び根による撹乱を多く被っていた。今回の調査では確実な遺構は確認されなかったが、本行遺跡の本調査実施地区に近接するほか、地形的にも遺跡の立地に適した部分にあたり、周辺部における開発行為については引き続き注意を要する地区である。

(2) 中原町

調査対象地区名　　**広域基幹林道九千部山横断線**

調査対象地所在地　　三養基郡中原町大字原古賀字丸山

調査対象面積　　0.8ｈａ

調査対象地区の立地　脊振山系の鷹取山の中腹、南北に伸びる尾根上及び尾根の間の狭い谷部にあたり、現況は山林である。

周辺の遺跡及び内容　調査対象区の北々東約400ｍの地点では平成11年度に同事業に伴い発掘調査が実施され（鷹取山遺跡Ⅲ区・Ⅳ区）、中世山城である鷹取山城に関連すると思われる通路・土塁・焼土壙等が確認されている。鷹取山城は鷹取山山頂（403.5m）を中心とした戦国期の山城であり、頂上部に複数の曲輪と思われる造成面や尾根を断ち切った三重の堀切が見られるほか、調査対象区付近から頂上部にかけての尾根筋にも土塁・堀切などが残っている。城全体の規模・築城時期などは不明であるが、宮山城・臥牛城・白虎山城・少弐山城と共に、綾部氏・少弐氏の居城として広義の綾部城（綾部五城）を形作っていたものと推定されている。

また、平成10年度に中原町教育委員会によって発掘調査が実施された鷹取山遺跡Ⅰ区では8～9世紀にかけての土壙・焼土壙・通路状遺構及び大規模な造成面が確認されているが、標高220ｍ以上の高所における当該期の遺構としては稀有な例と言える。その性格としては祭祀あるいは烽火関連が想定されるものの今のところ不明であるが、従来発掘調査が行われなかった山間地での調査成果が増えつつあり興味深い。

調査方法及び内容　調査は林道本線のほか、土羽・切土部分を対象に行った。地形的には北から南に狭く伸びる二つの尾根に挟まれた谷部に14本、尾根のうち、この谷部の西側に位置する尾根上について14本、また尾根か

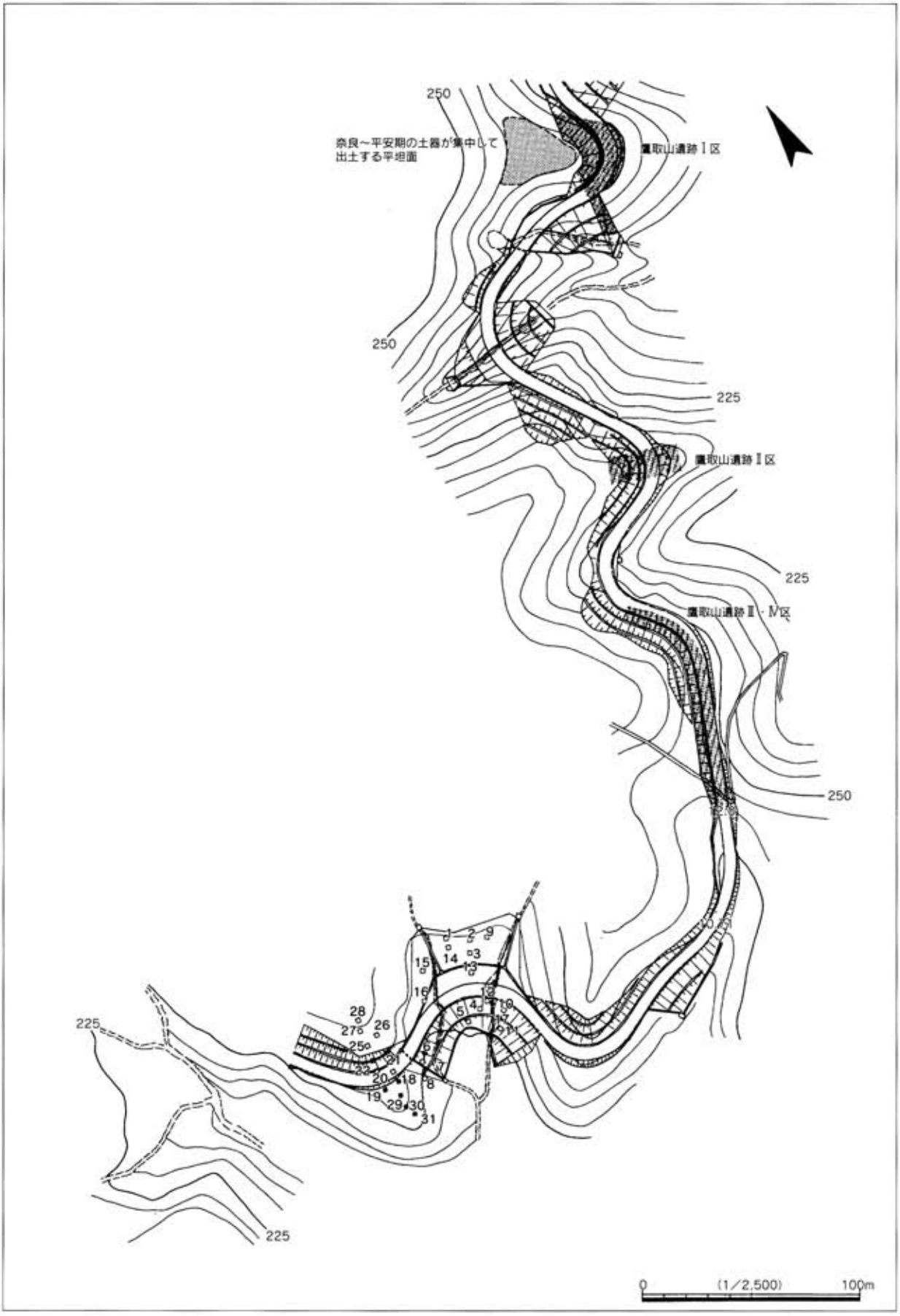


図３　中原町：九千部山横断線トレンチ配置図

ら谷部への斜面部分に3本の計31本のトレンチを設定し、人力により掘削を行った。周辺部は平坦地の少ない比較的急峻な斜面が多く、調査対象地の範囲は標高225～245mの範囲に含まれる。調査前の地形観察では土塁等の人工地形の存在は全く窺い知れなかったが、尾根上に設定したNo.18～20・29～31トレンチで尾根筋に沿って南北方向に伸びる通路状の掘り込みが確認された。また、谷部への斜面上に設けたNo.6トレンチでは平安時代前期頃の須恵器坏身が1点出土している。

所　　見　尾根上で確認された通路状の遺構については、近接して土塁・曲輪等の遺構が見られないことからその性格については明らかにし難いが、この尾根筋を登って行くと200m程で鷹取山城の土塁に達するため、鷹取山城に関連する遺構である可能性が考えられる。また、No.6トレンチで出土した須恵器坏身の存在は、周辺部にも鷹取山遺跡Ⅰ区と同様に古代の遺跡が存在している可能性が想定されるが、そのほかのトレンチではⅠ区で確認されたような平坦面造成や土器類が散在するような状況は窺えず、今回の調査対象区内ではその存在について明らかにできなかった。

(2) 東脊振村

調査対象地区名　　県営かんがい排水事業 佐賀東部地区

調査対象地所在地　　神埼郡東脊振村大字三津字西前田

調査対象面積　　延長200m（400㎡）

調査対象地区の立地　脊振山地の南麓裾部に形成されている三津段丘上にあたり、西光寺川と導師川に挟まれた段丘先端部付近の標高24～25m付近に立地する。調査対象地の現況は南北に走るアスファルト敷きの農道であり、農道両側は水田、水田と農道との比高差は約0.5～2.0mである。

周辺の遺跡及び内容　周辺部は昭和55年度の県営ほ場整備事業に伴い約2,400㎡を対象に発掘調査が実施され、弥生時代中期初頭～弥生時代後期終末の集落・墳墓及び古墳時代後期の集落が確認されている［西前田Ａ遺跡（久保・岩永 1981）］。西前田Ａ遺跡では竪穴住居跡25軒・掘立柱建物跡19棟以上・溝跡15条のほか、土壙・甕棺墓が検出されているが、竪穴住居跡・掘立柱建物跡の多くが弥生時代に属するものと推定されている。また、西光寺川を挟んだ対岸の段丘上、調査対象区の東200mの地点では昭和56年度に宅地造成に伴って発掘調査が実施され、甕棺墓140基・土壙墓5基・石棺墓2基からなる弥生時代前期末～中期前半の墓地が検出されている［西前田Ｂ遺跡（久保 1982）］。調査対象地である農道は県営ほ場整備の際、保存部分として盛土施工を行った部分であり、このうち調査対象地中ほどの延長約40mについては西前田Ａ遺跡の本調査の際、発掘調査を実施している。

調査方法及び内容　施工内容は県道鳥栖・川久保線から南に伸びる農道の延長260mの区間に径70cmの導水管を埋設するもので、農道上面での開削幅は約2.0～2.5mである。調査対象区については平成10年度に確認調査を実施しており、9箇所の試掘坑より住居跡の覆土と思われる遺物包含層や中世以降の溝などが検出されている。平成11年度の施工に先立って工事立会調査を実施したところ、南側の農道交差部分から約70m付近で土壙・小穴等の遺構が確認された。よって、掘り下げを遺構検出面までに留めつつ、遺構の範囲を確認するため北側へ拡張していったところ、約50mの範囲に高い密度で遺構の広がりが確認された。本農道が生活道路として日常的に使用されていることもあり長期間の通行規制に支障があるものと予想され、農林担当部局と協議の結果、一端開削を止め、検出された遺構について記録保存の措置をとった。遺構検出面はアスファルト面から深さ約1.0mで、この深さでの調査区の幅は約1.5mとかなり狭いものであるため、検出された遺構についても部分的な確認に終始したが、それでも竪穴住居跡9軒分・土壙15基のほか多数の小穴が見られた。竪穴住居跡は先述のとおり、

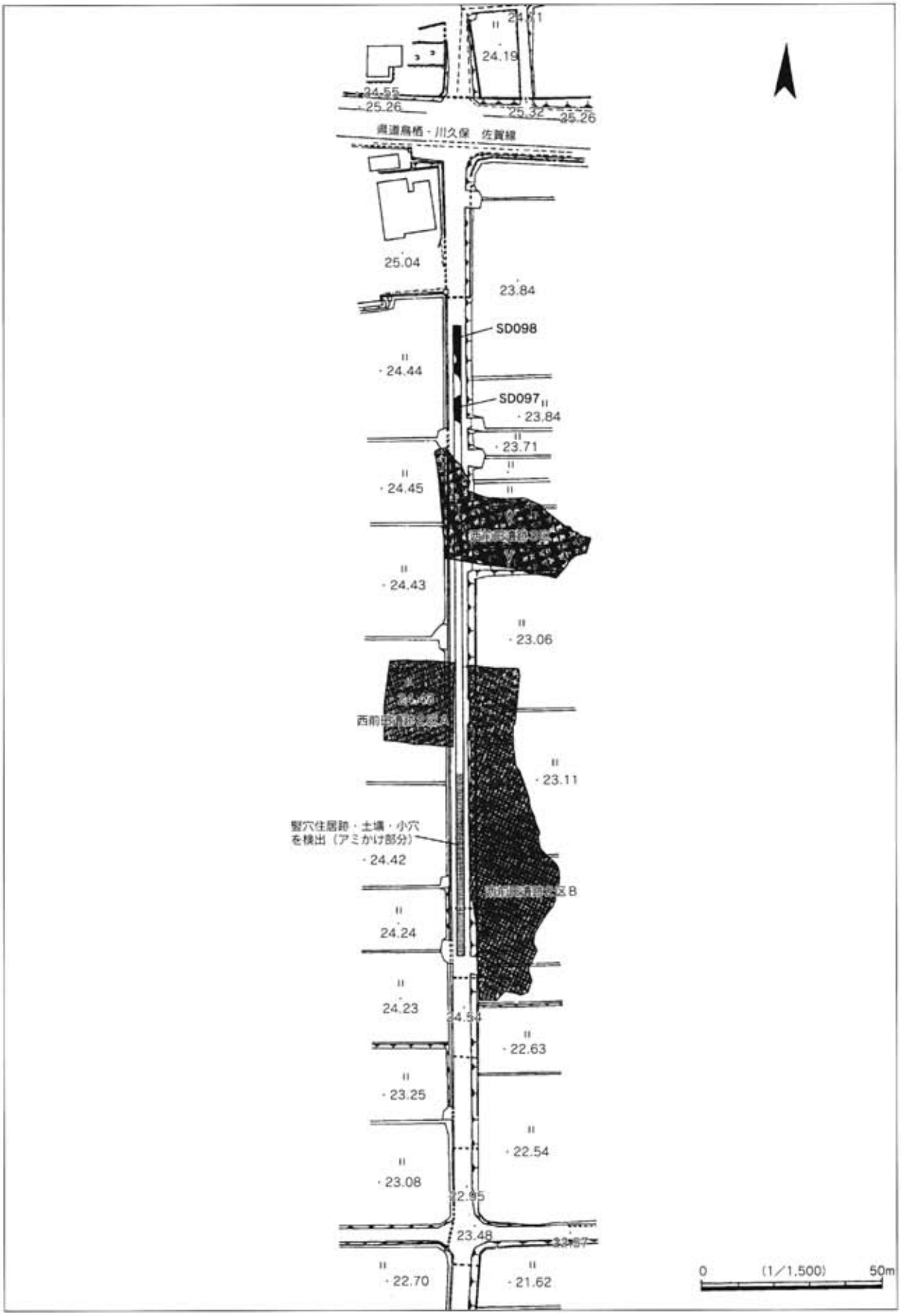


図４　東脊振村：佐賀東部地区トレンチ配置図

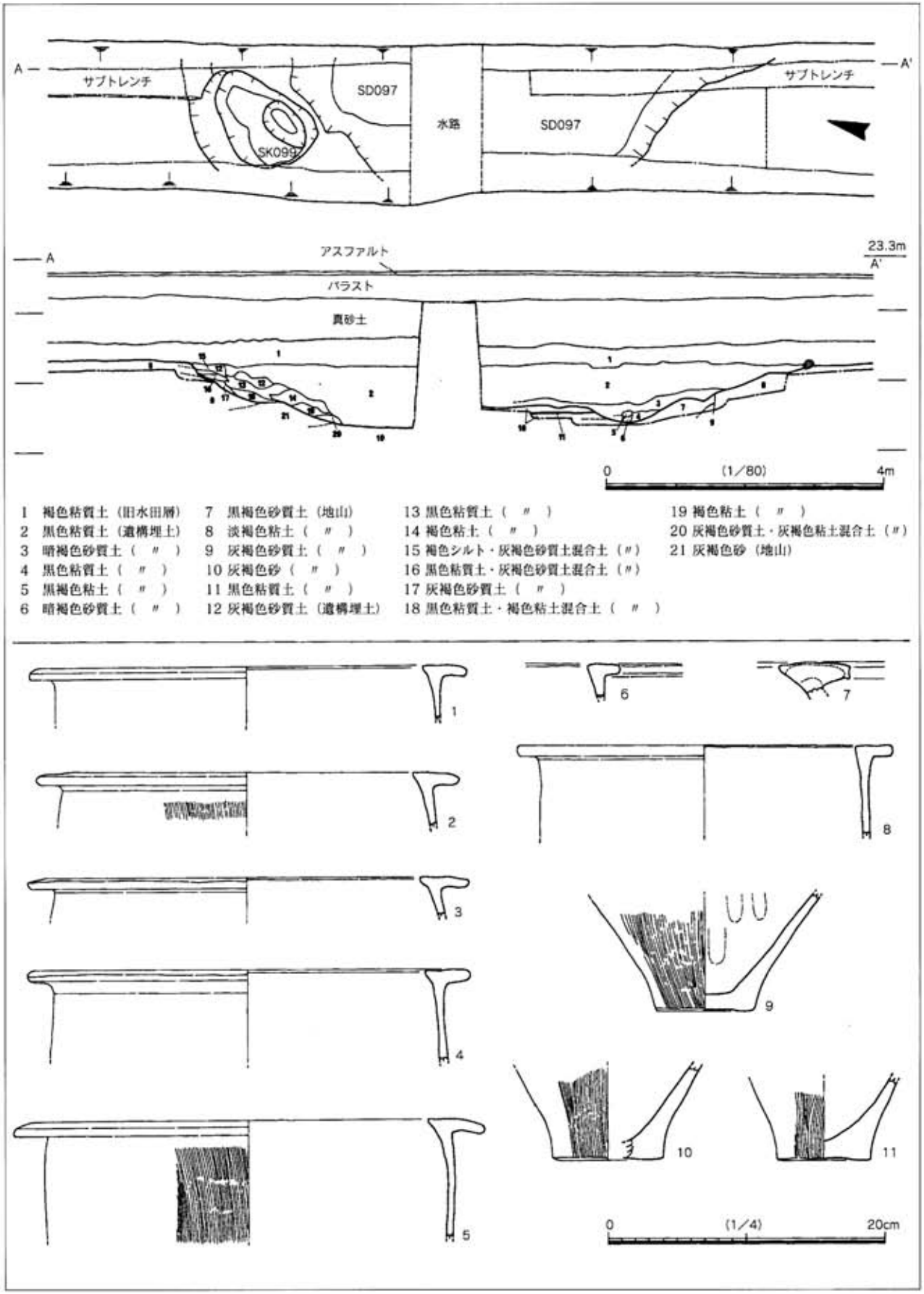


図5　SD097平面図・土層図及び出土遺物①

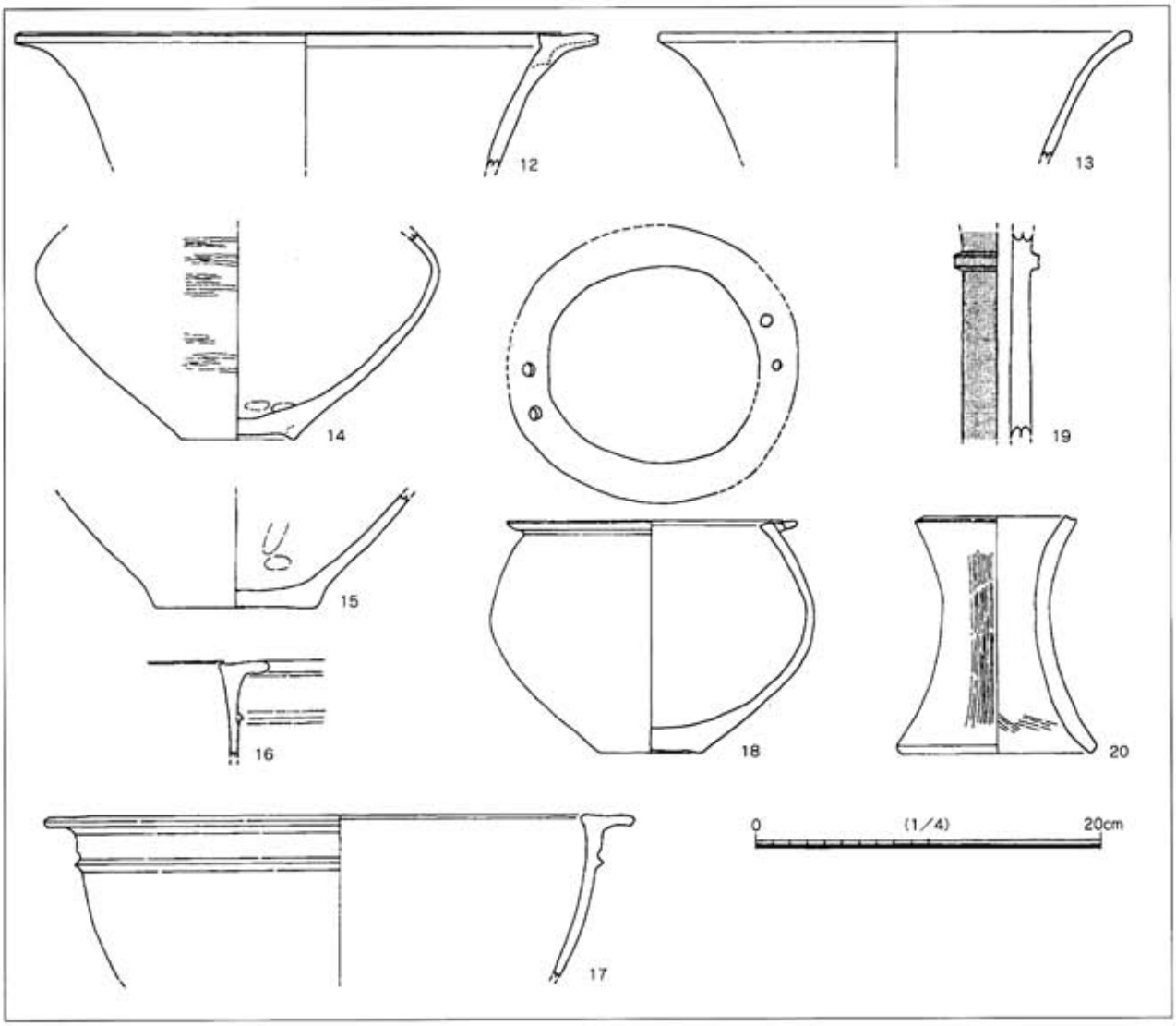


図6　SD097出土遺物②

壁体を部分的に確認しただけであるが、直角に折れる隅角の存在からいずれも平面長方形あるいは方形のプランを持つものと思われる。土壙には平面が整った方形や隅丸方形を呈し、住居跡に比べて深いものが多く見られ、東側に隣接する西前田Ａ遺跡の調査で確認されたような高床倉庫などの掘立柱建物に伴う柱穴掘り方と推定される。出土遺物は弥生土器片が9割以上を占め、6～7世紀代の須恵器片が若干量見られるほか、石包丁の破片1点が出土している。また、弥生土器の内容は9割以上が中期前半～中頃に含まれ、そのほか中期初頭・中期後半のものが少量見られる。

遺構の残存状態はかなり悪く、竪穴住居については壁面が5～10cmほど残るのみであったほか、ほ場整備調査地区の遺構と連続するものも明らかにできなかった。このことについては、特に本調査区がほ場整備の際、いくらか削平を受けていると考えられるほか、ほ場整備調査地区との間にはなお約1.5ｍの未調査部分を含んでいることにも起因するであろう。

さらにこの区間より北側についても遺構が存在する可能性が予測されたため、鳥栖・川久保線との合流地点南西側にある民家の手前までの約150ｍについて、農道の掘り下げに伴い立会調査を行ったところ、遺構の密度が急激に薄くなる区間が約95ｍ続いた後、幅約10ｍの範囲で黒褐色土からなる遺物包含層の広がり（ＳＤ097）を検出した。この遺物包含層の上面では弥生土器片が多く見られたが、掘り下げるに従ってさらにその量は増し、

完形品も数点含まれていた。遺構の埋土は底面まで同一の黒褐色土が堆積しているが、弥生土器片は上層から下層の各層位からまんべんなく出土しており、前述のとおり完形品や大きめの破片が多量に見られることから、自然堆積の過程で土器を投棄していったものと推定される。掘り下げの当初は溝状遺構との予測を行っていたものの、幅8mに対して深さが浅く(0.9m)、遺構の南北の壁面が底面より一定の傾斜で緩やかに立ち上がっていくこと、また遺構の南北の上端が、南側では南東から北西方向に伸びるのに対し、北側の上端は北東から南東方向に続き、平面形としては調査区外のすぐ西側付近で収束してしまう様相を示すことを考え合わせると、土壙状の遺構とも想定できる。いずれにしても、確認された範囲内では明らかにし難く、両者の可能性を指摘するに留めたい。

ＳＤ097からはコンテナ5箱分の多量の弥生土器が出土したが、土器に見られる形態的な時期的は小さく、主に弥生時代中期中頃を中心とし、他に中期前半・後半のものを少量含んでいる。層位の上では堆積土の層位の上位から最下位までまんべんなく中期中頃のものが出土しており、ＳＤ097埋土に掘り込まれるＳＫ099から出土した弥生土器も中期中頃のものであることを考え合わせると、当該期の比較的短期間のうちに埋没してしまったものと考えられる。なお、参考として図5・6にＳＤ097出土土器の一部を図示している。1～11は甕、このうち7は埋葬専用の中型甕、12～15は広口壺、16～18は鉢、19は高杯、20は器台である。遺物の取り上げは概ね深さ20cm毎に上層・中層・下層とし、特に遺構床面に近い位置では最下層として取り上げている。出土層位は6・8・11が上層、4・7・9・13～15・17が中層、3・10・12・18が下層、1・2・16・19が最下層からの出土である。これらの内、6が弥生時代中期前半、5・7が中期後半に位置付けられるほかはいずれも中期中頃に含まれる。

ＳＤ097のさらに北側には暗灰褐色砂質土が堆積するＳＤ098が調査区内北端まで続くが、埋土の堆積状況から遺構ではなく地形的な落ち込みと考えられ、若干量の奈良時代の須恵器・鎌倉時代の青磁の小片が出土している。特に川久保線との交差点南西側の民家東側について掘削に伴い立会調査を実施したところ、暗灰褐色粘土が厚く堆積しているのが確認されており、調査区内北側よりこの付近にかけては西光寺川の旧流路が周り込んでいたものと推定される。先述のＳＤ097は集落の中心から地形的に北側に下って行くまさに肩部付近に位置しており、仮に集落を取り巻く溝と考えればその性格についてより理解しやすいと言えよう。

所　　見　今回の調査では竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土壙・小穴など、ほ場整備に伴う調査成果に加え、溝跡の可能性を持つ遺構が新たに確認された。西前田Ａ遺跡は弥生時代中期～後期にかけての集落跡であり、その規模・継続性を鑑みれば環濠の存在も十分想定され、ＳＤ097の性格が注目されるところである。ＳＤ097付近の東西調査区外はほ場整備段階で保存された区域であることから遺構が残存している可能性が高く、隣接地における今後の調査に期待したい。

2. 佐賀西部地区の調査

(1) 佐賀市

調査対象地区名　　**県営ほ場整備事業 金立東部地区**

調査対象地所在地　　佐賀市金立町大字薬師丸字園田660-1番地ほか

調査対象面積　　10ｈａ

調査対象地区の立地　調査対象地は佐賀市北部に位置し、巨勢川中流域の東岸に相当する。脊振山地南麓の洪積台地へと続く低位段丘上に立地し、現況は水田及び畑地、標高4～5mである。

周辺の遺跡及び内容　周辺の遺跡としては調査対象地の西側、巨勢川西側には東名遺跡、北東側には下和泉一本椎遺跡、周辺の遺跡としては調査対象地の西側、巨勢川西側には東名遺跡、北東側には下和泉本椎遺跡、北東に

図７　佐賀西部地区調査地位置図（1/50,000）

1　金立東部地区
2　兵庫北部地区
3　佐賀北部２期地区
①　石土井遺跡
②　野中遺跡１区
③　野中遺跡２区
④　八ツ溝遺跡

は下和泉一本椎遺跡、北西には村徳永遺跡が存在する。東名遺跡では縄文時代早期の集石遺構・埋葬人骨、平安時代の用水路などが、下和泉一本椎遺跡では弥生時代中期後半・古墳時代前期～中期の集落など、村徳永遺跡では弥生時代後期後半の大規模な集落、中世の方形区画溝等が検出されている。

また近接する遺跡としては南西250m付近に縄文時代晩期～弥生時代前期初頭の遺物包含層が確認された薬師森遺跡があるほか、平成10・11年度には同事業に伴い上九郎・石土井遺跡の発掘調査が実施され、上九郎遺跡では弥生時代及び中世の集落跡を、石土井遺跡では弥生時代の集落跡、平安時代の溝などが確認されており、遺跡の密度が極めて高い地区である。

調査方法及び内容　調査対象地のうち、工事によって影響を受ける水路及び切り土部分（高畑）についてトレンチA1～A46、B1～52を設定した。各トレンチで遺構・遺物の有無を確認した後、土層略図・平面略図を作成、写真撮影等の記録保存を実施した後に埋め戻しを行った。トレンチA1～A4・A7・A12・A17・A18・A29・A33～A44・A47～A50・A52、B6・B8・B9・B20・B24～B30・B34・B36・B37・B39・B40・B43・B45で遺構を検出した。遺構の密度は比較的高く、その内容は土壙・溝・小穴などで、出土遺物としては弥生土器・土師器片・須恵器片・瓦器片・青磁片・白磁片が出土した。

所　　見　調査対象地で約93,000㎡の遺構の広がりを確認した。遺構の広がりの西側・北側では弥生時代の遺構、南側では平安時代～中世の遺構が主体であると考えられる。

調査対象地区名　　**県営ほ場整備事業 兵庫北部地区**
　　国営幹線水路徳永線

調査対象地所在地　佐賀市兵庫町大字若宮字野中

調査対象面積　　24.1ｈａ（うち徳永線延長240m）

調査対象地区の立地　調査対象地は佐賀市北部に位置し、巨勢川中流域の東岸に相当する。金立東部地区の位置する低位段丘から南に広がる沖積低地上に位置し、現況は水田、標高約4mである。調査対象地区内に傍示・立野・野中の集落が含まれる。

周辺の遺跡及び内容　周辺の遺跡としては調査対象地の西側、巨勢川西側の東淵の集落付近には淵川城跡・淵遺跡など中世の遺跡が、また調査区南側、野中の集落より南側には野中遺跡が分布するが、北側及び東側の隣接地区では遺跡は確認されていない。

調査方法及び内容　施工内容は水路・農道の新設等による区画整理であり、面工事については切り土が行われないことから、掘削部分となる水路部分についてのみ確認調査を実施した。また、施工地区の中央付近に国営事業である幹線水路徳永線が計画されており、当該地についても同時に調査を行った。

調査はバックフォーを用いて行い、対象地にNo.1～85の計85本のトレンチを設定した。ほとんどのトレンチで耕作土・床土を除去した時点で青灰色の粘土の厚い堆積が見られた。確認された遺構は旧クリーク（No.40）とこれに伴うと思われる溝が一部確認された（No.54）のみで、集落等に伴うと思われる明確な遺構は確認されなかった。また、出土遺物についてはNo.2トレンチ耕作土より陶器、No.11・20トレンチより土師器・染付、No.40トレンチより染付が見られたが、いずれも耕作土・床土からの出土であり、小片・細片である。なお、傍示の集落に近い部分の一箇所のみ（No.20）で灰褐色シルトからなる安定した基盤層を確認しており、遺構は確認されていないものの、現況集落付近には遺跡が存在する可能性が高い。また、立野集落の北・西・東側の隣接地については確認を行った範囲では安定した基盤層は確認されておらず、遺跡の存在についての手がかりは得られなかった。

図８　佐賀市：金立東部地区トレンチ配置図

図９　佐賀市：兵庫北部地区・幹線水路徳永線トレンチ配置図

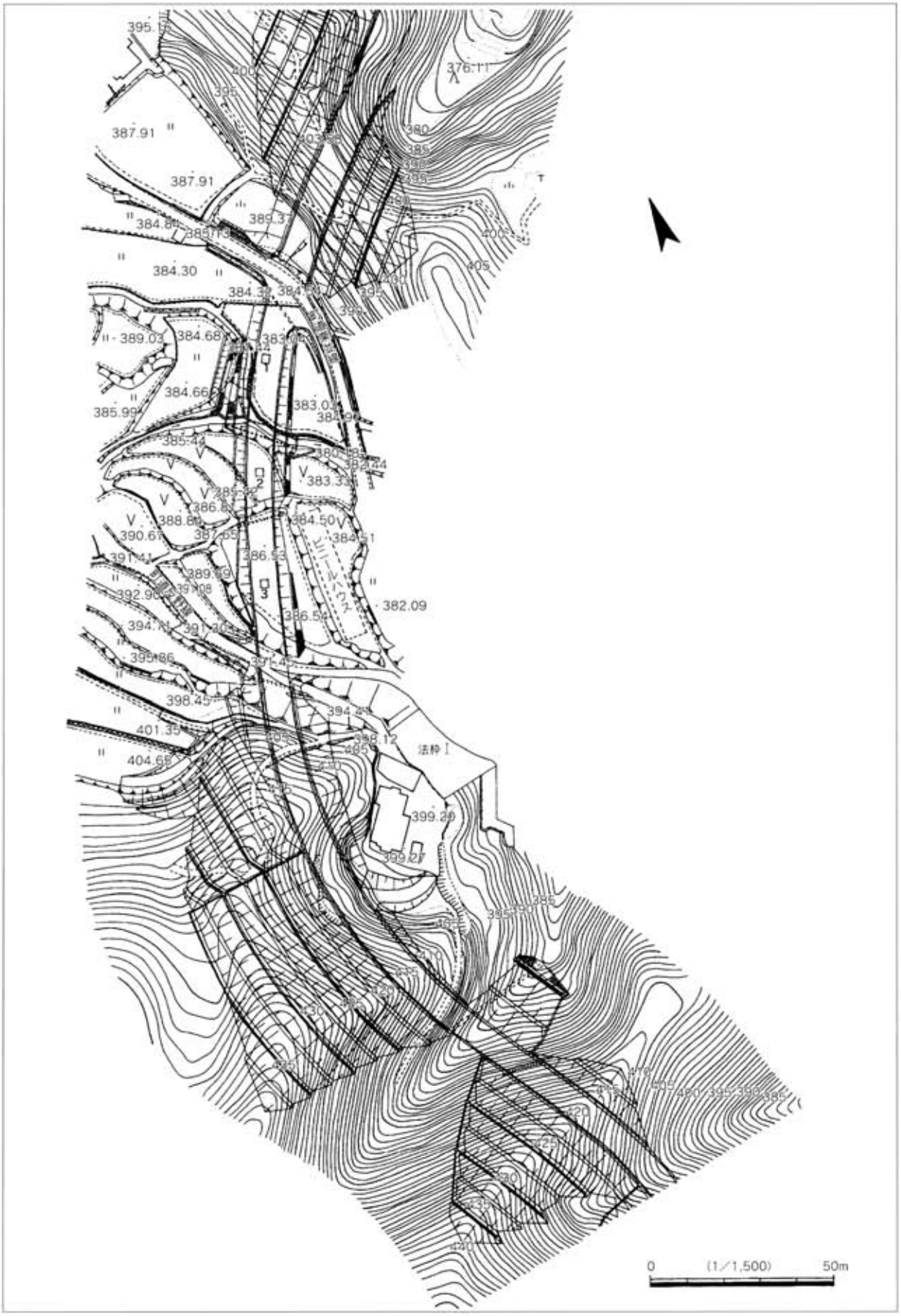


図10　富士町：佐賀北部２期地区トレンチ配置図

所　　見　調査対象地内では遺構の存在は確認されなかったが、西側の傍示、あるいは南側の野中集落付近に中世以降の遺跡が存在している可能性が推定される。

(2) 富士町

調査対象地区名　　**広域営農団地農道 佐賀北部2期地区**

調査対象地所在地　佐賀郡富士町大字栗並字2028-1番地ほか

調査対象面積　　0.2ｈａ

調査対象地区の立地　栗並川の支流によって開かれた谷間の平地にあたり、標高390ｍ程の南に開けた集落内棚田である。

周辺の遺跡及び内容　近接する遺跡はないが、栗並川を下った馬場集落周辺には縄文時代の散布地である九郎遺跡が所在しており、平成7年には国道取り付け道路建設に伴い発掘調査が実施され、縄文時代前期（轟Ｂ式併行）の集石遺構・遺物包含層が確認されている。

調査方法及び内容　広域農道建設によって影響を受ける範囲のうち、遺跡の存在の可能性が考えられる丘陵緩斜面について2ｍ×2ｍの規模のトレンチ3箇所を設定した。掘り下げは人力によって行い、No.1トレンチでは旧水田上に盛られた造成土を厚さ0.7ｍ程度確認し、その下層で灰色粘性土からなる基盤層を検出した。No.2トレンチでは床土下よりすぐに風化花崗岩の基盤層が現れ、小穴・土壙を検出したが、埋土は床土と同質であり、水田造成時の遺構と推定される。No.3トレンチではNo.1トレンチと同様、水田造成土を厚さ0.5ｍ確認し、旧水田下は二次堆積による礫層であった。出土遺物はNo.1トレンチの下層水田耕作土より青磁片、No.2トレンチの小穴埋土から磨耗した土師器片、No.3トレンチ下層水田の耕作土より黒曜石、床土より黒曜石・陶器片・染付片が出土している。

所　　見　No.2トレンチから水田造成時と思われる遺構が検出されたほかは明確な遺構は確認されておらず、遺跡が存在している可能性は少ないと考えられる。しかし、出土遺物中には黒曜石のほか陶磁器片等がみられ、周辺部に縄文・中世～近世の遺跡が存在する可能性が高いと思われ、引き続き周辺部への開発には注意を要すると思われる。

3. 佐賀南部地区の調査

(1) 武雄市

調査対象地区名　　**農林漁業用揮発油税財源身替農道 武雄北部2期地区**

調査対象地所在地　武雄市武内町大字真手野字内田24533-1、24535-1、24538-2ほか

調査対象面積　　1.0ｈａ

調査対象地区の立地　竹古場山（303.1ｍ）の南麓、東西に流れる小規模な河川によって形成された狭い谷部に面した丘陵裾部（標高約100ｍ）に位置する。

周辺の遺跡及び内容　竹古場山南麓には谷部の平野と接する丘陵裾部に西から大谷窯跡（国史跡）・古屋敷窯跡・小峠窯跡（国史跡）など近世陶磁器窯跡が分布している。それぞれの窯については武雄市教育委員会により確認調査が実施されており、大谷窯については17世紀後半、古屋敷窯・小峠窯については17世紀前半に位置付けられている。いずれも窯体下部が比較的良好に遺存しているが、古屋敷・小峠窯については胴木間付近に現況農道が走り、既に削平されて失われているものと推定される。

調査方法及び内容　工事は現況農道を拡幅し、さらに舗装工事を行うものである。農道の拡幅はほとんどが谷側

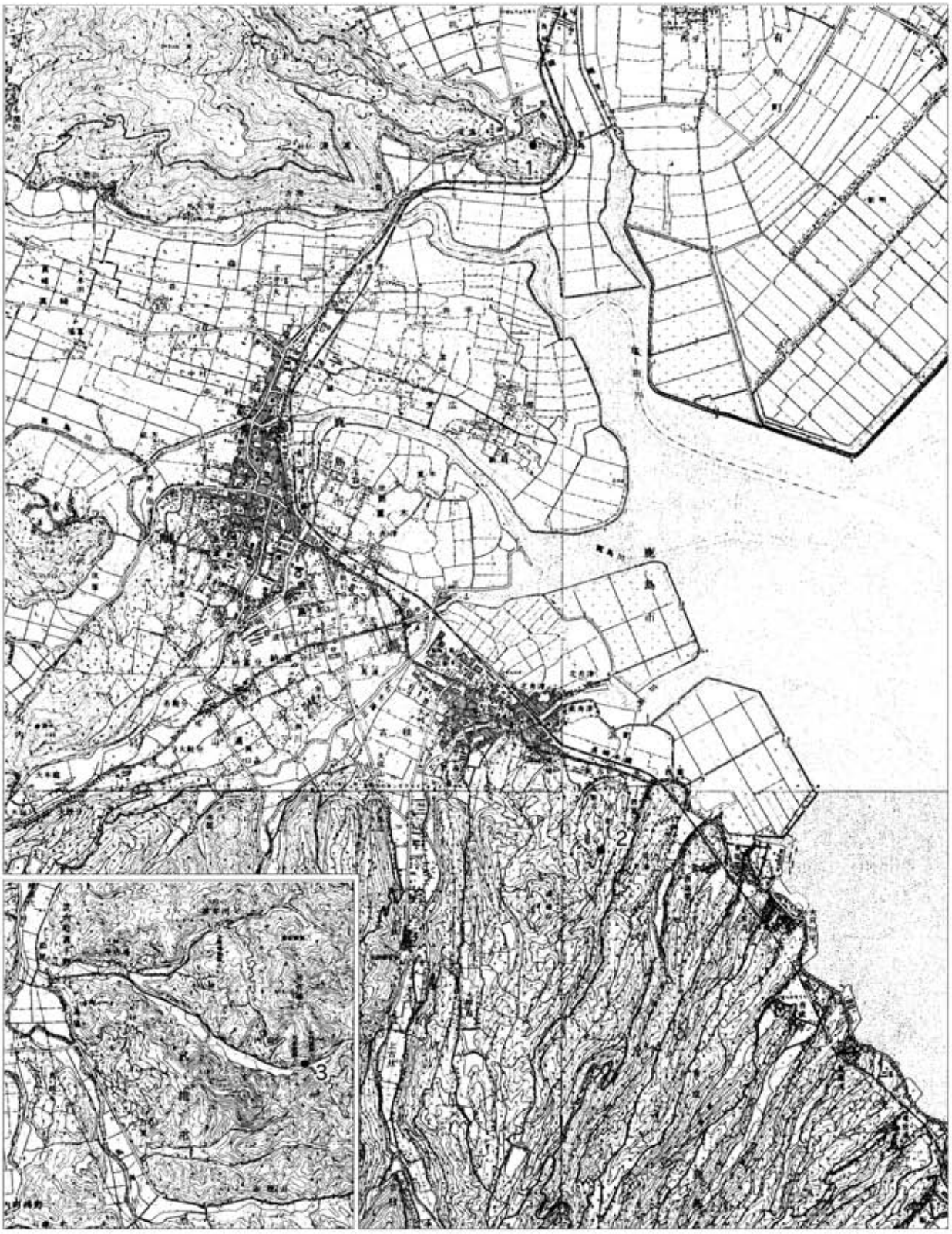


図11　佐賀南部地区調査地位置図（1/50,000）

1　龍王溜池　　2　多良岳２期　　3　武雄北部２期

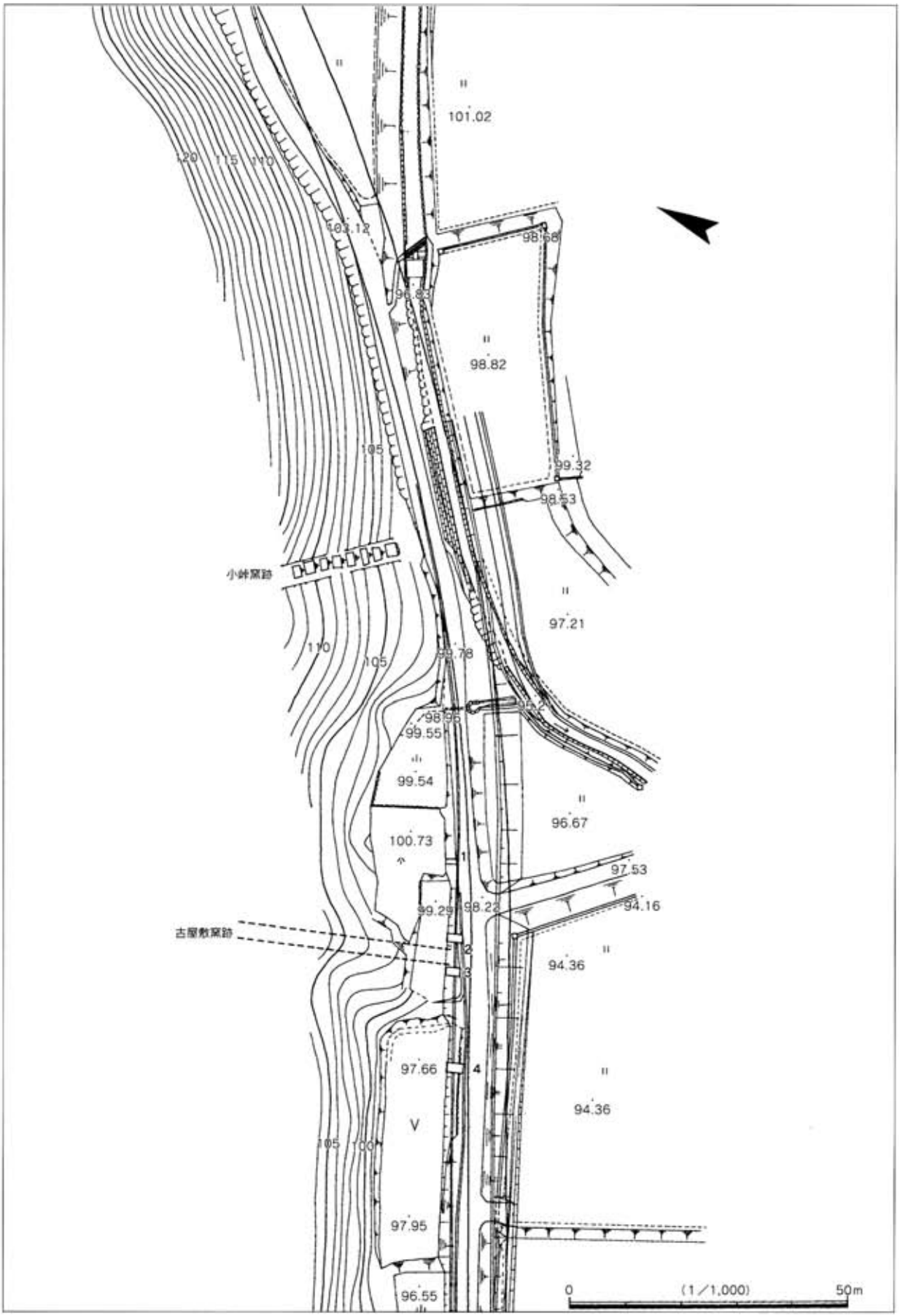


図12　武雄市：武雄北部２期地区トレンチ配置図

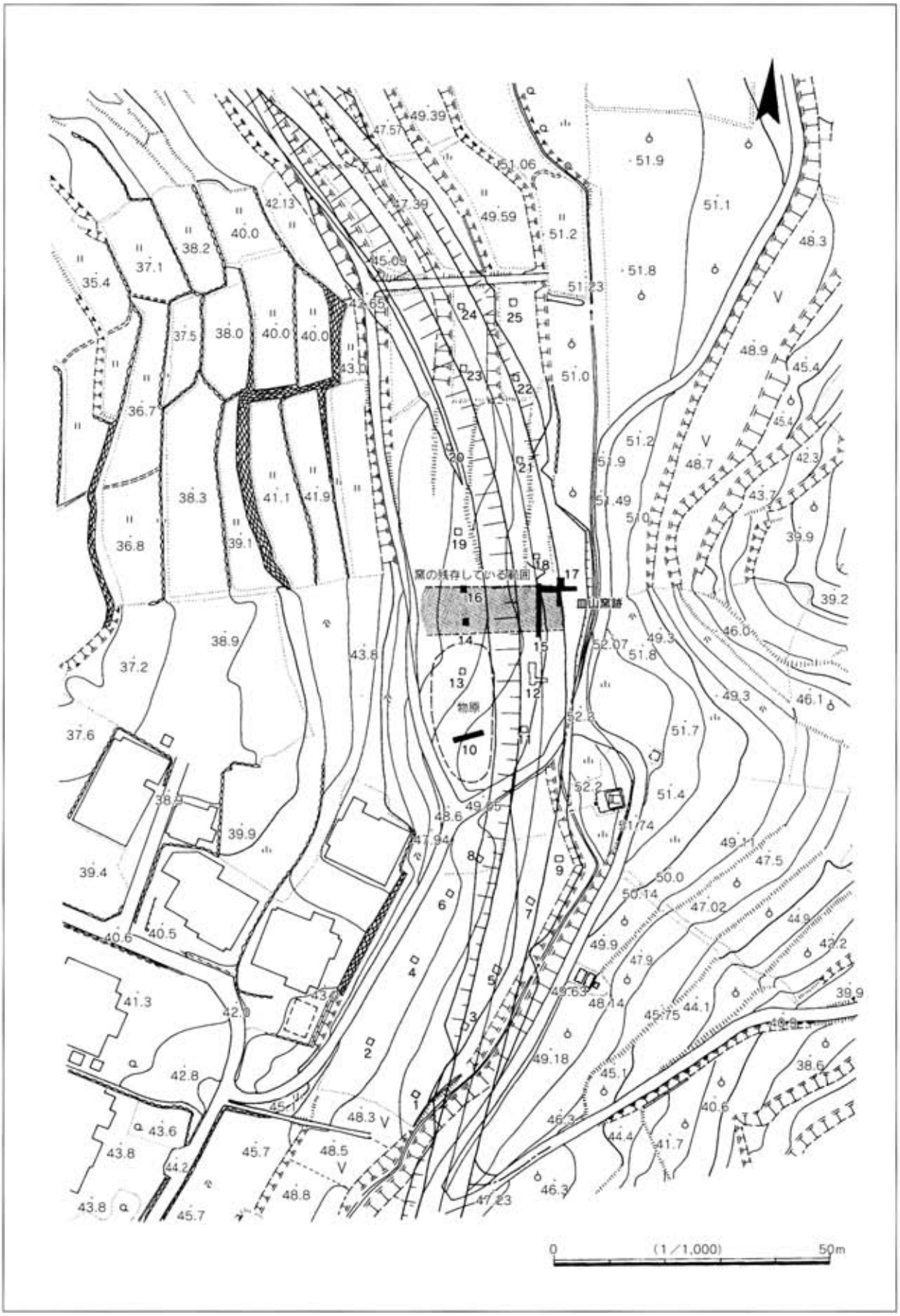


図13　鹿島市：多良岳２期地区トレンチ配置図

（南側）への盛土であるが、山側（北側）についても部分的に切土及び法面成形を行う箇所があり、特に古屋敷窯については法面裾から2.5～3.0mの範囲を掘削する予定であった。古屋敷窯の確認調査トレンチでは農道の法面裾部から約2mの付近まで焼成室が残存していることが確認されていたが、施工によって遺構に影響を及ぼすかどうか微妙なところであったため、農林担当部局と協議の結果、工事実施前に確認調査を実施することとした。

調査は対象地にNo.1～4の四つのトレンチを設定し、バックフォー及び人力によって掘削を行った。その結果、窯体を構成していたと思われる焼土が部分的に見られたほかは明確な遺構は見られず、窯体については既に失われていることが明らかとなった。なお、出土遺物としてはNo.1～4トレンチで絵唐津を含む陶片が出土した。

所　　見　古屋敷窯については施工範囲内に遺構は残存しておらず、本調査の必要はないものと考えられる。また、大谷窯跡については南東に広がる物原、小峠窯跡については焼成室相当部分が法面工事の対象となるが、いずれもより小規模の掘削に留まるため、工事立会によって確認を行うこととしている。このほか、小峠窯跡付近の農道南側では河川の切替工事が平成12年度に計画されており、遺構の存在する可能性は低いものの、陶磁器片等が散布していることが予想されるため、工事施工前に確認調査を実施する予定である。

なお、確認調査の実施については市内遺跡確認調査費（国庫補助事業）で対応しており、調査結果については武雄市教育委員会より県文化財課に提出された確認調査結果報告書に基づいている。

(2) 鹿島市

調査対象地区名　　**広域営農団地農道整備事業 多良岳2期地区**

調査対象地所在地　鹿島市浜町字皿山甲1066番地ほか

調査対象面積　　0.5ｈａ

調査対象地区の立地　多良岳山系から北に細く幾筋も延びる狭い尾根のひとつ、新方の集落から登った緩やかな尾根の東側斜面で標高50m前後、現況は雑木林・竹林・畑地である。

周辺の遺跡及び内容　対象地は明治初頭から明治～大正年間に操業された陶磁器窯であり、平成4年度に九州陶磁文化館により確認調査が実施され、窯体を5室以上確認しているが、窯体全体の範囲、物原の範囲等は明らかにされていない。

調査方法及び内容　物原の範囲・あるいは別の窯の有無を把握するために、開発対象地区に28ケ所のトレンチを設定し、人力により掘削を行った。また、以前に遺構が確認された旧トレンチを拡張し、遺構の範囲を確認した。その結果、No.10・13トレンチで物原の堆積を確認、No.14～17トレンチで窯床面を検出した。またNo.12トレンチでは小穴数個を検出した。また、出土遺物として明治～大正年間の染付、窯道具等を多数採集した。

所　　見　窯はトンバイ等がほとんど抜き取られているが、床面が良好に残っている。また、焼成室は3室以上残存していると考えられる。開発計画では窯体の大半と物原の一部が対象地に含まれているが、農林部局と協議の結果、路線変更等による保存措置が困難なため、開発が及ぶ範囲については平成12年度以降に本発掘調査を実施することとしている。

(3) 有明町

調査対象地区名　　**溜池改修工事 龍王溜池**

調査対象地所在地　杵島郡有明町大字深浦字平山

調査対象面積　　0.4ｈａ

調査対象地区の立地　杵島山系の白岩山（340.3m）から白石平野に向かって東に細く伸びる丘陵端部付近に位置する。この付近で丘陵尾根は南北に小さく二つに分かれて伸びるが、調査対象地はこの尾根に挟まれた狭い谷

部に位置しており、標高約20m、施工対象である溜池はこの谷を堰き止めて造られた農業用溜池である。

周辺の遺跡及び内容　調査対象地の北側尾根上には龍王崎古墳群（県史跡）・龍王峠古墳群が、南側尾根上には龍王峠南古墳群が位置する。溜池全体は龍王峠古墳群の周知内に含まれるほか、溜池堤の吐口側に位置する竜王の集落付近には縄文時代の散布地である竜王遺跡が存在する。

調査方法及び内容　龍王溜池は、下流域の水田50ｈａの灌漑用水を確保するために設けられ、室島土地改良区により管理されている。現況の堤体の規模は、谷を塞ぐ形で南北に約60mの長さがあり、高さは約9m、基底部幅約28m、法面は土羽であるが、堤体外側は下部に8～10段の石積みを行い、最下部に吐口を設けている。取水施設として堤体のほぼ中央に底樋を敷設し、堤体内側の法面に沿って斜樋を備え付け、呑口部付近で底樋に連結している。余水吐（野越）が堤体南端に造られ、護岸は石垣、底面も護岸と同様の大きめの石を使った石敷きである。堤体外側法面に沿って下り、吐口前面近くで用水路と合流する構造になっている。溜池は一見したところ強固なものに見えるが、堤体内法の侵食が激しいこと、余水吐の破損が著しいこと、底樋や斜樋も老朽化し接合部からの漏水があることに加え、堤体法尻からの漏水も確認されたことから、このままの状態では堤体の崩壊や洪水の危険性が高く、下流域には人家が密集していることもあり、堤体及び底樋の改修が計画されるに至った。龍王溜池の築造時期は明らかでないが、堤体外側の石垣や余水吐の石垣構築の状況から見て、近世の所産の可能性が高いため、またこのような溜池の状況が掴めずにいたため、調査を行う方向で農林部局と協議した。ただし、改修工事は稲作への影響や大雨をもたらす台風シーズンを避けるため、極めて工事期間が制約されることから、

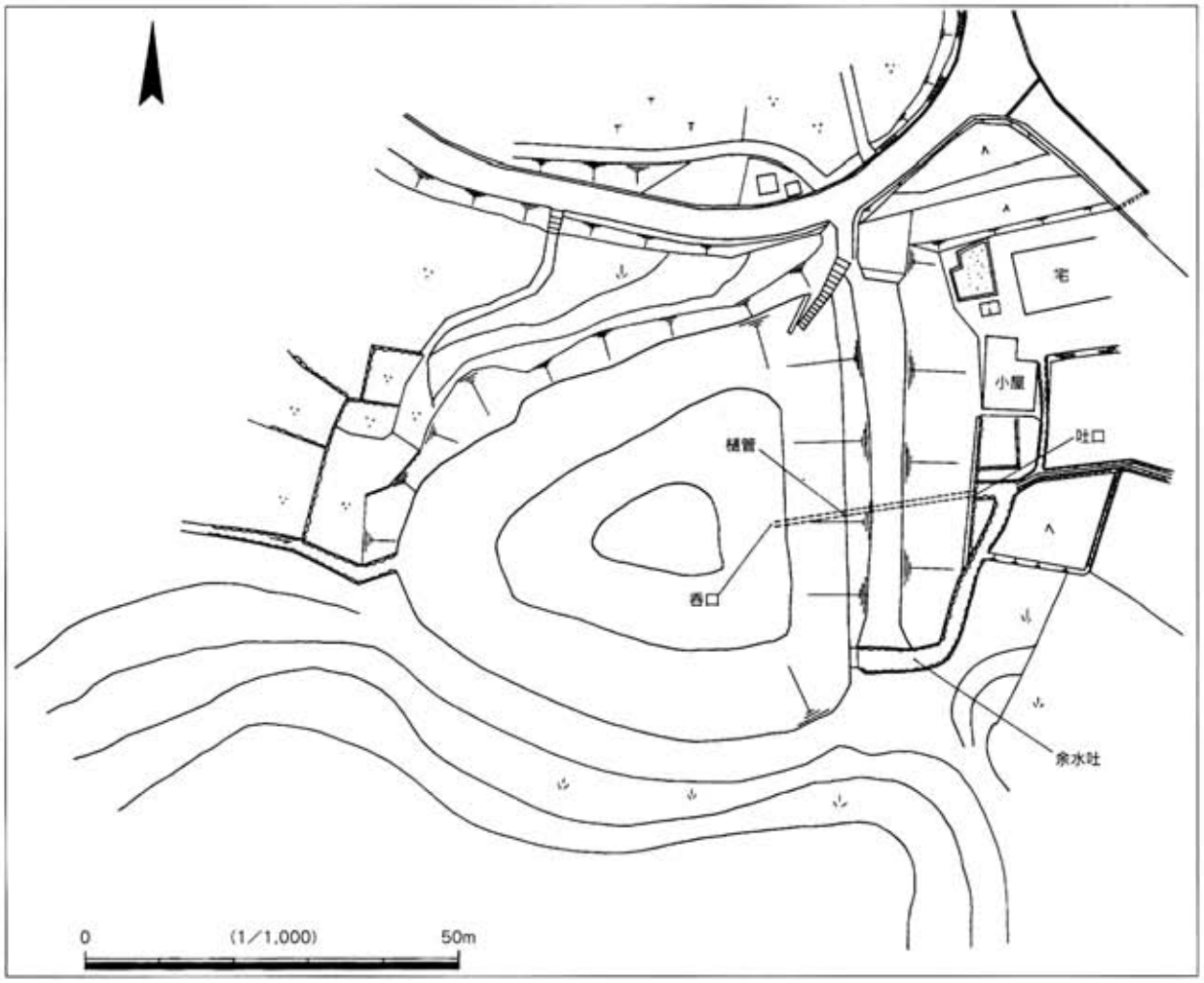


図14　有明町：龍王溜池現況図

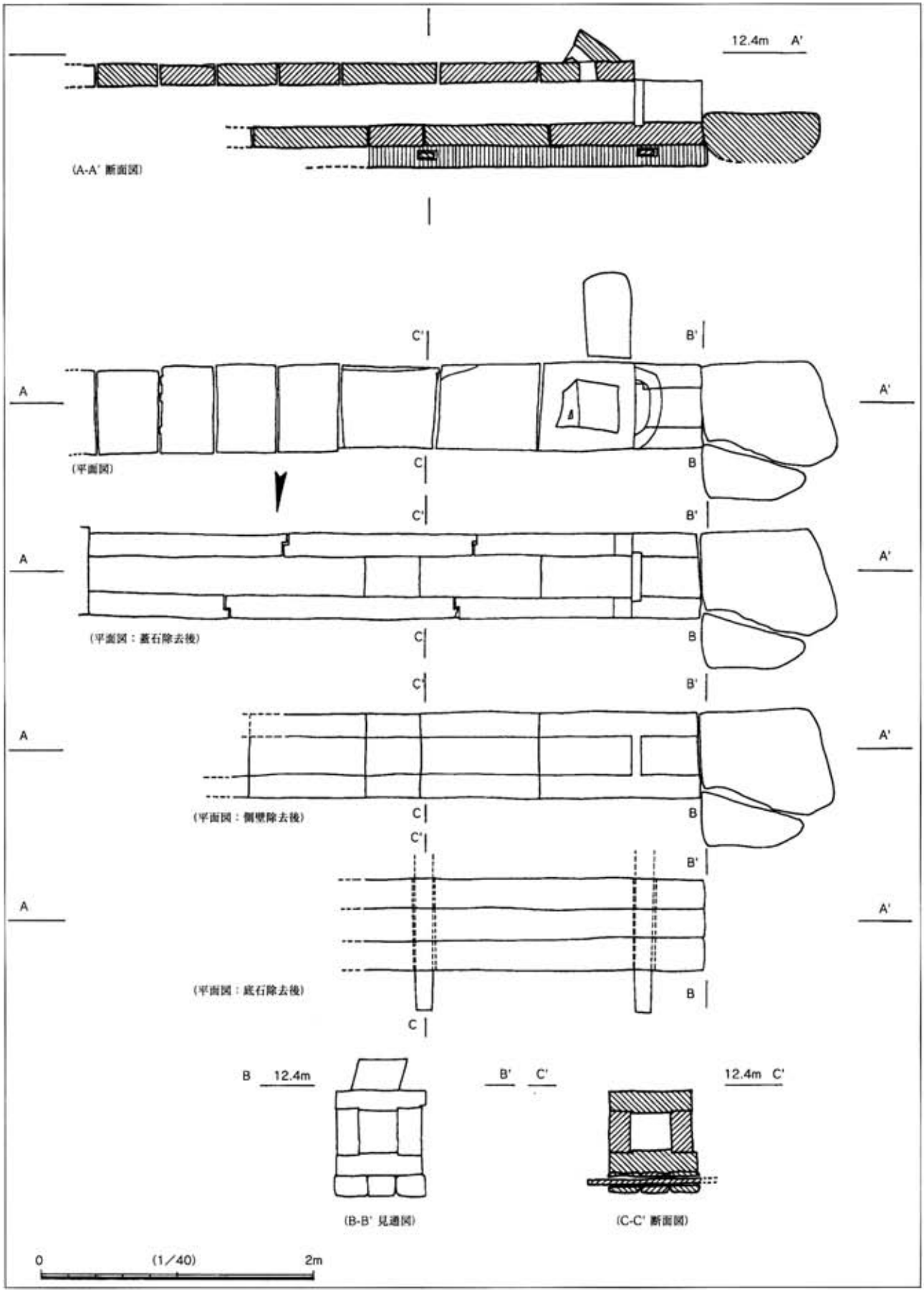


図15　龍王溜池底樋呑口付近概要図

龍王溜池全景　（西から）

余水吐（野越）近景　（東から）

堤体外側石垣及び吐口近景　（東から）

堤体内側石垣検出状況　（西から）

斜樋近景　（北西から）

底樋検出状況　（北から）

底樋（蓋石除去後）検出状況　（西から）

底樋呑口付近検出状況　（西から）

図版１　龍王溜池調査状況

調査は底樋の状況確認や堤体の断面観察を中心に行うこととなった。工事の進捗状況に合わせ、堤体内側の底樋呑口付近の調査から始めたが、溜池内部の泥土及び堤体の流出土除去作業状況の途中、底樋北側に石垣が新たに確認されたため、工事で影響の及ぶ範囲について石垣の検出を行った。石垣は割石を用い、堤体に沿って12m＋α、7段以上積んでいる。天端から約1.5m下の石積みラインが揃っており、石垣上部は継ぎ足したものと考えられる。底樋は厚さ約0.17mの切石を組んで造っている。基礎は、板を3枚並べ、途中にほぞを切り横木で繋ぎ止めている。その上に底板石を敷いているが、側壁の板石をきっちり組み合わせるため、両側は側壁の幅分一段彫り込んでいる。側壁自体も、石と石の接合部は鈎状に造り組み合わせている。蓋石は、側壁との接合部分を凸状に彫り込んだものをのせている。蓋石の接合部や側壁の外壁には二和土を詰め、目張りをしている。底樋の内法は、幅・高さとも約0.3m（1尺）である。底樋は呑口部から約20.2mまでは板石を組み合わせた構造（約16.8mから東は側壁の外側にさらに割石を置いている）だが、それより東側は側壁及び蓋石に割石を用い、底石はなく、素掘りのままである。底樋の構造が違う付近には、堤体の中から石垣が確認（堤体内側石垣とほぼ同様の石積み）されており、堤体を造り替えたことが窺われる。

所　　見　今回の調査は、工事期間との兼ね合いもあり十分な調査ができなかったが、堤体の改築や底樋構造を明らかにできたことは、他の溜池の構造を考える上でも大きな成果と言える。龍王溜池の築造時期については不明であるが、用水の受益地である龍王崎の干拓地の内、竜王搦は古い段階のものであり、寛永16年（1639年）の『鍋島勝茂覚書』（「多久家文書」佐賀県資料集成第10集）に竜王崎開所のことが書かれていることや、石垣の石材や積み方なども江戸時代でも比較的早い段階の様相を示していることから、勝茂時代にはこの溜池が造られ、その後の干拓地の増加に伴う用水確保のため、堤体の改修が行われたのではないかと考えられる。

4. 佐賀北部地区の調査

(1) 伊万里市

調査対象地区名　　**基盤整備促進事業 煤屋地区**

調査対象地所在地　伊万里市波多津町大字煤屋字皆治ケ浦

調査対象面積　　0.2ｈａ

調査対象地区の立地　当該地区はリアス式海岸地形が発達しており、対象地は岬状に海に突き出した、三つの丘陵の尾根上にあたる。海岸部との間は斬壁となっており、海面からの高さは約10～15m、現況は雑木林である。

周辺の遺跡及び遺跡　調査対象地区に近接する遺跡はないが、周辺部では田ノ浦遺跡・向潟遺跡など、同様に岬状に突出した丘陵先端部に縄文時代の散布地が多く見られる。

調査方法及び内容　調査対象地に対して、1m×2m及び2m×2mのトレンチを7箇所設定し、人力により掘削を行った。表土下はいずれも明黄褐色土の地山であり、遺構・遺物共に確認されなかった。

所　　見　確認調査においては遺構・遺物共に確認されず、地形的にも尾根の幅が狭く、比較的傾斜が急なことから調査対象地区内に遺跡の存在する可能性は低いと考えられる。

調査対象地区名　　**地すべり防止事業 峰地区**

調査対象地所在地　伊万里市山代町久原字馬洗川

調査対象面積　　18.59ｈａ

調査対象地区の立地　伊万里湾の西側、長崎県との県界にある国見岳（495.9m）から東に派生する尾根である城山（346.8m）の南側に面した丘陵斜面にあたる。周辺部はやや急峻な地形であるが当該地付近は斜面が一端

図16　佐賀北部地区調査地位置図①
(1/100,000)

1　煤屋地区
2　峰地区
3　小木原線
4　浅井谷線

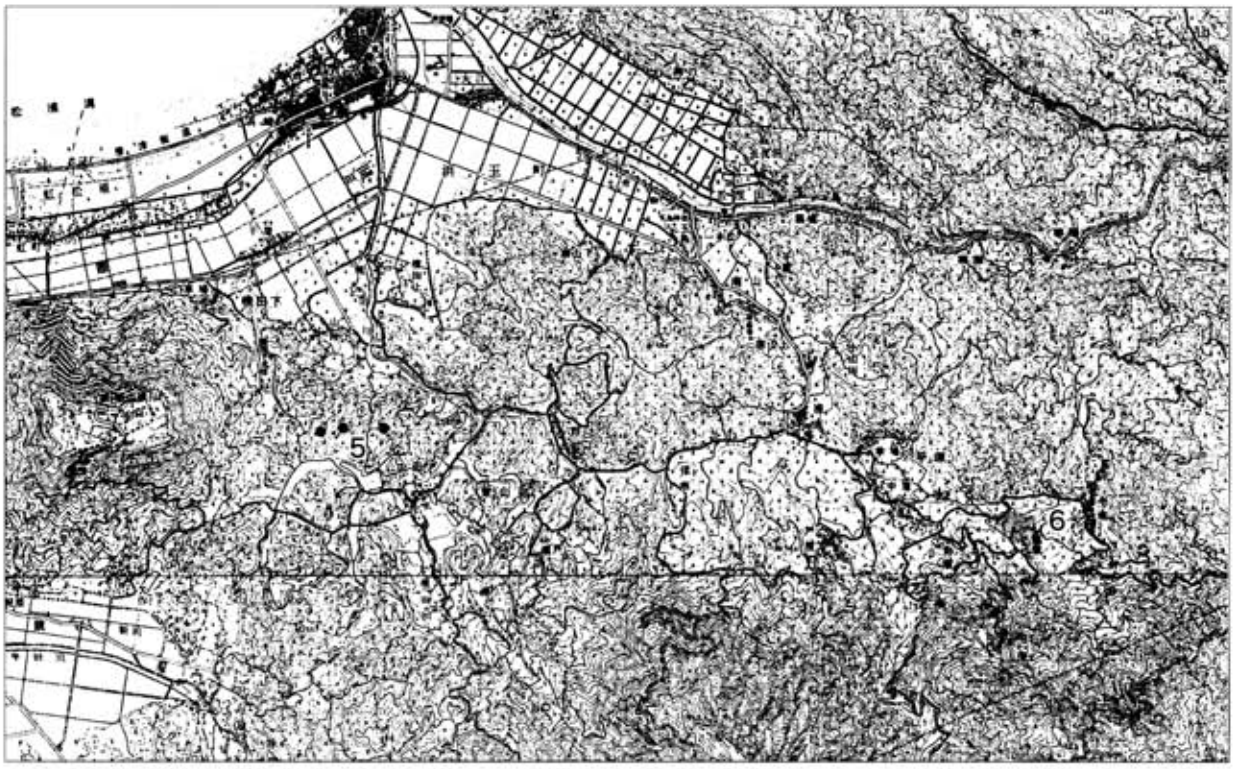


図17　佐賀北部地区調査地位置図②

5　ひれふり地区　　6　今坂地区

緩やかになる部分で、標高は約250m、現況は山林となっている。

周辺の遺跡及び内容　調査地点は楠殿屋敷跡として周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。城山は松浦党主源四郎大夫直によって築かれたとされる飯盛城（山代城）跡であり、曲輪・堀切等が残存する。飯盛城の各曲輪には「権現屋敷」「シャアドン屋敷」「勘左エ門屋敷」等の呼称が残っており、「楠殿屋敷」についても飯盛城との何らかの関連性が指摘できるが、もとより伝承の域は出ない。

調査方法及び内容　1m×1m、1m×2m、2m×2mのトレンチ28本を設定し、手掘りにより掘削を行った。トレンチの多くで表土下より基盤面である人頭大・拳大の礫が見られ、遺構は確認されなかった。出土遺物としては黒曜石数点が検出された。

所　　見　地形的に中世山城関連の遺構の存在が予想されたが、明確な遺構は確認されず、遺跡が存在する可能性は低いものと考えられる。

調査対象地区名　　**ふるさと林道緊急整備事業　小木原線**

調査対象地所在地　　伊万里市二里町大里字小木原

調査対象面積　　0.2ｈａ

調査対象地区の立地　石器の原材料としての黒曜石の産地として知られる腰岳（487.7m）の北北西側山腹、標高190mの斜面上に立地する。調査対象地は傾斜の緩やかな尾根上にあたり、現況は山林、俗に千畳敷と呼ばれる平地状の緩斜面からやや北北西に下った部分にあたる。

周辺の遺跡及び内容　腰岳の黒曜石は主に北西側の山麓に散乱しており、千畳敷付近から頂上部に向かって登った付近が現地表面で最も多く見られる。調査地点より南約600mには寛永元年に建立された曹洞宗の広厳寺跡が

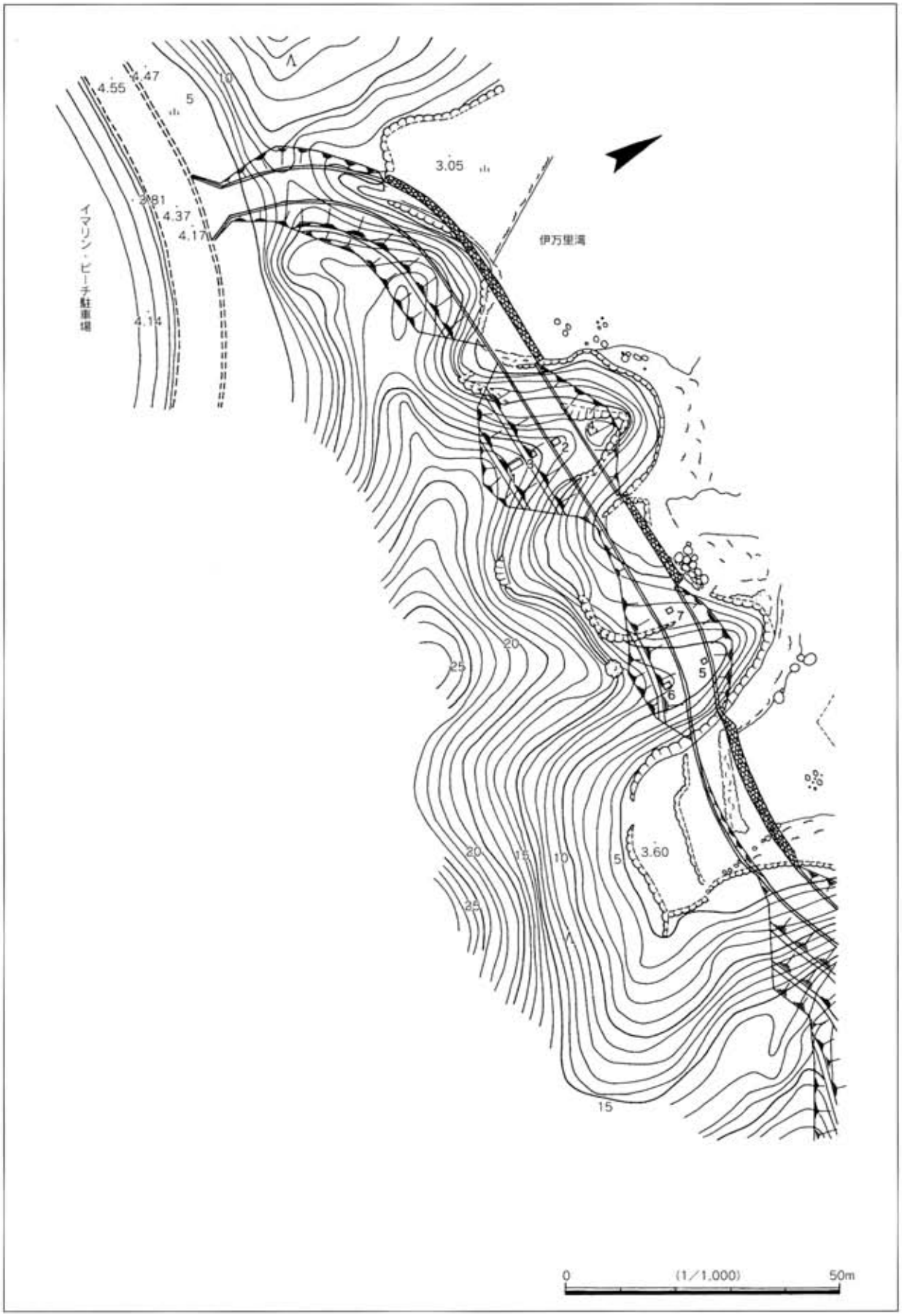


図18　伊万里市：煤屋地区トレンチ配置図

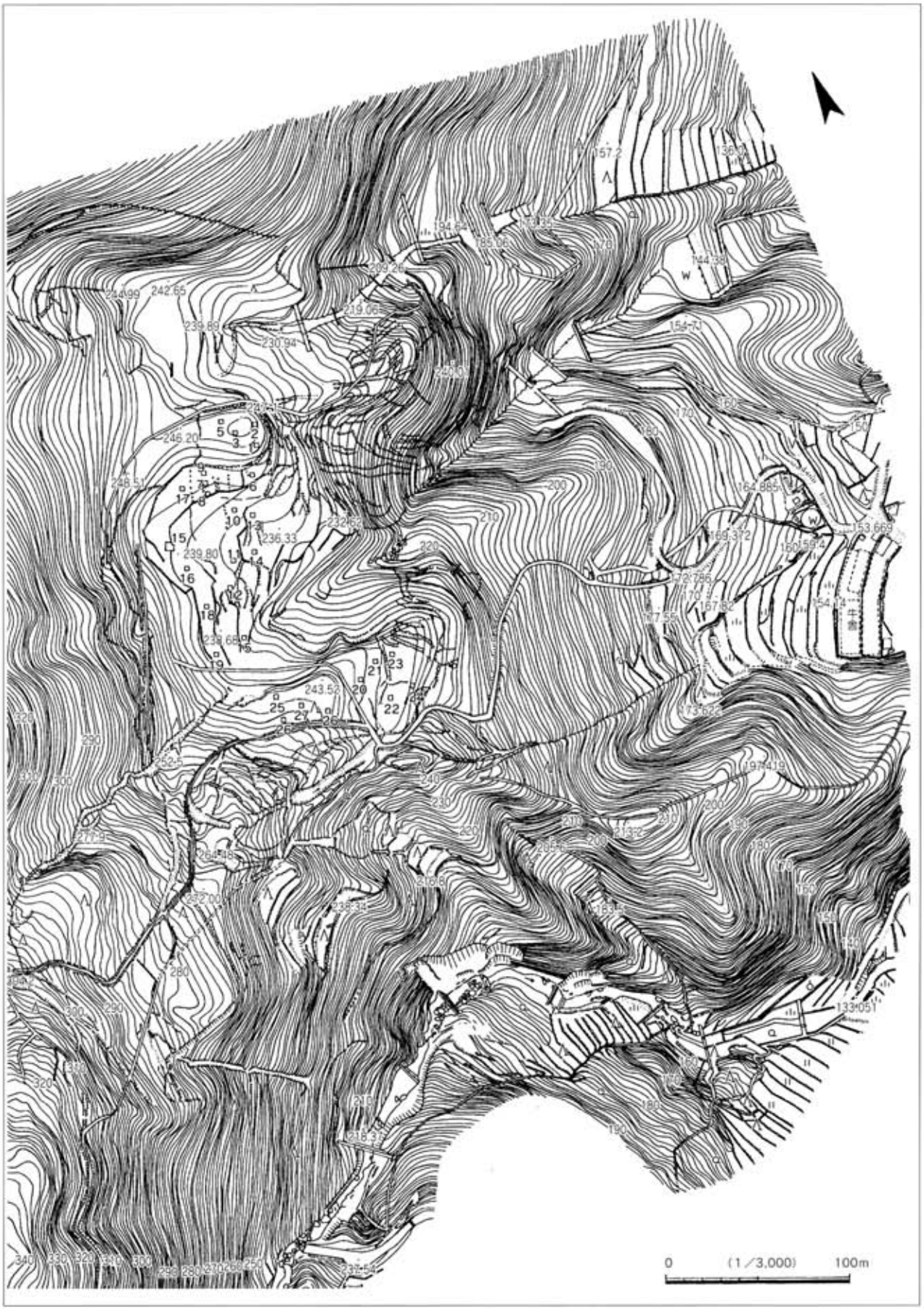


図19　伊万里市：峰地区トレンチ配置図

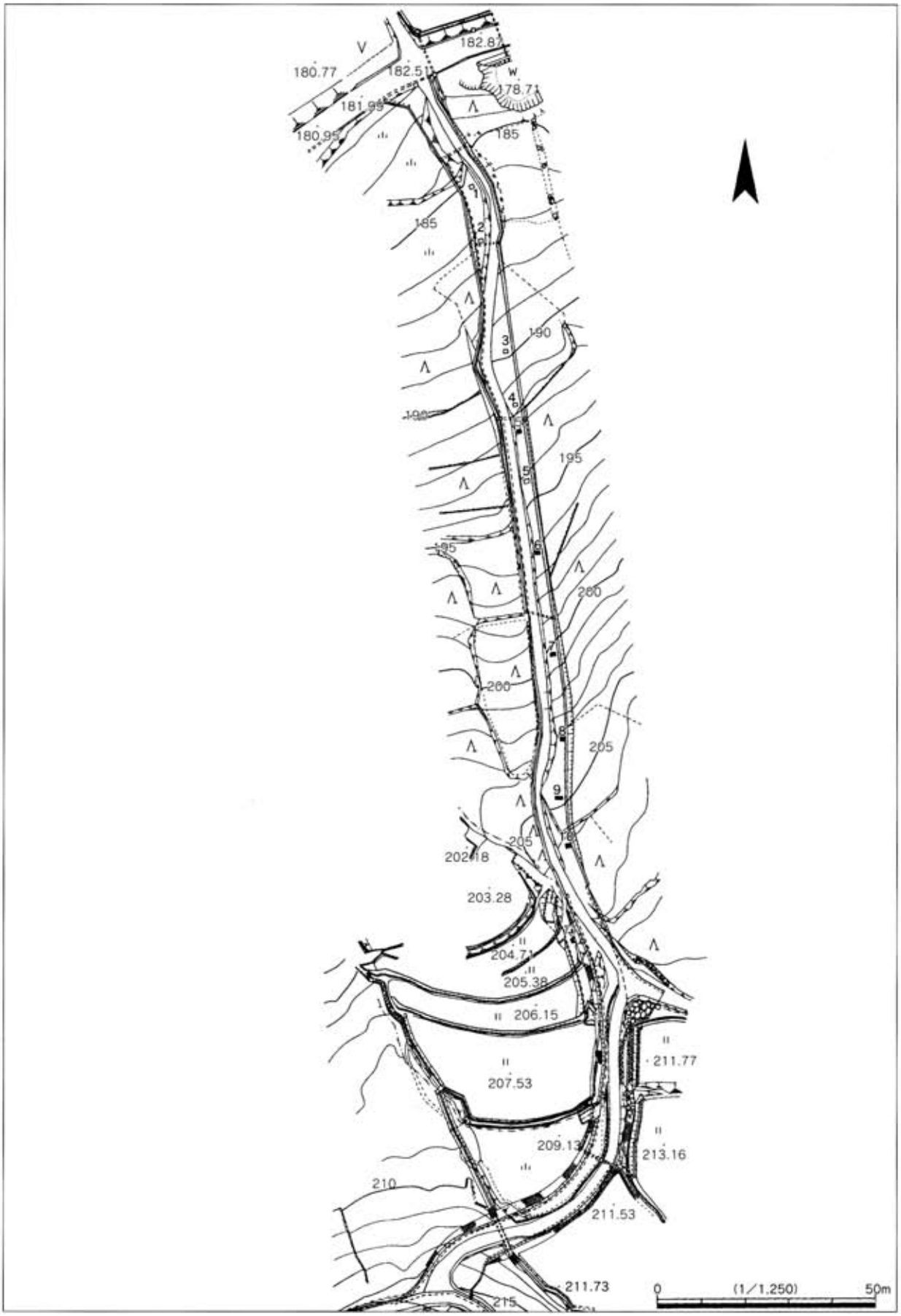


図20　伊万里市：小木原線トレンチ配置図

ある。

調査方法及び内容　人力により13本のトレンチを掘削した。このうちNo.5´トレンチでは旧表土層下で黒曜石の剥片・チップが少量出土し、遺物包含層が約40cmの厚さで認められた。No.10トレンチでは表土層下で黒曜石の原石・剥片・チップ等が多量に出土し、遺物包含層が約50cmの厚さで認められた。またNo.6～9トレンチでも剥片・チップといった石器が原石と共に多量に出土した。なおNo.11トレンチから終点にかけては現況水田となっている谷地形であり、湿地性の土壌から確認調査は実施できなかった。

所　　見　No.5´トレンチよりNo.11トレンチ付近にかけて黒曜石の剥片を中心とした縄文時代以前の遺物包含層があるものと推定される。

なお、確認調査の実施については市内遺跡確認調査費（国庫補助事業）で対応しており、調査結果については伊万里市教育委員会より県文化財課に提出された確認調査結果報告書に基づいている。

(2) 相知町

調査対象地区名　　**普通林道開設　浅井谷線**

調査対象地所在地　東松浦郡相知町大字牟田部字浅井谷

調査対象面積　　0.8ｈａ

調査対象地区の立地　岸岳城が立地する岸岳（標高約313m）と、その東側に対峙する標高222.9mの山領との間の鞍部付近（標高約100m）に位置し、微視的に見れば鞍部から東側の山領に登って行く小さな尾根上及びその北側谷部にあたる。この鞍部には既に相知町久保から相知町坊中・北波多村芳谷へと抜ける林道（町道久保坊中線）が開設している。調査地点である尾根の西・南側は現況杉林の緩斜面となっており、北東側は蜜柑畑となっている。

周辺の遺跡及び内容　岸岳の概ね標高250mから頂上尾根全体は松浦党主波多氏の居城である岸岳城が築かれている。岸岳城は堀切・竪掘・連続する曲輪群などの戦国時代的な要素を持ちつつも、切石による大規模な石垣や完成された虎口構造など近世城郭的な要素も備えている点で、中近世城郭研究上重要視されており、平成8年に県指定史跡となっている。当該地付近には岸岳城に直接関連する遺構は確認されていないが、登城ルートのひとつとして、この鞍部付近から西へ登る経路を想定できる。このほか、周辺部で遺跡は確認されていない。

調査方法及び内容　施工内容は林道の新設で、町道久保坊中線線から分岐して丘陵尾根を迂回しつつ北東側に伸びて行くものである。確認調査では町道との分岐地点の尾根上とその北側の谷部に合わせて7本のトレンチを設定し、人力により掘削を行った。このうち、谷部の平坦面に設けたNo.1トレンチでは5つの小穴が検出され、掘り下げを実施したところ、いずれの小穴の埋土中からも石炭片が出土した。また尾根上の西側緩斜面上に設定したNo.3トレンチでは表土と地山の間の黒褐色土（厚さ約5cm）中より弥生土器の甕・壺の底部片が1点ずつ出土した。このNo.3トレンチについては平成12年度に拡張を行ったほか、東側に隣接してNo.7トレンチを設定して調査を実施したところ、No.3トレンチ拡張部分の同一層中より弥生土器の甕の小片1点とサヌカイト製スクレイパー1点が検出されたが、No.3トレンチ・No.3トレンチ拡張部分・No.7トレンチのいずれでも表土下は僅かな間層を挟んで黄灰褐色土からなる地山であり遺構は確認されなかった。なお、図22に確認調査出土遺物について図示している。1～3は弥生土器、1・3は甕、2は壺の底部片で、いずれも底部の厚みがあまりなく、底面は平底となる点などより概ね後期前半の範疇に含まれると思われる。色調は1・2が黄橙色、3が橙褐色で、胎土中に多量に砂粒を混入する。4はサヌカイト製のスクレイパーで縦長剥片の一側片に片面から剥離を加えて刃部を作り出したもの。縄文時代のものと思われる。

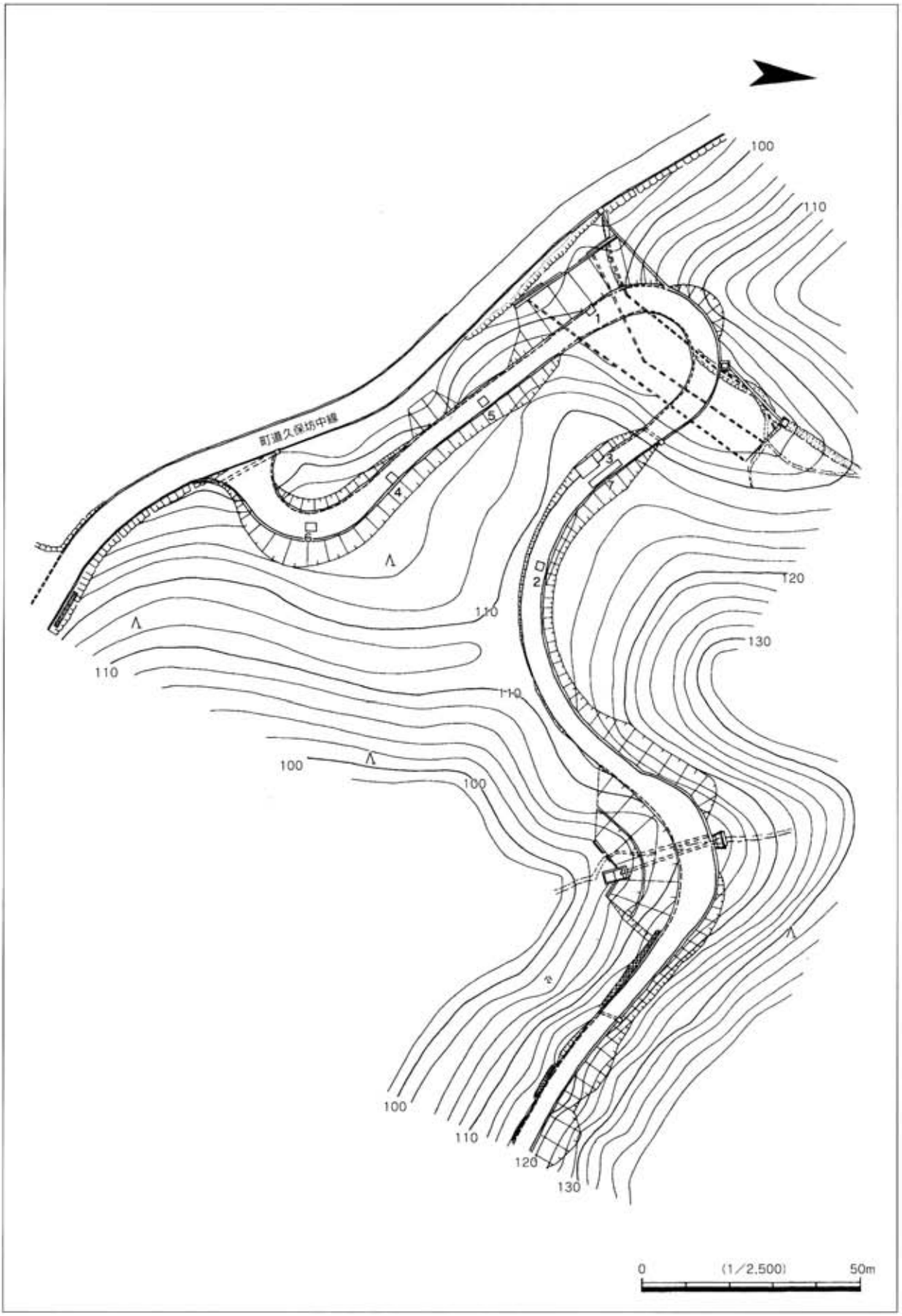


図21　相知町：浅井谷線トレンチ配置図

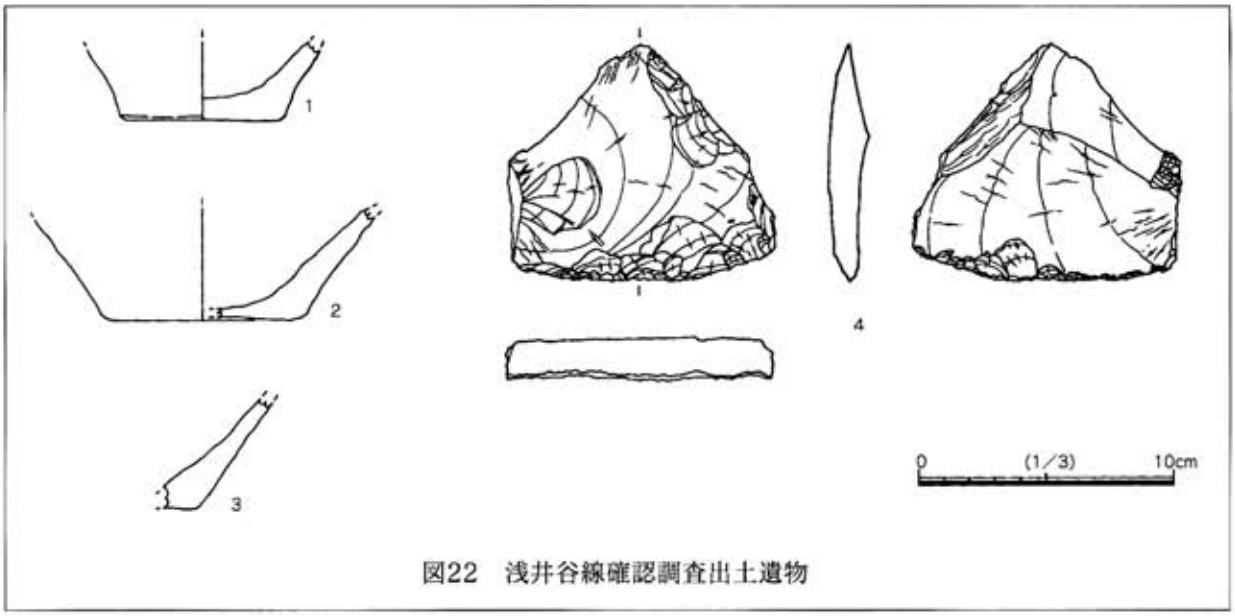


図22　浅井谷線確認調査出土遺物

所　　見　No.1トレンチで確認された小穴群については、いずれも埋土中より石炭が確認されたことに加え、この谷部を約20m登った地点には採掘坑の坑道が開口している。当該地周辺では「浅井谷坑」として江戸時代後期から明治にかけて採炭が行われており、これらの小穴についても時期は不明なものの、石炭採掘に伴う何らかの施設と推定される。また、No.3トレンチでは弥生時代後期前半に位置付けられる土器が出土しており、遺構については確認されなかったものの、当該期にこういった山間部まで生活圏が広がっていたことは興味深い。地形的には傾斜の緩やかな尾根上にあたり、尾根つたいに山中を移動して行くには歩きやすい場所と言え、その目的としては採集あるいは祭祀的な行為によるものと想像される。

(3) 浜玉町

調査対象地区名　　**県営畑地帯総合整備事業　ひれふり地区**

調査対象地所在地　　東松浦郡浜玉町大字横田、東山田

調査対象面積　　21.6ｈａ

調査対象地区の立地　鏡山（標高283.7m）と横田川の間に広がる丘陵地帯で、大小の尾根・谷部が連続する起伏に富んだ地形をなし、現況は蜜柑園及び山林、谷部の多くに水田が作られている。丘陵部の東西方向に標高100m前後を最高位とする尾根が続くが、丘陵部の背面には東側から回り込んで横田川が流れ、現在山田の集落が位置する盆地状の狭い平野が形作られている。

周辺の遺跡及び内容　丘陵部のうち、海側に面して伸びる尾根上には国指定史跡の横田下古墳をはじめ、大岩古墳群などの古墳群が知られており、丘陵部の北に面する横田川の扇状地上には吉田遺跡・西谷遺跡などの弥生・古墳時代の遺物散布地が見られる。一方、丘陵部の中央付近より南側では遺跡の存在は知られていなかったが、近年、西九州自動車道建設に伴って、袈裟丸城跡の調査が行われたほか、新たに古代の製鉄関連遺跡である岩根遺跡が発見されるなど、埋蔵文化財の状況についても明らかにされつつある。

調査方法及び内容　開発対象地全体については、以前に県文化財課・浜玉町教育委員会で踏査を実施しており、旧地形の遺存度等を鑑みて、確認調査が必要な地区として3ヶ所が挙げられている。

このうち、A地区とされているものは対象地南寄りの南北に伸びる狭い丘陵尾根上（標高90～95m）で、尾根端部側となる南側は運動公園造成により15m以上切り下げられている。この切り下げによる法面には、尾根

A地区石室露出状況

B地区竪穴式石室検出状況

C地区小山田古墳（東から）

C地区小山田古墳（西から）

図版2　ひれふり地区確認調査状況

頂部よりやや東に下った標高82m付近に竪穴式石室の一部が露出している。石室は小型のもので南北を主軸としており、南側の小口部分が一部掘削により失われているが、そのほかの部分については天井石も含めて比較的良好に遺存している。墳丘については現況では視認できないが、石室付近で尾根斜面が若干傾斜を緩めてテラス状になっており、低い盛土を持っているものと推定される。この古墳以外にも古墳等の遺構が存在することが予想されたため、尾根上を中心に人力によってトレンチNo.1～5を設定して調査を実施したが、No.1トレンチで古墳時代の土師器片が出土した以外には遺構・遺物共に確認できなかった。この尾根上についてはさらにバックフォーにより表土を除去して確認を行ったが、遺構は検出されず、尾根上が蜜柑園造成された際に失われたか、あるいは古墳群の中心が、既に掘削を受けた尾根の南側にあったものと推定される。

B地区としたものは、A地区の尾根と緩やかな谷部を挟んで東側に対峙する丘陵尾根（標高95m）で、北西－南東方向に尾根筋が走る。尾根筋は約80m程の長さで狭く細く伸び、北西、南東側のそれぞれに頂部を持つが、南東側の頂部よりやや南東に下った付近に農道による切り通しが走り、この切り通しの南東側法面には石棺1基が露出している。石棺は尾根と同一方向に主軸を持ち、全体のほぼ2／3を失っているが、残っている石材等から推定すると玄武岩の板石を立て並べた箱式石棺であると思われる。蓋石についても遺存しているが、蓋石上面まで地表面から1m近くあり、墳丘盛土を伴うものと考えられる。このほか、尾根上に3つのトレンチを設定してバックフォーにて掘削を行ったところ、尾根の北西側斜面との変化点に設けたNo.1トレンチより未盗掘の竪穴式石室1基を、尾根頂部に設けたNo.2・3トレンチで土壙墓かと思われる掘り込みをそれぞれ検出した。

C地区はB地区から東へ約370m離れた地点であり、西九州自動車道建設に伴い発掘調査が実施された岩根遺

跡から北へ約300ｍの距離にある。Ｃ地区の位置する尾根は周辺部で最も高所となる尾根のひとつであり、最高所の標高は約101ｍ、北側には横田川の扇状地を麓に、遠く虹の松原を望む。当該地では現況で径30ｍ強の高まりが見られ、頂部が平坦となる裁頭円錐状の地形から大型円墳であることが予想された。よって性格を明らかにするため、トレンチを設定し人力により確認調査を実施したところ、頂部に設定したトレンチより、地表面の約1ｍ下から竪穴式石室の天井石を検出し、未盗掘の古墳であることが明らかとなった。また墳形についても一部蜜柑の植樹に伴い改変がなされている以外はほぼ良好に遺存しており、墳裾と想定される箇所に設定したトレンチで確認した範囲では、円墳であると考えられる。本古墳については平成12年度にも墳形・石室構造を明らかとするため、トレンチ調査・墳丘測量調査・周辺地形測量調査等を引き続き実施しており、直径が約32ｍであること、竪穴式石室が天井石の長軸で約2.8ｍとやや小型のものであること、竪穴式石室と並行して石棺墓の蓋と思われる玄武岩の一枚石が確認され、複数の主体部を持つ可能性があることなど、新たな調査結果が得られている。よって本古墳の調査結果については平成13年度刊行の報告書の中でまとめて詳細に述べたい。

所　　見　Ａ地区では竪穴式石室を伴う古墳1基、Ｂ地区では石棺墓を伴う古墳1基、竪穴式石室1基のほか、土壙墓状の掘り込みを確認した。唐津周辺地域では唐津市迫頭遺跡のように、墳丘を明確に持たずに竪穴式石室・竪穴系横口式石室・石棺墓等が密集して分布する状況が見られ、特にＢ地区では尾根上が比較的良好に旧状を留めていることが予想されるため、ほかにも埋葬遺構が残存している可能性が高いと考えられる。なおＣ地区で新たに確認された古墳については、未周知古墳であったため、新たに名称を「小山田古墳」とした。直径30ｍを越える墳丘規模は、古墳時代前期においては東松浦地域のみならず肥前地域全体でも卓越したものと言え、国指定史跡の谷口古墳・横田下古墳と並んで当該地域の首長墳の一つと考えられる。今後は保存の可能性について農林担当部局と調整を図っていく必要がある。

調査対象地区名　　**農業生産体制強化総合推進対策事業　今坂地区**

調査対象地所在地　　東松浦郡浜玉町大字平原字原田

調査対象面積　　100ｈａ

調査対象地区の立地　浜玉町内の東方、玉島川の支流である小川川の中流域にあたる。脊振山系に属する椿山（標高759.8ｍ）から北西に派生する標高約170～220ｍの丘陵尾根上であり、調査対象地の北端を東から西へ小川川から分流する今坂川が流れ、緩斜面状の尾根上から今坂川へ向かっては谷状に急峻な斜面となって落ち込む。現況はほぼ全面が蜜柑園となっている。

周辺の遺跡及び内容　近接する遺跡は明らかとなっておらず、周知の遺跡へは約1㎞以上の距離（中道遺跡）を隔てている。

調査方法及び内容　調査対象地に対して1.5ｍ×4.5ｍの規模を基準として63ヶ所にトレンチを設定し、バックフォーにより掘削を行った。いずれのトレンチでも遺構は確認されず、№63トレンチで旧田面を検出した以外は耕作土下は整地層あるいは赤褐色粘質土からなる地山であり、蜜柑園造成の際、大きく改変を受けていることが明らかとなった。また、出土遺物については、№8トレンチからは摩滅の著しい土器片2点・須恵器片1点、№14トレンチからは土器片数点、№19トレンチから土器片3点・磁器片2点、№20トレンチから陶器片1点、№26トレンチから土器片2点、№46・47トレンチで陶器片数などの遺物が出土したが、いずれも耕作土・整地層中である。

所　　見　調査対象地内では遺構及び自然堆積層は確認されず、蜜柑園造成等により大規模な地形改変を受けた

図23　浜玉町：ひれふり地区トレンチ配置

小山田古墳
C地区
7号沈砂池
6号沈砂池
0
(1／3,000)
100m

図24　浜玉町：今坂地区トレンチ配置図

ため、旧地形が著しく失われていることが明らかとなった。しかし、トレンチ数箇所で土器片・須恵器片・陶磁器片が若干量出土しており、本来的には何らかの遺跡が存在していた可能性が考えられる。

5. 佐賀上場地区の調査

(1) 唐津市

調査対象地区名　　**中山間地域総合整備事業　唐津東部地区（鶏ノ尾地区）**

調査対象地所在地　唐津市半田字鶏ノ尾 ほか

調査対象面積　　0.52ｈａ

調査対象地区の立地　唐津市東部の鏡山（標高283.7ｍ）から南西に延びて松浦川により形成された平野部を臨む丘陵の端部に位置する。開発対象地は起伏の大きな丘陵部一帯であり、最高位の標高は約57ｍ、平野部との境付近の標高は約20ｍである。対象地となる丘陵は南北に高所が分かれ、両者の間には西側から谷が入り込んでいる。この丘陵の南側もしくは西側を迂回するように古代官道の路線が推定されている。

周辺の遺跡及び内容　対象地の西南側、松浦川の右岸に広がる平野部はその三方を山に囲まれているが、その裾部付近のほぼ全域に遺跡が立地しており、唐津市域の中でも遺跡の密集度が高い地域のひとつと言える。対象地周辺である鏡山南麓を見れば、対象地の南東部に葉山尻支石墓群、西側には甕棺墓群が確認された堂の前遺跡、掘立柱建物跡32棟が確認された井ゲタ遺跡などが位置している。

調査方法及び内容　対象地区内のうち、南側の丘陵尾根上及び南北の丘陵間の谷部について、人力及び掘削機によりNo.1～42のトレンチを設定し調査を行った。このうち、No.7トレンチでは近世墓の墓壙、No.10トレンチでは土師器片が多量に出土、No.12トレンチでは小穴1、No.13トレンチでは鉄滓が数点、No.23トレンチでは古墳の盛土らしき土層を確認、No.27トレンチでは南方からの流れ込みと思われる土師器・須恵器片が十数点出土、No.33トレンチでは東播系の須恵器・土器が出土、No.40トレンチでは造成土中より磁器2点が出土、No.41トレンチでは谷部への自然堆積土である砂層より磁器片が1点出土、No.42トレンチでは同じく自然堆積土より土師器数点が出土している。また、現況で古墳と思われる地形的な高まりが、不明確なものも含めて6ヶ所で認められており、いずれも平野部を見下ろす尾根上に占地しているほか、近世墓が南北の尾根上でそれぞれ1ヶ所確認されている。

所　　見　確認調査では丘陵尾根上で古墳・近世墓が確認されたほか、鉄滓が出土していることから、製鉄関連の遺跡が存在している可能性が推定される。また前述のように古墳時代の唐津市周辺部では、全く墳丘を持たずに竪穴系横口式石室・竪穴式石室・石棺墓が密集する分布状況が見られ、当該地についても現況で視認できる古墳以外にも遺構が存在していることが予想される。

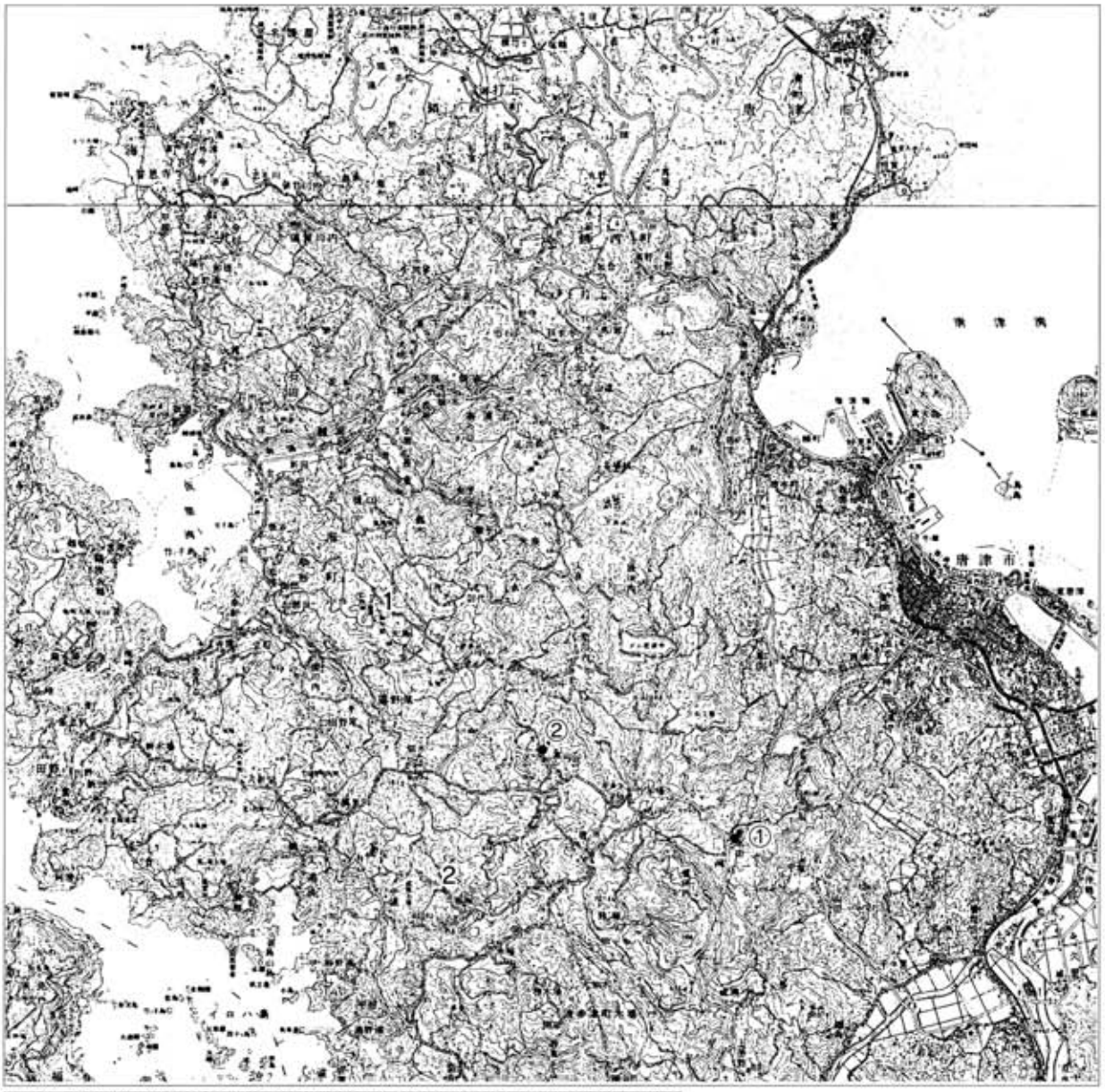
調査対象地区名　　**農林漁業用揮発油税財源身替農道　半田宇木2期地区**

調査対象地所在地　唐津市宇木字大谷及び東山田 地内

調査対象面積　　延長300ｍ

調査対象地区の立地　唐津市東部、東宇木地区の南側に位置し、相知町との町市境に位置する三方山（標高505.2ｍ）から北に派生する尾根（標高約200ｍ）の南側緩斜面上（標高約150～170ｍ）に立地する。対象地区の現況は水田及び蜜柑園により段造成が行われ、旧地形はかなり改変されている。

周辺の遺跡及び内容　対象地区は山間部にあたり、近接する周知の埋蔵文化財包蔵地はないが、丘陵の東西を北流する半田川・宇木川流域には弥生・古墳時代の遺跡が数多く見られる。



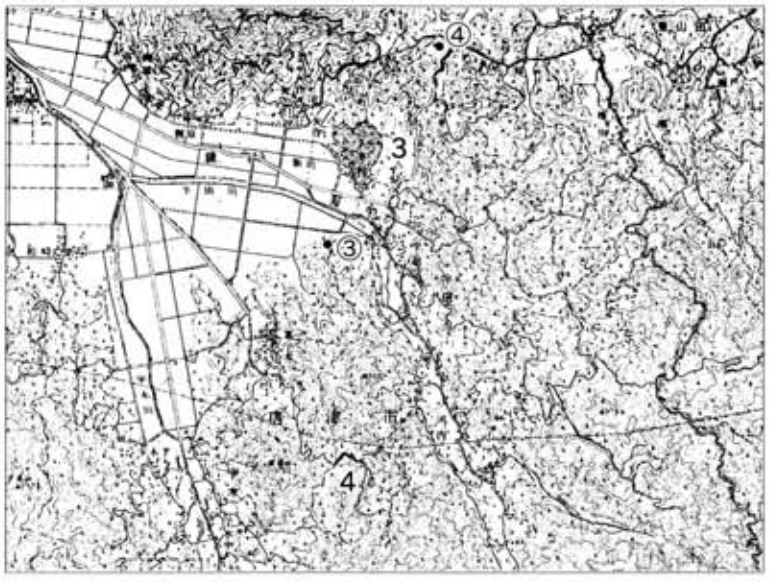


図25　佐賀上場地区調査地位置図

上図（1/100,000）

左図（1/ 50,000）

1　玄海支線24号農道

2　赤坂地区

3　鶏の尾地区

4　宇木半田２期地区

①　菅牟田荒谷遺跡

②　東山Ⅰ遺跡

③　岸高Ⅱ遺跡

④　外原遺跡

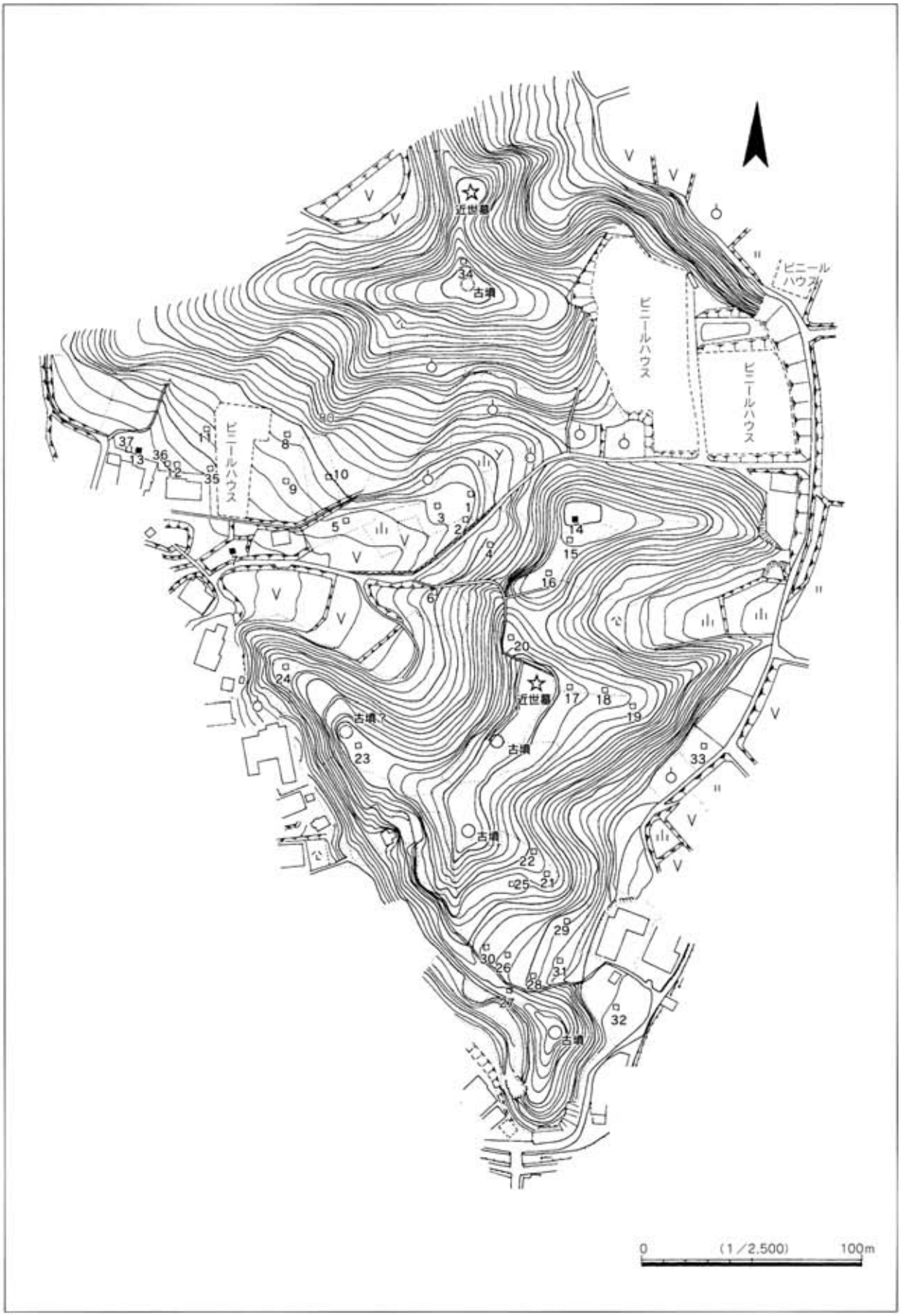


図26　唐津市：鶏の尾地区トレンチ配置図

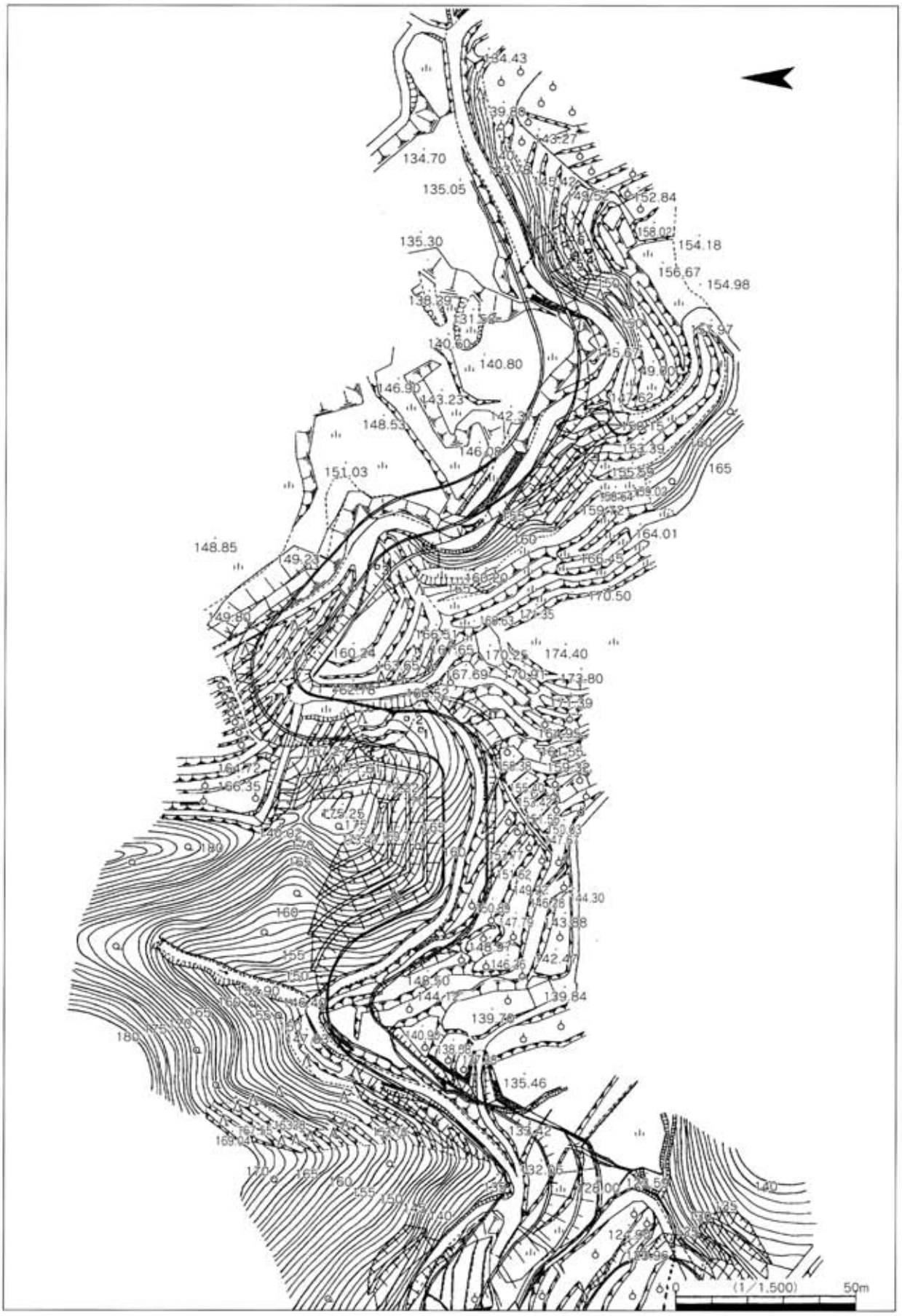


図27　唐津市：宇木半田２期地区トレンチ配置図

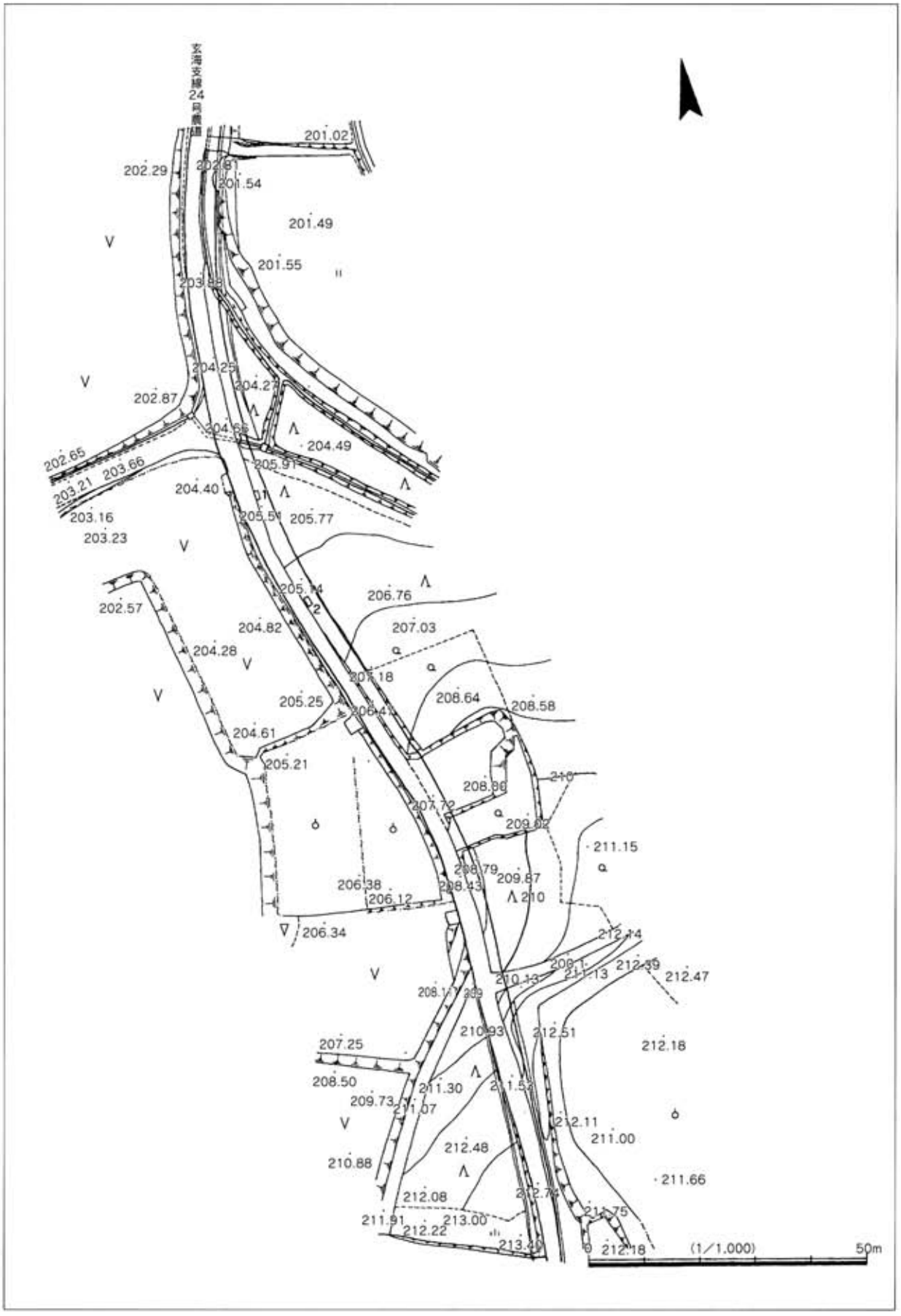


図28　玄海町：玄海支線24号トレンチ配置図

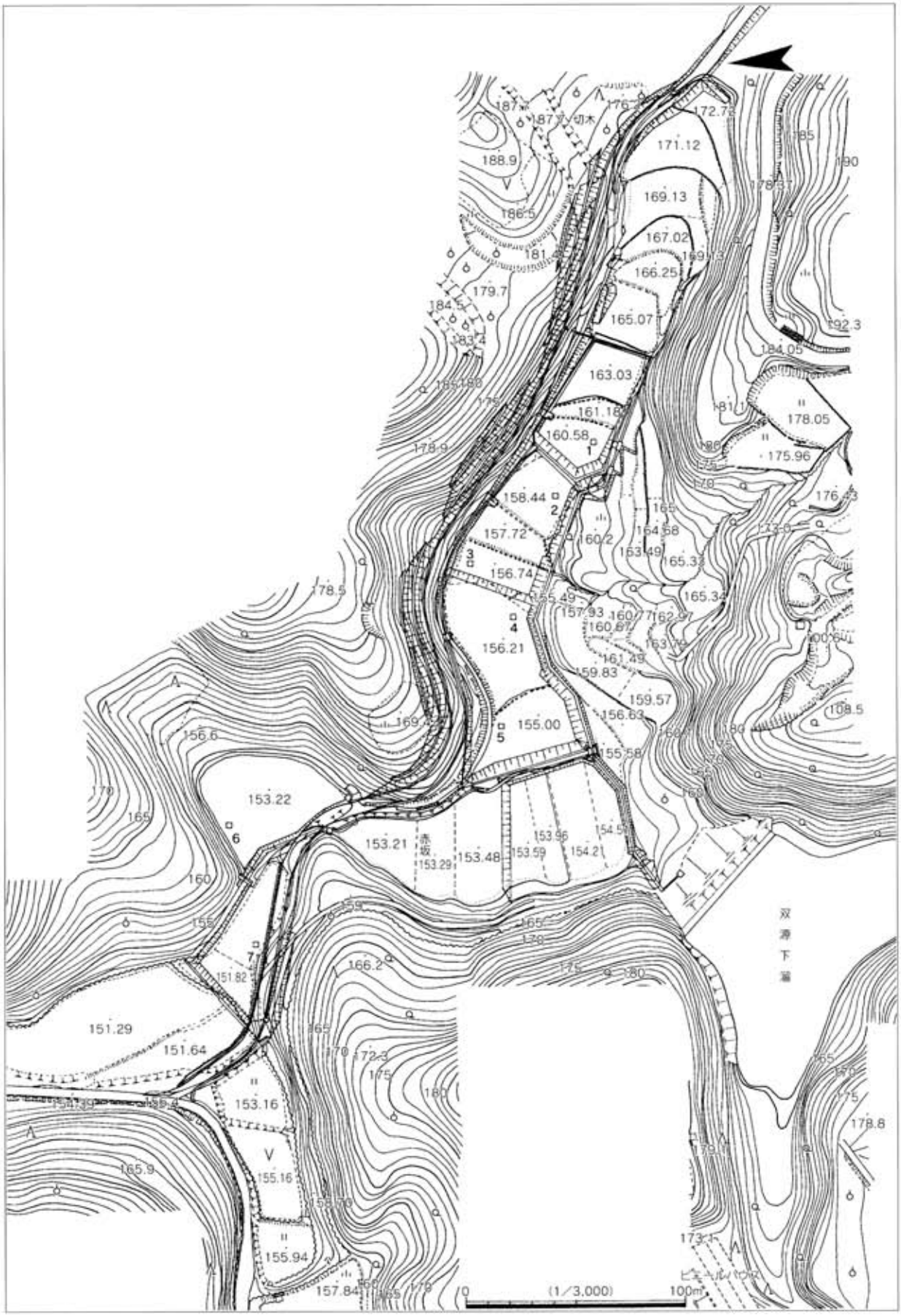


図29　肥前町：赤坂地区トレンチ配置図

調査方法及び内容　対象地区に対して1.5m×1.5mの規模を基準としたトレンチを6本設定し、人力により掘削を行った。このうちNo.1トレンチでは表土下より自然堆積層を確認し、地形的に大きな改変は被っていないことが予想されたが、遺構・遺物は検出されなかった。そのほかのトレンチでは表土下より花崗岩の風化土壌からなる基盤層が確認され、遺構・遺物についても検出されなかった。

所　　見　旧地形が緩斜面と考えられるため遺跡の存在が予想されたが、対象地は耕地化に伴い大きく削平を受けていることが判明し、今回の調査では遺跡の存在の有無については明らかにできなかった。

(2) 玄海町

調査対象地区名　　県営畑地帯総合整備事業　上場Ⅳ期　牟形地区（玄海支線24号農道）

調査対象地所在地　東松浦郡玄海町大字牟形791－1　ほか

調査対象面積　　1,352㎡

調査対象地区の立地　上場台地中央部付近にあたる標高約205～210m前後の起伏の緩やかな丘陵地帯に位置する。対象地の東側には轟木溜、北西側には牟形三枚溜と呼称される三つの溜池が並ぶ。現況は農道で、山林及び畑地となっている。

周辺の遺跡及び内容　調査対象地は旧石器時代の遺物散布地である稗田Ⅱ（三枚溜北東）遺跡に含まれ、周辺部では北側に旧石器時代～縄文時代の稗田Ⅰ（三枚溜北）遺跡・牟田遺跡が、また南西側には縄文時代の牧の地Ⅱ遺跡などが隣接している。

調査方法及び内容　　調査対象地の2ヶ所に2m×2mのトレンチを設定し、人力により掘削を行った。No.1トレンチでは表土である腐葉土の下に厚さ約20cmの黄色砂質粘質土からなる自然層が、そのさらに下位には黄褐色粘質土からなる自然層が厚さ約18cmで見られたが、遺構・遺物は確認されなかった。No.2・3トレンチでは腐葉土の下位より黄褐色粘質土の自然層を挟んで赤温石（玄武岩の風化土壌）からなる基盤層が見られ、同じく遺構・遺物は確認されなかった。

所　　見　対象地は植林により削平を受け旧地形が改変されており、遺物等も確認されていないため、遺跡の存在については明らかにできなかった。

(3) 肥前町

調査対象地区名　　県営畑地帯総合整備事業　上場Ⅲ期　赤坂地区

調査対象地所在地　東松浦郡肥前町大字赤坂字太田310番地1ほか

調査対象面積　　11,935㎡

調査対象地区の立地　上場台地上、北波多村・唐津市と接する部分に近い標高約150～160mの西側に開いた谷部の狭い平地に位置し、現況は水田である。

周辺の遺跡及び内容　対象地の周辺には旧石器時代～縄文時代の中浦切通遺跡・太田遺跡などがある。

調査方法及び内容　調査対象地の7ヶ所に2m×2mのトレンチを設定し、人力により掘削を行った。いずれのトレンチにおいても現況耕作土の下には以前のほ場整備による造成土が見られ、このうちNo.4・5トレンチではその下位より基盤層を確認したが、遺構・遺物は検出されなかった。

所　　見　対象地は以前のほ場整備により削平を受け旧地形が改変されており、自然堆積層も確認できない状況で、遺跡の存在については明らかにできなかった。

註）岩永 政博・久保 伸洋（1981）：「西前田遺跡」東脊振村文化財調査報告書第5集　東脊振村教育委員会
久保 伸洋（1982）：「西前田Ｂ遺跡」東脊振村文化財調査報告書第6集　東脊振村教育委員会

6. 附　編　（嘉瀬川ダム建設事業・その他公共事業に伴う文化財確認調査の概要）

平成11年度は従来の農林業基盤整備事業に伴う文化財確認調査に加え、新たに嘉瀬川ダム建設に伴う文化財確認調査のほか、厳木バイパス建設等、国・県が事業主体となる公共事業に伴う文化財確認調査を実施している。

(1) 嘉瀬川ダム建設に伴う文化財確認調査

嘉瀬川ダム建設に伴い、その影響を受ける水没地区・代替地・道路関係・土捨場等の予定地内に所在する文化財について、事前に確認調査を実施し、その存在範囲・性格を把握した。調査方法はバックフォー及び人力によりトレンチを設定して行った。平成11年度は開発対象面積404ｈａのうち、嘉瀬川ダムの建設に伴う水没地区を中心とした約90ｈａを調査対象に、総数604本のトレンチを設け、確認調査を行った。その結果、大野地区・西畑瀬・東畑瀬地区を中心に、約21箇所のトレンチで遺構を、また57箇所で遺物包含層を確認し、大野地区では縄文時代早期の生活跡が、大野・西畑瀬地区・東畑瀬では中世の集落跡の存在が明らかとなった。このうち、西畑瀬地区については協議の結果、平成12年度に発掘調査を行うこととしている。

このうち、大野地区では国道323号線の切り替え工事に伴い江戸時代の代官所跡（大野代官所跡）が工事対象地に含まれることから、事業と文化財保護との調整を図るため、代官所跡について地形測量と確認調査を実施した。大野代官所は佐嘉藩の支藩である小城藩に属しており、天保9年（1838年）頃に大野の地に置かれたものとされている。大野代官所は二つの尾根に挟まれた緩斜面上に位置しており、山側を除く三方を高さ3～4ｍの石垣で囲んだ大きく二段の平坦面からなっている。この二つの平坦面には代官所の本館や執務所・倉庫等が置かれていたとされるが、周辺部にはこの他にも石垣に囲まれた大小の平坦面が存在しており、役人の居住区など代官所に付属する施設が併設されていたものと推定される。特徴的なのは各平坦面の造成に伴い築かれた石垣が巨石を多用し、その構築技術には城郭に用いられるような高度な技法（落し積み・鏡石積み、算木積み・シノギ角等）が見られる点である。また本事業及び富士町教育委員会が実施した確認調査では多数の陶磁器のほか硯・瓦が出土しているが、注目すべきは瓦の中に桟瓦のほかに本瓦が見られ、江戸時代前期に遡る遺物が確認された点が挙げられる。代官所が置かれた時期についての従来の解釈と異なる資料と言えよう。

このように、大野代官所跡は県内に残る代官所跡の中でも極めて残存状況が良好で、周辺施設まで含めた代官所区域全体が把握できる上、ほかの代官所からは卓越した大規模かつ高度な技法を多用した石垣を伴うという点で貴重な遺構と言え、その保存について開発部局との調整を図っているところである。

(2) 厳木バイパス建設に伴う文化財確認調査

厳木バイパス建設に伴って、厳木町内の二箇所（浪瀬地区・岩屋地区）で確認調査を実施した。このうち、浪瀬地区では開発対象面積2,500㎡に対して掘削機・人力を用いて5本のトレンチを設定して調査を行い、調査面積は約57㎡である。対象地には近接する獅子城を築いたとされる源披（つらく）の墓地である源披公墓地・披公さん遺跡（縄文時代散布地）があるが、浪瀬川の氾濫の痕跡が確認されたのみで遺構は検出されなかった。一方岩屋地区は周知外であり、掘削機により総数28本のトレンチを設定して調査を行った（調査面積259㎡）。その結果、対象地は厳木川及びこれに合流する小河川の氾濫によって形成された谷平野であることが明らかとなり、1ケ所で時期不明の遺構を確認したのみで、明確な遺構は検出されなかった。

図30　大野代官所位置図（1／25,000）

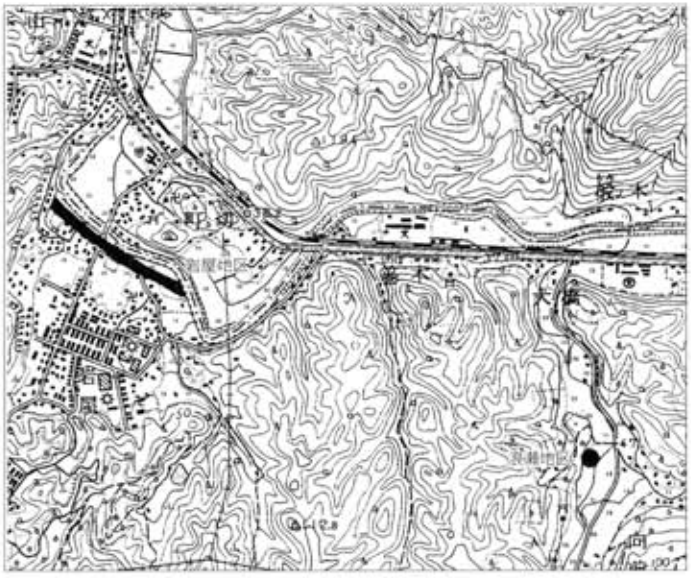
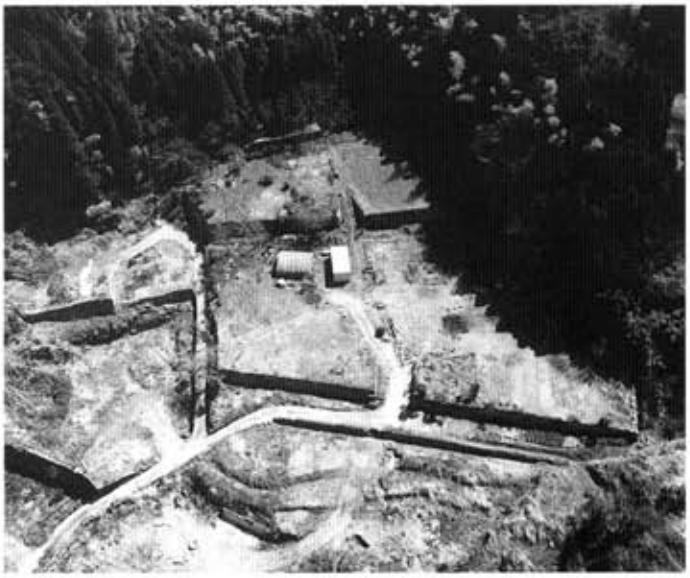


図31　厳木バイパス調査地位置図（1／25,000）



大野代官所跡全景
（左が北）

大野代官所跡石垣
（南西より）

図版３　嘉瀬川ダム建設事業に伴う確認調査

Ⅲ．平成11年度発掘調査の概要

1　鷹取山（たかとりやま）遺跡Ⅲ・Ⅳ区（ＴＴＹ－Ⅲ，－Ⅳ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀字丸山

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成11年6月～平成12年3月

調査面積

1,500㎡

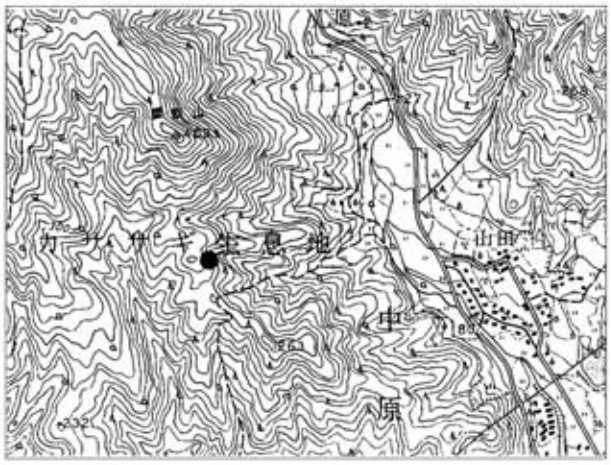


図32　鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区位置図（1/25,000）

遺跡の概要

本遺跡は鷹取山の中腹標高約250ｍの地点に位置する。調査区は3区と4区に分かれている。

本遺跡の北側には平成10年度に発掘調査を実施した鷹取山遺跡Ⅰ区・Ⅱ区がある。鷹取山遺跡Ⅰ区では9世紀代の祭祀関係と見られる遺跡が確認され、大量の須恵器・土師器が出土した。また鷹取山一帯は中世において山城が築かれており、山麓部から山頂にかけて、堀切や土塁・曲輪などの遺構が残っている。

鷹取山遺跡Ⅲ区は尾根上の斜面に位置し、頂上に通じると見られる通路状の遺構が確認された。遺構は浅く掘り込まれた溝で、尾根上を蛇行しながら伸びており、深さは一定していない。遺物は溝埋土から土師器の小破片が出土したのみで時期の特定はできない。

Ⅳ区では尾根に向かう斜面から尾根上に位置し通路と見られる遺構、焼土壙を検出した。通路と見られる遺構は斜面を掘り込んで作られた部分と斜面を削り出して作られた部分がある。焼土壙は全部で5基検出された。長さ0.8ｍ、幅0.6ｍ程度の隅丸方形で、側面が強く火を受けているが、底面はほとんど焼けていない。遺物が出土しなかったため、時期については不明である。なお、この焼土壙からは鉄滓等、製鉄に関係するような遺物は全く出土しなかったほか、尾根の斜面にあるため、周辺の見通しがきかないことから、のろしでもなさそうである。

また、尾根上では尾根の窪んだ部分を埋めるように盛土がなされている。この盛土の性格は不明だが、尾根の先にあたる南側には曲輪状の遺構が残っていることから、尾根と尾根を結ぶ通路、若しくは土塁のよう性格が考えられる。

今回の調査ではこれまで調査例のほとんどなかった鷹取山における中世山城に関する遺構の一部が明らかにされるなど、重要な成果を上げることができた。

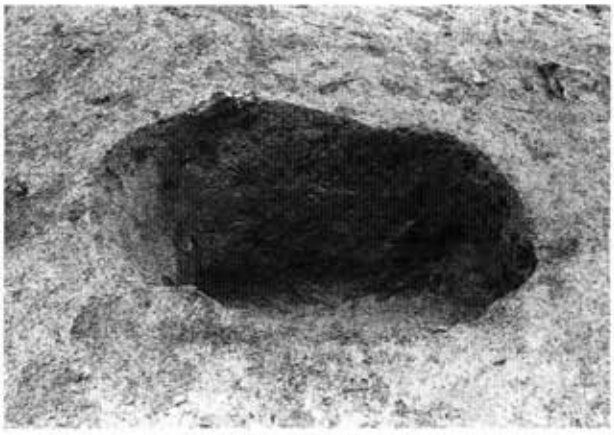
鷹取山遺跡Ⅲ区通路状遺構

鷹取山遺跡Ⅳ区全景

Ⅳ区通路検出状況

Ⅳ区盛土遺構検出状況

Ⅳ区焼土壙検出状況



Ⅳ区焼土壙完掘状況

図版４　鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区

2　船石（ふないし）遺跡（ＦＮ１）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤地内

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成11年11月～平成12年2月

調査面積

530㎡

図33　船石遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

船石遺跡は上峰町北部大字堤地内に所在し、脊振山南麓に発達する標高14～25m付近の洪積世低位段丘上に立地している。縄文時代から中世にかけての複合遺跡で、特に弥生時代の一大集落遺跡として知られており、昭和57年度の船石地区運動公園整備に伴う発掘調査、昭和61年度から平成元年度に及ぶ県営上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査で、5年次にわたり合計11の調査区域において発掘調査が実施されている。昭和57年度の調査では、船石天神宮境内において支石墓・甕棺墓・古墳などが調査され、古墳から出土した蛇行状鉄剣・蛇行状矛など貴重な遺物が出土している。また、農業基盤整備事業に伴う調査においても、弥生時代の集落のほか、縄文時代・奈良時代の集落が検出されている。

本遺跡の南東には小谷を隔てて、弥生時代中期から後期にかけての竪穴式住居跡約50軒、甕棺墓をはじめとする土壙墓・石棺墓等墳墓約700基などが検出されている船石南遺跡が広がっている。さらに周辺には、八藤遺跡・二塚山遺跡・切通遺跡・一本谷遺跡など、弥生時代の著名な遺跡が分布している。

今回の調査は、県営かんがい排水事業の導水管が埋設される農道部分の幅約3m、延長約180mについて、発掘調査を実施した（調査区は、便宜的に12区と呼称した）。

昭和61年度の農業基盤整備事業に伴う調査区の東側に隣接する部分にあたる今回の調査は、弥生時代中期から後期に及ぶ竪穴式住居跡約30軒、土壙18基そのほか小穴などが検出された。また、遺物はこれらの遺構から弥生土器をはじめ石器類が出土したほか、一部では土師器・須恵器も出土している。

今回の調査では、幅約3mの調査区という制約の下での調査であったため、住居跡などの遺構のほとんどは完掘できなかったが、中には昭和61年度の調査で検出された遺構と連続するものも検出されている。そのような意味では、本遺跡のこれまでの情報を補填できる貴重な資料を得ることができたといえる。

調査区（西より）

住居跡検出状況

土壙検出状況

図版５　船石遺跡

3　船石南遺跡（ＦＮＩ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤地内

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成12年1月～平成12年3月

調査面積

270㎡

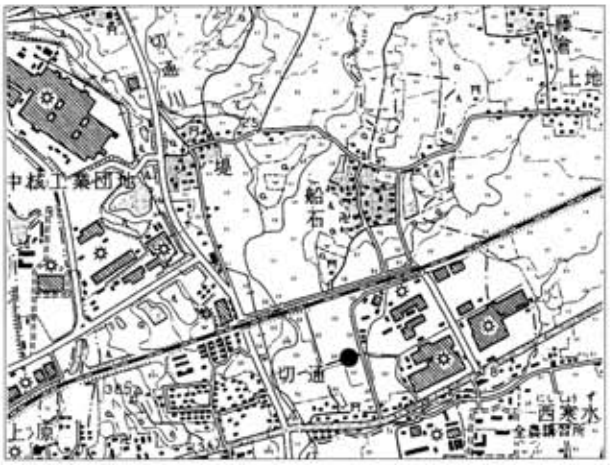


図34　船石南遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

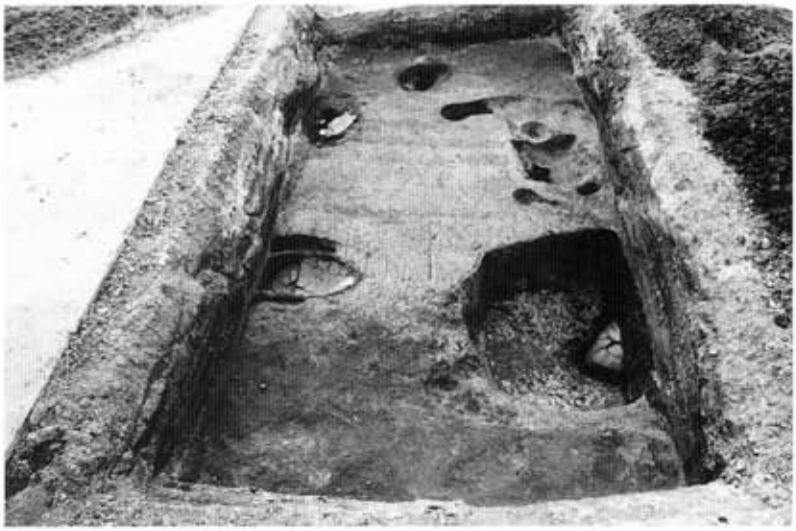
船石遺跡は上峰町北部大字堤地内に所在し、脊振山南麓に発達する標高16m付近の洪積世低位段丘上に立地している。弥生時代の集落及び甕棺墓をはじめとする墳墓からなる遺跡で、県営上峰北部農業基盤整備事業に伴い昭和60年度（1～5区；4,500㎡）、昭和62年度（6区；300㎡）の2次にわたり発掘調査が実施され、弥生時代中期から後期にかけての竪穴式住居跡約50軒、甕棺墓をはじめとする土壙墓・石棺墓等墳墓約700基などが検出されている。また、本遺跡の北西には小谷を隔てて、縄文時代から中世にかけての複合遺跡で特に弥生時代集落遺跡として知られている船石遺跡が広がっている。さらに周辺には八藤遺跡・二塚山遺跡・切通遺跡・一本谷遺跡など、弥生時代の著名な遺跡が分布している。

今回の調査は、県営かんがい排水事業の導水管が埋設される農道部分の幅約3m、延長約90mについて、発掘調査を実施した（調査区は、便宜的に7区；延長約70m、8区；延長約20mの2区に分割した）。

昭和60年度の農業基盤整備事業に伴う調査区の北側に隣接する部分にあたる今回の調査は、弥生時代中期から後期に及ぶ竪穴式住居跡約8軒、土壙10基、甕棺墓4基、建物の柱と考えられる柱穴列1列、周溝状遺構3基そのほか小穴などが検出された。また、遺物はこれらの遺構から弥生土器をはじめ石器類が出土したほか、成人棺3基、小児棺1基、合計4基の甕棺が出土している。

今回の調査では、幅約3mの調査区という制約の下での調査であったため、住居跡などの遺構のほとんどは完掘できなかったが、中には昭和60年度の調査で検出された遺構と連続するものも検出されている。そのような意味では、本遺跡のこれまでの情報を補填できる貴重な資料を得ることができたといえる。

調査区近景



甕棺墓検出状況

住居跡検出状況

図版６　船石南遺跡

4　利田柳（としだやなぎ）遺跡8・9・10区（ＴＤＹ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字竹字利田

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成11年5月～平成11年11月

調査面積

3,500㎡

図35　利田柳遺跡８・９・10区位置図（1/25,000）

遺跡の概要

遺跡は神埼町のほぼ中央部で、城原川西岸の標高約8ｍの水田地帯に位置している。遺構面は、耕作面より約1ｍの深さにあり、河川の氾濫による砂層が厚く堆積している。また、東側の城原川の付近で徐々に低くなっており、調査区の東端では約2ｍの深さがあった。調査区は、農道や水路により分断されているため、東側より順に8～10の地区番号を設定して実施した。

8区の調査では、弥生時代の土壙・溝跡・小穴等及び中世の土壙・溝跡・小穴等遺構を検出したが、弥生時代のものが大半を占めている。弥生時代の遺構では、土壙は平面不定形のものが多く廃棄土壙の様相を呈するものが多いが、少数ではあるが平面が円形や長方形のものがあり、竪穴住居跡の可能性がある。溝跡は南北方向に延びており、後述する9区においても同様の溝跡が存在している。小穴は大小様々なものが多数あるが、建物の柱穴を構成するものは少数である。中世の遺構は、平面不定円形を呈する土壙（井戸跡か）及び南北方向に延びる溝跡及び少数の小穴のみで、その数は少ない。なお、調査区の東端部は現在の城原川にかけて徐々に低くなっており、当時谷状の暗部が東側に広がっていたことが推測される。

9区の調査では、弥生時代の土壙や溝跡・甕棺墓・小穴等、古墳時代初頭の井戸跡や土壙等、中世の土壙や溝跡・小穴等を確認したが、8区と同様に弥生時代のものが大半を占めている。弥生時代の遺構では、土壙は平面不定形で廃棄土壙の様相を呈するものが多いが、甕棺墓の周辺には祭祀土壙と考えられるものがあるほか、平面が長方形を呈し、竪穴住居跡と考えられるものを東端部において検出した。溝跡は調査区のほぼ中央部に集中しており、中でも4条の溝跡がほぼ並行に南北方向に延びているのは興味深い。甕棺墓は調査区の中央部北端において集中しており、調査区の外にさらに広がっている。古墳時代の遺構は平面円形の井戸跡や平面不定形の廃棄土壙等があり、中世の遺構は平面不定形を呈し、埋土の大半が灰層である廃棄土壙や、南北に延びる溝跡等があるが、その数は極めて少ない。

10区の調査区は範囲が狭く細長いため遺構の全体が不明なものが多いが、弥生時代の土壙や溝跡・小穴等がある。土壙は平面不定形と考えられ、廃棄土壙の様相を呈している。溝跡は8・9区で検出したものと同様に南北方向に延びている。小穴は比較的少なく、遺構全体の密度も8・9区に比較して低下している。

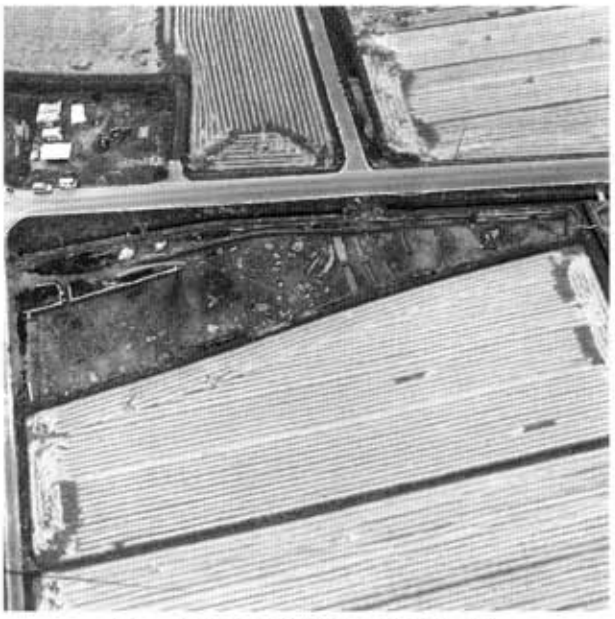
以上が拡張区の概要であるが、検出した遺構は出土遺物より弥生時代のものが大半であり、それ以降の時代のものは極度にその数が少ない。また、現況の耕作面から遺構面までの深さが約1ｍと深いにもかかわらず検出した甕棺墓は上部を消失したものが多い。これは後世の開発による削平ではなく、度重なる河川の氾濫に起因すると考えられ、検出面の上面には約0.1～0.2ｍの深さで包含層が認められる。これより、弥生時代の施設が河川

の氾濫などにより廃絶した後の時代において、何度か施設が営まれていたものが再び氾濫により消失したと考えることができる。さらに8区の東端部付近において認められた傾斜は現在の城原川に続くものであり、近世に城原川が現在の形状にされる以前の地形を知る上で良好な資料を得ることができた。このような状況から今回の調査区は地形的暗部の周辺部で、推定される集落の範囲から考えると縁辺部にあたるものと考えられるが、検出した遺構や出土遺物の量は多く、以前実施した県営ほ場整備に伴う発掘調査の結果をはじめとする調査結果と合わせて、その規模や内容を検討する必要がある。

9区全景（右が北）

8区全景（左が北）

9・10区全景（北より）



9・10区全景空中写真（北より）

図版7　利田柳遺跡8・9・10区

5　石土井（いしどい）遺跡1区（ＩＳＤ－２）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字薬師丸字石土井

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成11年8月～平成11年11月

調査面積

3,200㎡

図36　石土井遺跡１区位置図（1/25,000）

遺跡の概要

石土井遺跡は脊振山系から南へ派生する洪積台地（低位段丘面）の先端部から台地先端部が沖積層下に埋没した低地上に立地している。調査地の標高は3.6～4.0ｍを測り、北に向かってやや傾斜がきつくなる。調査地の西方300ｍには巨勢川が南北に流路をとる。

石土井遺跡の周辺には数多くの遺跡が存在し、村徳永遺跡、久富遺跡、友貞遺跡、上九郎遺跡等の遺跡で発掘調査が実施されている。それらの多くは石土井遺跡より北部域の洪積台地上に立地し、中でも村徳永遺跡では弥生時代中期後半から後期前半を主体とした掘立柱建物跡が100棟以上検出されており、大規模な集落が営まれたと考えられるほか、久富遺跡と友貞遺跡では弥生時代前期末～終末期の遺構が高密度で確認され、中期初頭から中期前半の遺構からは擬朝鮮系無文土器が出土している。

今回の調査において検出した遺構は、大部分が弥生時代に属する竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・土壙・溝跡等の遺構である。

竪穴住居跡は調査区西北部で1棟確認しているが、残存状況が良好でなく、詳細は不明である。

掘立柱建物跡は調査区北部で8棟確認している。建物は弥生時代中期後半から後期前半に属し、1間×2間及び2間×2間の規格である。また、建物方位をほぼ同じくした複数棟の建物が、丘陵縁辺部に沿って存在していたことを確認している。

井戸跡は2基確認している。いずれも断面2段掘りの形状を呈し、径1.5ｍ以上の比較的大型のものである。所属時期は1基が弥生時代前期末から中期前半で、もう1基が後期に属するものである。

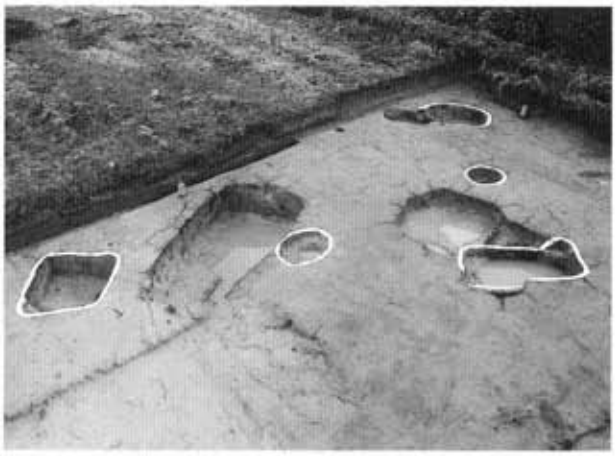
土壙は調査区全域で多数確認しているが、遺物が出土した遺構は少ない。その中で平面形が隅丸長方形で、断面がきつく立ち上がり底面がほぼ平坦なものが数基存在し、埋土中から弥生時代中期後半から後期前半の一括廃棄されたと思われる遺物がまとまって出土している。

溝跡は調査区南部の低地上で数条確認している。これらの溝跡は、壁面にほぼ定まった間隔を置いて水口と考えられる突出部が存在しているほか、水口部下りの溝底面には杭列や矢板列が認められたことから水田開発に伴う灌漑施設ではないかと考えられているが、所属時代については今回の調査においては断定することはできなかった。

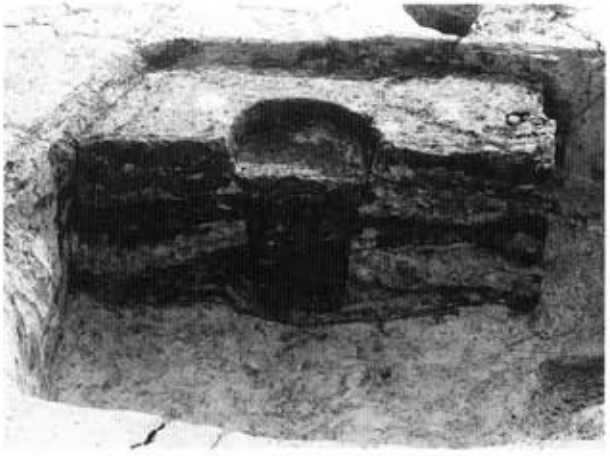
石土井遺跡１区（上が北）

石土井遺跡１区（南から）

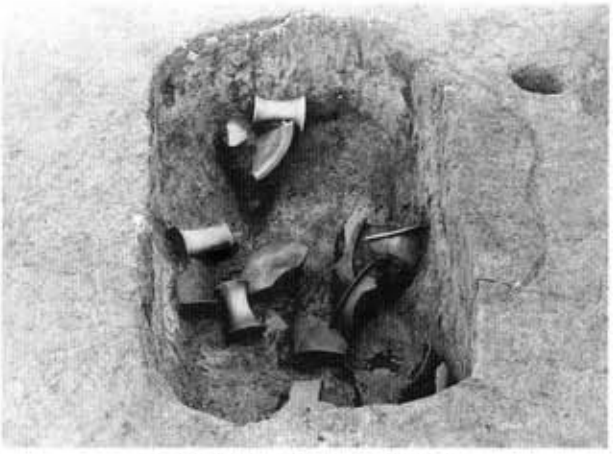
竪穴住居跡（SH1025）完掘状況



掘立柱建物跡（SB1072）



掘立柱建物跡柱穴土層断面



土壙遺物出土状況（SK1064）

図版８　石土井遺跡１区

6　野中遺跡1・2区（ＮＮＫ－1・2）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字若宮字野中

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成11年8月～平成11年10月

調査面積

850㎡

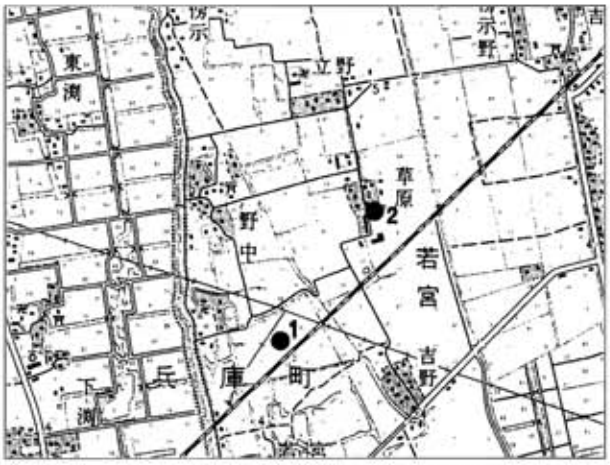


図37　野中遺跡１区(1)・２区(2)位置図（1/25,000）

遺跡の概要

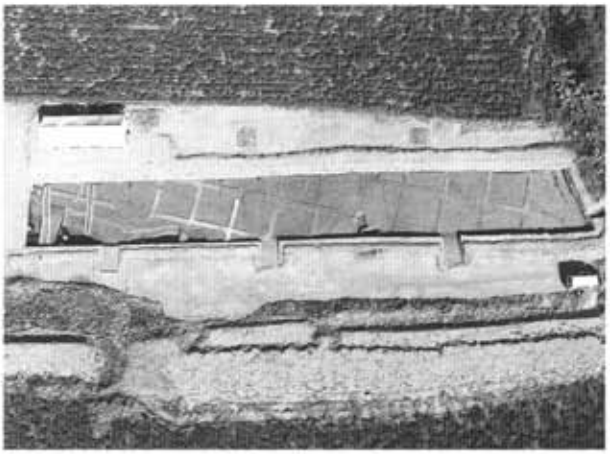
野中遺跡は地勢的には金立山南麓部の洪積丘陵以南に広がる沖積低地上に立地し、巨勢川東岸部標高3m前後の平地に位置する。周辺はほとんどが水田として土地利用されている低平地で、工事以前は縦横にクリークが存在した。一帯は遺跡の希薄な地域という認識があったが、ここ数年の確認調査で次々と遺跡の存在が明らかとなっている。野中遺跡もそのひとつである。

調査区は2地区に分かれており、西側の調査区を野中遺跡1区、東側を同2区とした。いずれも水路の建設によって遺跡が破壊されるため、記録保存することを目的とした調査であった。

調査の結果、1区では溝5条（ＳＤ1001・1002・1003・1004・1005）、土壙2基（ＳＫ1006・1007）を検出した。溝のうち、ＳＤ1001・1002は調査区西寄りで確認した北北西～南南東方向の溝で、東西方向の溝ＳＤ1003を切っている。両溝は土層観察の結果から調査区の中では最も新しい時期の遺構である。出土遺物は少なく、遺構の時期を明確に知り得るものではないが、それらの遺物及び層位・切り合い関係などの諸状況から、おおよそ近世と推定される。両溝の最大幅は0.5～0.8m前後、確認面からの深さは0.2m前後と小規模である。ＳＤ1003溝は調査区西寄りで検出した東西方向の遺構である。幅5m以上、確認面からの深さ1.2m前後を測る規模の大きな溝で、大部分は調査区外に展開する。遺物相から戦国時代前後の遺構と推定される。他の遺構の状況から前記の遺構と相前後する時期の遺構である。

野中遺跡2区は40㎡の狭小な調査区で、北から西側にかけてクリークに隣接する。検出した遺構は溝2条・土壙1基・その他柱穴もしくは小穴である。溝ＳＤ2001は最も新しい遺構であるが、近世～近代の遺物を包含し、隣接するクリークの縁が埋没したものである。このＳＤ2001に切られるのが、ＳＤ2002である。南北方向の溝であるが、大部分は調査区外に展開し、全容は把握できなかった。遺物は出土していない。また、柱穴と思われる小穴を10基ほど検出したが、列として把握するには至らなかった。

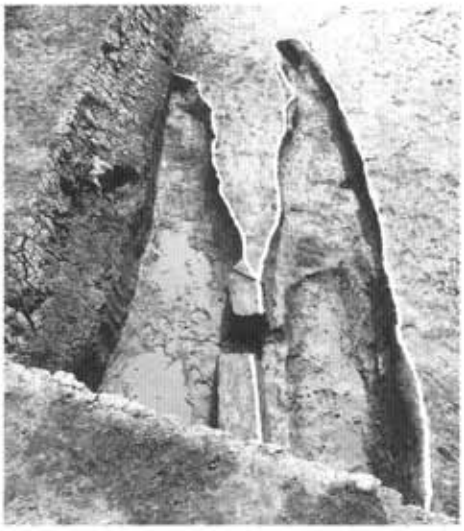
1区についてであるが、遺構の密度は薄く、溝が主体であって、居住に係る遺構は検出されなかった。おそらく集落の一部とは考えられるが、農耕地などの生業に係る遺構と考えられる。2区は遺跡の性格を把握するにはあまりにも狭小であるが、状況から調査区周囲には居住に係る遺構が広がっているものと考えら



野中遺跡１区全景（上が北）

野中遺跡１区全景（左が北）

１区 SD1003溝跡



１区 SD1004・1005溝跡

野中遺跡２区全景（右が北）

２区 SD2001溝跡遺物出土状況

図版９　野中遺跡１区・２区

7　八ツ溝（やつみぞ）遺跡（ＹＴＭ）

遺跡の所在地

多久市多久町八ツ溝

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成11年5月～平成12年3月

調査面積

5,400㎡

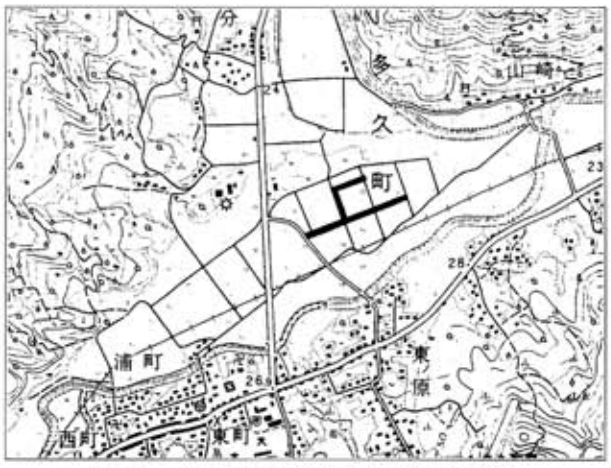


図38　八ツ溝遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

八ツ溝遺跡は多久市を東西に流れる牛津川と笹原方面より流れる山崎川の合流する地点の河成低地に立地する。この地点の農業基盤整備事業地区内における河成低地の面積は約670,000㎡である。平成8年度に当該地区すべてを対象とする試掘調査を行い、遺構・包含層を広い範囲で確認した。耕作土の下は砂や粘土が厚く堆積していた。また、ところどころに泥炭層が確認され、木製の鍬も出土した。また、近くの河川工事の際に、砂や粘土の下には阿蘇4の火砕流が堆積していることを確認した。

調査は平成9年度からの継続調査で3年目にあたり、約5,400㎡（13区～20区）の調査となった。今回の調査区は、九州横断道開発に伴い発掘調査された撰分遺跡の隣接地にあたり、今回は実質的にその続きの調査となった。調査の対象は遺構のほか、泥炭層・遺物包含層である。

13区は古墳時代の浅い溝を確認した。また耕作土からではあるが、赤いガラス玉が出土した。

14・15区は遺物包含層であり、縄文時代の良好な包含層を確認した。500点余りの石器と、縄文早期の押型紋土器が出土した。また15区の基本土層の火山ガラス分析の結果、鬼界アカホヤ火山とＡＴ火山灰が確認された。

16区は自然流路や井戸・小穴が発見された。井戸跡は径が約1ｍ、深さ約1ｍであり、石で壁を築いてあった。底からは曲物の一部が出土した。自然流路からは奈良時代の須恵器や古墳時代初頭の甕等が出土した。木製の容器も出土した。この流路の土層について自然科学分析を行った結果、稲の植物珪酸体が多量に検出され、稲作が近くで行われていた可能性が高いことが明らかになった。また、ごく少量ではあるが鞭虫卵も発見された。

17区は弥生時代・古墳時代の遺構を発見した。住居8軒（古墳時代初頭が7軒、弥生時代中期が1軒）を発見した。そのほかに、甕棺2基・祭祀土壙2基・土壙・小穴が発見された。3号住居と4号住居（切り合っていた）からは鼓形器台・二重口縁壺・鉄製の穂摘具が出土した。2号住居からは多量の土器が出土しており、出土状況より何らかの祭祀が行われたものと考えられる。そのほか、18区からは深さ約0.6ｍ、幅約2ｍの流路が発見され、奈良時代の土器が溝の底から出土した。また19区では中世の小穴群を発見、20区では自然流路が見つかり、多量の土器が出土したほか、甕棺の破片も多く含まれていた。

今回の調査における主な成果は、1）撰分遺跡の南への広がりの状態を確認できたこと、2）過去2年の調査に続き縄文時代の遺物包含層が確認され、八ツ溝地区には縄文時代早期から後期までの遺跡が広範囲に点在することが明らかとなったこと、3）火山灰分析の結果、遺跡の立地する八ツ溝地区の低地の堆積物がＡＴ降灰以後であることが推定されたこと、4）全国的にも稀な、弥生時代のものと思われる赤いガラス小玉が出土したことの4点が挙げられる。

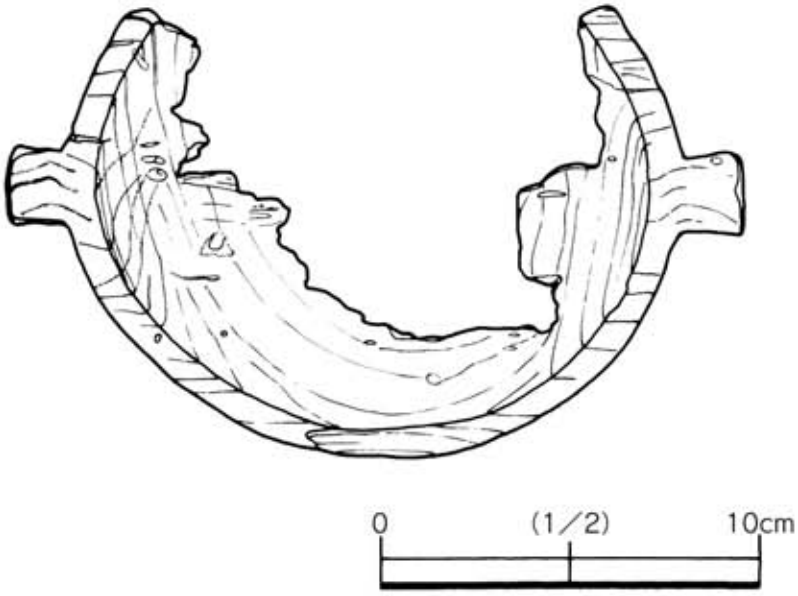


図39　八ツ溝遺跡出土木製品（取手付き刳り物）

図版10　八ツ溝遺跡

木製品出土状況

SI02住居跡

8　菅牟田荒谷遺跡（ＳＭＡ）

遺跡の所在地

唐津市菅牟田字荒谷

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成11年4月～平成11年9月

調査面積

2,160㎡

図40　菅牟田荒谷遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

唐津市の西域を占める、玄武岩質安山岩の溶岩台地である東松浦半島（通称上場台地）は標高150～200m前後のなだらかな準平原状の地形をなし、台地面では小河川の開析による緩やかな凹凸面を、また海岸線や平野部との境面では急激な傾斜面を形成している。遺跡はこの上場台地の南端域に属し、松浦川の支流である田中川の最上流地域にあたる。遺跡の東側は比高差180mと急激に落込む傾斜面になり、河川によって開析された狭い谷が山肌を刻んでいる。遺跡は標高180～190mと上場台地では高い位置にあり、東に流路を広げる小河川に向かって延び出す丘陵部に展開する遺跡群の一つである。

昭和50年以前から踏査によって、旧石器時代から縄文時代の遺物の散布状況から、遺跡の集中する地域として注目され、ゴルフ場建設や国営事業による農地開発及び水利事業によるパイプライン建設において幾つかの遺跡が発見され、菅牟田黒龍遺跡、菅牟田西山遺跡、竹木場前田遺跡、山田団六遺跡等、旧石器時代～縄文時代の重要遺跡が調査されている。

調査地は水田面が形成される河川沿いの湿地帯に延び出す丘陵のうち、耕地造成に伴い削平を受ける部分の4ケ所とし、それぞれＡ～Ｄ区とした。Ａ地区では河川に延び出す丘陵の先端の雑種地や旧畑地で、表土堆積が少なく基盤礫面が部分的には露出した地点であり、柱穴状のものや、やや大型の土壙状の掘り込みがみられたが、いずれも礫の掘り起こし跡と考えられ、明瞭な遺構は確認されなかった。遺物出土状況としては集散が認められ、時代的な占地の差が確認された。遺物は旧石器時代後期のナイフ形石器文化の石器群、縄文時代早期の押型文土器、同前期の轟式土器、曽畑式土器破片、晩期の粗製深鉢破片や石槍、石鏃、石匙、スクレイパー等の石器が出土した。特に、早期の石槍は小範囲に集中して検出され、柳葉形石槍と三角形の石槍状石器の出土状況はデポもしくは埋葬共献遺構の様態に類似するもので興味深い。Ｂ地区では、縄文時代早期～晩期の各時代の土器が包含層から出土した。しかし、明瞭な遺構はなく、遺物散布の状況で時代毎の遺跡占地の様態を考察することとなった。特に細い土紐状の並行貼り付けの隆帯文を持つ轟式Ｂ類土器は、前期前半の曽畑式土器と並行する土器群として平野部で注目されるものであり、上場台地では中尾二ツ枝遺跡に次ぐ出土例であり、河川での遡上例として重要である。Ｃ地区では、近世以後の粘土採取による攪乱が調査区の大部分を占めることがわかり、縄文時代早期後半の手向山式系の回転押形文土器が出土したが、遺構との関係は確認されなかった。今回の調査での最も広い面積地区であったＤ地区では、現在も水田耕作面として利用されていた地区で、表土下よりかつての耕作面の拡張沿革を示す、溝、杭跡等が検出された。下層は大きく2ケ所の遺物集中域がみられ、ほぼ旧石器時代の遺物群の集中単位（ユニット）と考えられた。遺物はこの集中域を中心に旧石器時代後期のナイフ形石器文化期のナ

イフ形石器、台形石器、彫器、削器等があり、石核と接合剥離剥片も検出されている。この他に弥生時代中期中葉段階の甕形土器も見られ、河川流域の当該時期の遺跡の展開が上場台地を広く覆うことがここでも確認されたことになる。また、近世期と考えられる平面形態方形の炭窯と考えられる焼土壙も検出され、丘陵先端の耕地に密着した炭窯の存在も、同じ上場地域の馬場甚蔵山遺跡等と同じものである。

今回の調査地は各地点とも、極めて限定された小範囲であるため、遺跡の様態までは迫れないものであるが、平野部との境界面に接する地域的な意義も各時代遺物群の存在から窺うことができるものであり、本報告では論及してみたい。

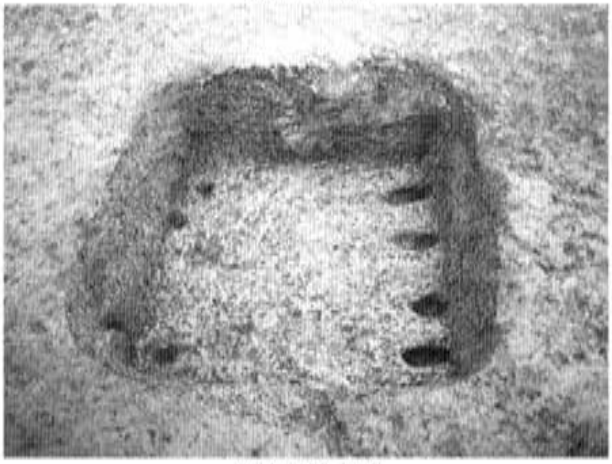
A地区全景

A地区縄文早期石核出土状況

B地区縄文前期（轟式）土器出土状況

C地区全景

D地区全景



D地区焼土壙

図版11　菅牟田荒谷遺跡

9　東山Ⅰ遺跡（SMA）

遺跡の所在地

　唐津市東山字縫城

調査主体者

　唐津市教育委員会

調査期間

　平成11年11月～平成12年3月

調査面積

　280㎡

図41　東山Ⅰ遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

唐津市の西域を占める、玄武岩質安山岩の風化台地である東松浦半島（通称上場台地）は標高150～200m前後のなだらかな準平原状な起伏をもつものである。台地の縁端は海岸線及び平野と急激な傾斜をもつ境線を呈し、独特の景観環境をつくりだしている。遺跡は台地を開析して仮屋湾に西流して注ぎ込む座川の開析谷の最上流部にあたり、小河川によって開析された谷に接する丘陵鞍部に位置する。遺跡は標高198mの比較的高い地点に立地しており、東側に緩やかな谷が、西側に傾斜面の厳しい谷が侵入していることになる。現在も上場台地では谷筋を利用した通路として重要な道であり、今回の道路工事もこうした利用申請がもとになるものである。

調査は現有道路面の拡幅工事に伴うものであり、限られた範囲での所見になり、部分的にしか遺跡の性格をとらえきれないものであった。調査区の大部分を占める水田耕作面は、経年の耕地改良に伴い、谷の客土によって平坦かつ広面積の水田をつくりだしており、表土掘削及び盛土等の客土の被覆を除去するとやや削平を受けた礫混じりの軟質の粘質土層が検出され、漸次下層に向かい硬質粘質土層になる様子が確認された。包含される礫は多量に及び、調査区の北側と中央部ではその集散に差があること、また石器及び土器がこの礫の集中域に有機的に関連したような状況が看取されたため、土質の変化もあわせて遺構という観点で検出精査を行うこととし、礫集合の単位と様態をつぶさに記録した。この結果、旧石器時代終末期から縄文時代早期～晩期、弥生時代前期、古墳時代前期に及ぶ石器及び土器と礫の包含土層が部分的に調査区の中央広範囲に展開すること、また、不安定な平面形態をなす土壙状の変色面が礫の散布にともない検出された。しかし、調査の結果、この遺構の底面は凹凸が顕著であり、人工的な遺構とは為しがたく、風倒木による攪乱の可能性が指摘される。

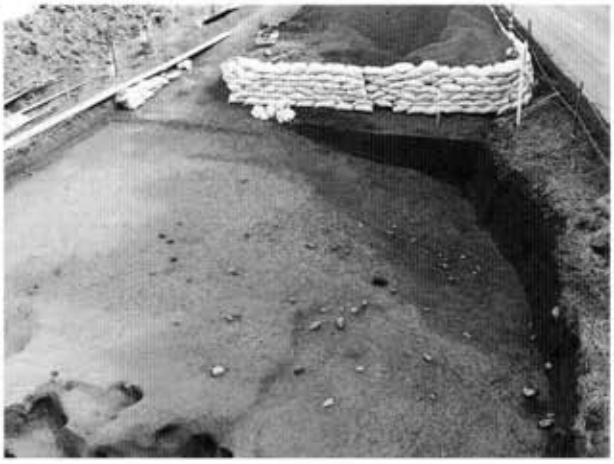
出土した各時期の遺物は、旧石器時代終末段階の細石器文化後半の削片系細石核及び細石刃、縄文時代早期では押型文土器破片、晩期中葉の黒川段階の粗製深鉢、精製浅鉢破片、石器では石鏃、スクレイパー等が見られ、弥生時代前半期の板付Ⅱ段階の口唇やや下よりに刻みを施す如意口縁の甕形土器が検出された。また、破片が主体であるが、古墳時代前期の土師器甕や小型壺も出土した。

これらの遺物群は、遺跡が各時代毎になんらかの場を提供してきたことを明瞭に示すものであり、遺跡の性格を考える上で重要である。特に旧石器時代終末の細石器文化遺跡はこの東山地域の近接する菅牟田、竹木場、また肥前町側の切木から低盆地沿いに展開する八折江、大浦溜等に集中するもので、従来指摘された細石器文化の内水域に密接した展開、河川との関連性も言及されうる立地環境が見受けられる。この削片系細石核は、所謂半船底形細石核といわれるものである。これは、細石刃剥出の反対面に背縁をもつもので、この背縁から剥離調整によって側面加工調整を施し、正面観がV字になる「石ケ元型」と呼ばれるものである。

非削片系細石核を含む、細石器文化期の遺跡は、A．小河川に延び出す丘陵端、B．両側に谷を形成する緩鞍部にみられ、Aタイプに属するものとして原遺跡、石ケ元下道遺跡、梨河内村前遺跡等があり、Bタイプとして中尾二ツ枝遺跡、コクダシ遺跡等があり、本遺跡はこのBタイプの立地条件下にあることになる。いずれも現在の水田地、かつては湿地帯に近接するめものであることはこの時期の遺跡立地の特徴であり、本遺跡の東側に広がるやや広い水田域はこの部分と考えられる。

今回の調査は、このように、上場地域の各時代の水系による遺跡の立地に貴重な資料を提供したものと考え、詳細な分析によって報告を検討していきたい。

調査区（東側）



調査区（中央部）

遺構状凹地

遺構状凹地土層

図版12　東山Ⅰ遺跡

10　岸高Ⅱ遺跡（ＫＩＤⅡ）

遺跡の所在地

唐津市半田字桜崎

調査主体者

唐津市教育委員会

調査期間

平成11年4月～平成11年9月

調査面積

2,000㎡

図42　岸高Ⅱ遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

当遺跡は、唐津市の東端部の半田地区に位置する。脊振山系から北に延びる丘陵が、平野部へと移行するその先端部分の、標高約40mの地点に遺跡は立地している。遺跡の北側を、東西に半田川が流れ、1.5km程下流で宇木川と合流し、さらに下流で松浦川に注ぐ。この半田・宇木川両岸の平野部とその周辺の丘陵部は、唐津市内でも特に遺跡が密集する箇所である。この地区には、導入期の青銅器類を、大量に副葬する甕棺墓群が確認された宇木汲田遺跡や、国内で始めて学術調査が行われた支石墓である、国指定史跡の葉山尻支石墓など全国的に著名な遺跡が立地する。これ以外にも、前漢鏡である日光鏡が出土した田島遺跡、世界的にみても数例しか確認されていない、触角式有柄銅剣が出土した柏崎遺跡、「肥後型」横穴式石室に分類される石障系石室をもつ樋の口古墳など重要な遺跡が立地している。

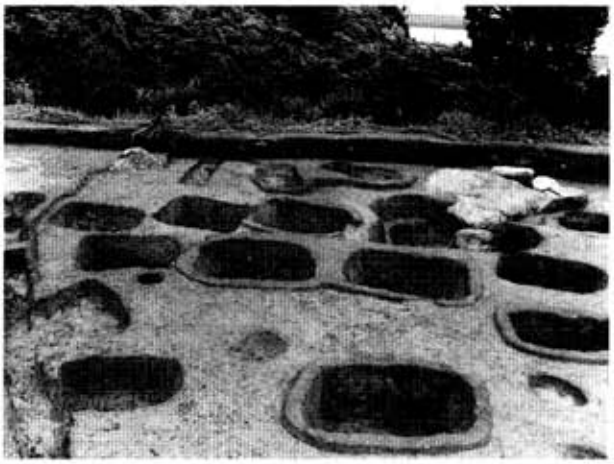
今回の調査は、工事面積8.5haのうち、平成１０年度に行った試掘調査の結果に基づき、中世の土壙墓内より完形の青磁椀が出土した地点を中心に、2,000㎡について行った。

調査の結果、弥生時代の壺棺墓、甕棺墓各1基と、中世の土壙墓26基、近世の土壙墓37基、不明遺構11基を確認した。壺棺墓は、上部の大半が削平を受けており、下ガメ（壺）の一部が残存するのみで、堀方は不明である。しかし、付近から固まって出土した土器片を水洗・接合した結果、大型の壺と粗製の深鉢の組み合わせであることが解った。前述したとおり、遺跡の西側約30mの地点には消失した岸高支石墓が立地し、また、地権者の言によれば、昭和40年代前半のミカン園開墾の際に「大きく平らな石が数個存在していた」とのことで、実際、調査区南側の谷部へ向かう斜面上に花崗岩の掌石状の大石を確認していることから、壺棺墓は当地点に存在した支石墓の埋葬施設、もしくはそれに付帯する墓であった可能性がある。もう一方の甕棺墓は、堀方自体が確認できず、削平の際に比較的近い場所からまとまって移動したものと思われる。土器の上位及び周辺から、ガラス製小玉36個、勾玉1個が出土した。中世墓は、検出した26基中3基より遺物が出土した。うち1基は、試掘調査の際に確認したもので、完形の蓮弁文の青磁碗1点が副葬されていた。残る２基のうち1基からは、同じく完形の蓮弁文をもつ青磁碗１点と、これも完形の白磁碗１点、土師皿３点、鉄刀子１点が遺構東端に集中して出土した。もう１基の中世墓からは、ほぼ完形の黒色土器椀２点と、土師皿４点が出土した。青白磁碗を副葬する２基の中世墓は、丘陵の北端に位置し、黒色土器を副葬する中世墓は、反対の丘陵南端に位置する。時代が下るにつれ、丘陵突端へと占地を広げたものか。近世墓は、検出した37基中半数以上の19基より遺物が出土した。遺物は、陶磁器類の他10基の土壙内より銅銭が出土した。銅銭は単独で出土することが多く、２基の土壙墓に限って磁器碗、漆器とともに出土した。また、銅銭の中には布に包まれた状態で出土したものも確認した。近世墓の

平面プランは、大半が隅丸の長方形をなし、主軸を南北方向に合わせている。

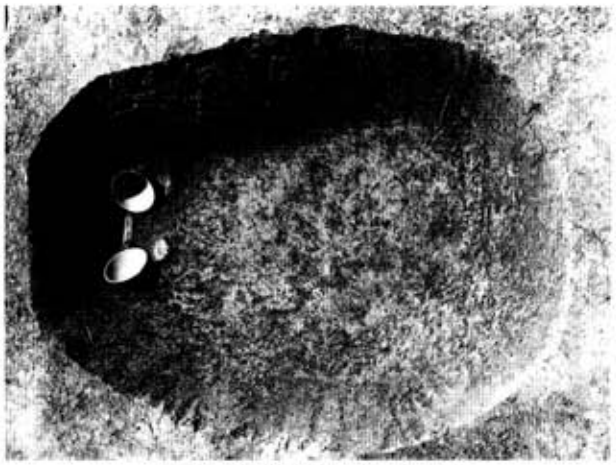
以上のことから、古墳時代の遺物を副葬する墓は確認できなかったものの、当地が弥生時代早期から近世まで連綿と続く墓域であったことが窺える。

岸高II遺跡（遠景：北から）



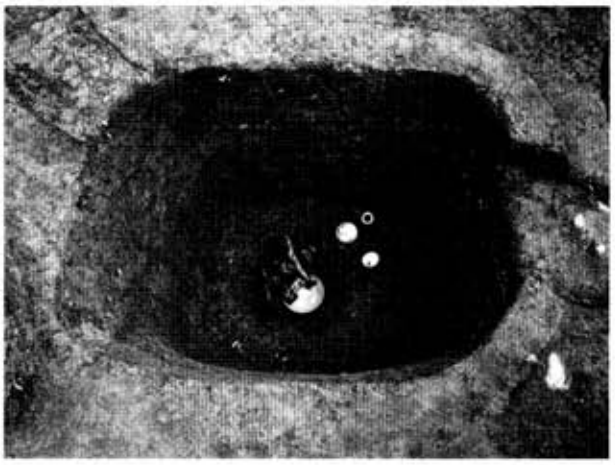
遺構完掘状況

SJ34甕棺墓検出状況



SK07土壙墓遺物出土状況

SK46土壙墓遺物出土状況



SK39土壙墓遺物出土状況

図版13　岸高II遺跡

11　外原（そとばる）遺跡（ＳＯＢ）

遺跡の所在地

　唐津市半田字外原

調査主体者

　唐津市教育委員会

調査期間

　平成11年9月～平成12年9月

調査面積

　2,400㎡

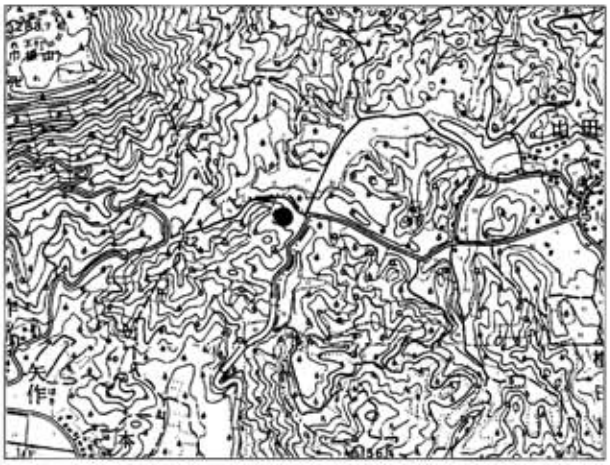


図43　外原遺跡位置図（1/25,000）

遺跡の概要

外原遺跡は、唐津市と浜玉町にまたがる、鏡山から延びる丘陵と、脊振山系から続く丘陵の鞍部にあたる地点に立地する。唐津市のまさに東端部にあたり、調査区の北・東側はほぼ浜玉町の境と接している。当遺跡の周辺地は、最近まで調査例も少なく、周知化された遺跡も少ない状況であった。しかし、平成6年から始まった西九州自動車道建設に伴う調査や、その他の開発に伴う調査によって新たな遺跡が発見されてきている。外原遺跡の東側の丘陵上では、赤野遺跡が新たに確認され、佐賀県教育委員会と浜玉町教育委員会の合同調査が行われた。その結果、古墳時代の住居跡の他、阿蘇Ⅳ火砕流のものと思われるテフラ堆積層が確認された。また、外原遺跡の北東800mの地点では、岩根遺跡が発見され、製鉄関連遺構が確認された。

今回の調査では、工事面積1.2haのうち、平成10年度に行った試掘調査で確認した炭窯跡を中心とした2,400㎡について調査を行った。当地区は、東西に延びる2つの丘陵に挟まれた狭い谷部にあたり、調査の結果、この谷が特に南側の丘陵が急斜面で落ち込むＶ字形の谷であることがわかった。

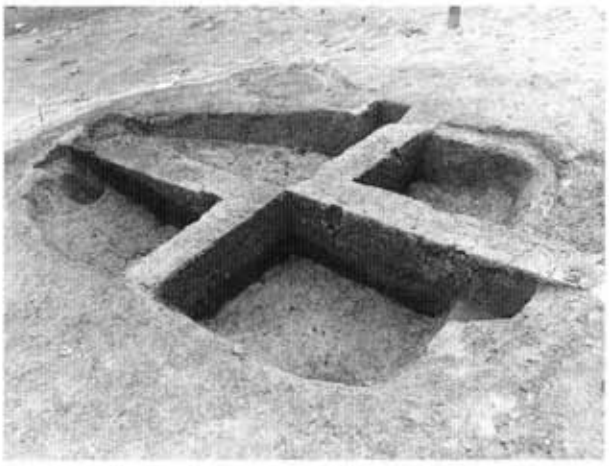
調査の結果、9基の炭窯跡と、2棟の掘立柱建物跡、柵列の他、谷底部より旧石器時代・縄文時代の石器を確認した。9基の炭窯のうち、６基は斜面上に造られており、残る３基は谷底部分に形成されていた。斜面上に造られた炭窯のほうが概して大きく、平面プランも炭窯の奥壁部分が直線的で、ちょうどレモンを半分に切ったような形をしているのに対し、谷底部分に造られた炭窯は小さく、楕円形の平面プランをもつ。前者の中には、長さが２ｍを超えるような大型のものもあり、火熱により壁の周囲が５cm程の厚さで灰色に変色している窯跡も確認された。掘立柱建物跡は、１間×１間と１間×２間の２棟を確認した。いずれも、柱痕が確認できず遺構の残存状況も悪いため、柱穴との断定は難しいが、炭焼きの際の仮小屋的な建物を想定している。柵列は、そのほとんどが南側斜面に集中しており、斜面にほぼ平行して並ぶ。伐採した樹木の仮置き場あるいは、伐採樹木や土砂の流入を防ぐ機能を持たせたものか。

今回の調査では、岩根遺跡での調査結果を鑑みて、製鉄関連遺構の検出を想定して調査を行った。しかし、残念ながら今回の調査では炭窯以外の製鉄炉跡、鍛冶炉跡等の製鉄遺構の本体部分は確認できなかった。ただし、時期が確定できないものの、炭窯への水の影響を抑える目的で掘られたと思われる溝が、炭窯のまわりから確認されたこと、調査区東端、谷の下流部分で大幅な掘削による平坦面の造り出し部分が確認できたことから、工事予定地外の、谷のさらに下流部分に、製鉄関連遺構が存在する可能性は捨て難い。また、ナイフ形石器をはじめとする石器は、いずれも谷底部分より出土しており、調査区北側の狭い丘陵延び出し部分からの流れ込みと思われる。これまで、唐津市内の旧石器時代の遺物は、鏡山山頂付近からの出土例を除いてそのほとんどが、唐津市

南西部の通称「上場台地」とよばれる標高200mほどの台地上での出土例が主で、市内東部での旧石器時代の人々の足跡を示す貴重な資料を得ることができた。

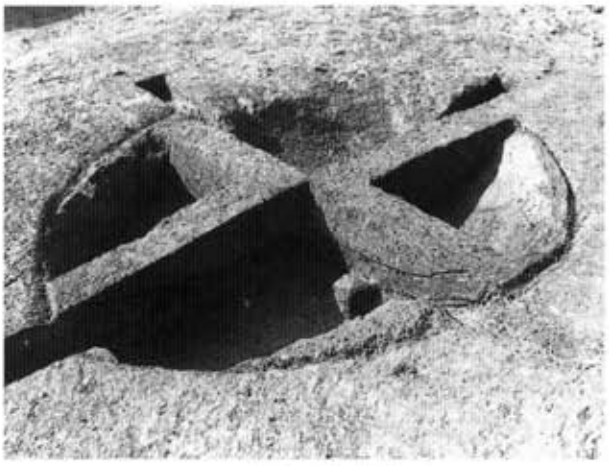
外原遺跡（遠景：南から）

遺構完掘状況



SK02炭窯跡半裁状況

SK06炭窯跡半裁状況



SK10炭窯跡半裁状況

SK30炭窯跡半裁状況

図版14　外原遺跡

Ⅳ．まとめ

平成11年度に実施された農林業基盤整備事業に係る確認調査・発掘調査は17市町村で行われた。このうち確認調査では108,750㎡の遺跡の広がりが確認され、発掘調査では25,850㎡の遺跡について記録保存を実施している。以下に地区毎に概要をまとめる。

佐賀東部地区　佐賀東部地区では調査対象面積14.7ｈａに対し、鳥栖市鳥栖北部地区、中原町九千部山横断線、東脊振村佐賀東部地区の3地区で確認調査を実施し、中原町・東脊振村の2地区で計1,400㎡の遺跡を確認した。遺跡の内容としては、中原町の九千部山横断線では中世山城である鷹取山城に関連するかと思われる通路状の遺構が確認された。また、東脊振村の佐賀東部地区では弥生時代中期を中心とした竪穴住居跡・掘立柱建物の柱穴などが確認され当該期の集落跡と考えられるほか、環濠の可能性を持つ大溝（ＳＤ097）が検出されており、以前のほ場整備における調査結果に加えて新たな知見が得られている。

発掘調査については、中原町・上峰町・神埼町の3地区で行った。中原町の九千部山横断線では鷹取山遺跡Ⅲ・Ⅳ区の調査を実施し、土塁・通路・焼土壙などが検出され、特に通路については集落と山城を結ぶ登城ルートのひとつである可能性が高い。上峰町では県営かんがい排水事業に伴い、船石遺跡・船石南遺跡について調査を実施したが、このうち、船石遺跡では弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡・土壙などが、また船石南遺跡では同じく弥生中期から後期の竪穴住居跡・土壙・甕棺墓・周溝状遺構などか確認され、ほ場整備の際の発掘調査成果を補填するのと言えよう。また、神埼町では農道拡幅に伴い利田柳遺跡の調査が行われ、弥生時代の土壙・溝跡・小穴・甕棺墓などが確認され当該期の集落の縁辺部と推定されるほか、古墳時代初頭の井戸跡や土壙、中世の土壙・溝跡・小穴なども検出されている。

佐賀西部地区　佐賀西部地区では調査対象面積77.9ｈａに対して佐賀市金立東部地区・兵庫北部地区・幹線水路徳永線、富士町佐賀北部2期地区で確認調査を実施し、このうち金立東部地区で93,000㎡の遺跡の広がりを把握したが、遺跡の内容は弥生時代、平安時代から中世にかけての集落跡である。

また、発掘調査については、同じく金立東部地区に含まれる佐賀市石土井遺跡、兵庫北部地区の野中遺跡、多久市八ツ溝遺跡について実施した。石土井遺跡では竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸・土壙・溝跡などが検出され、弥生時代の集落跡と考えられるほか、杭列・矢板列を伴う溝数条を確認しており、時期については不明なものの、灌漑施設の可能性が考えられている。野中遺跡では中世末及び近世期の溝状遺構などが検出され、集落の縁辺部と推定される。また多久市八ツ溝遺跡の発掘調査は平成9年度から継続して実施しており3カ年目となるが、平成11年度の調査では縄文時代・弥生時代～古墳時代・奈良時代の集落跡・遺物包含層が確認されている。

佐賀南部地区　佐賀南部地区では調査対象面積79.9ｈａに対して武雄市武雄北部2期地区、鹿島市多良岳2期地区、有明町龍王溜池で確認調査を実施し、このうちで鹿島市・有明町で計1,450㎡の遺跡を確認した。鹿島市では広域農道の多良岳2期地区の確認調査で明治初頭以降の陶磁器窯である浜町皿山窯跡の確認調査を実施し、窯跡の残存状況・物原の範囲を明らかにした。特に平成4年度の調査で確認できなかった物原の範囲を把握できたのは工事計画との調整を図る上で重要である。また、有明町では龍王溜池改修工事に伴い堤の構造を把握するため確認調査を実施したが、近世期に遡る高度な石垣構築技術や石組みの樋管の構造について調査を行う機会を得たのは貴重であった。県内ではこれまで堤についての調査例はほとんど皆無であり、龍王堤の調査成果は今後近世の土木関連遺構の調査を行う上で重要である。

なお、このほか現地踏査のみであるが、武雄市広域林道杵島山線では標高約160ｍの山中で安山岩露頭に刻ま

れた石割に伴う矢穴を確認しており、近接して斜面上に石垣を構築して平坦面を造成した遺構が確認されている。また矢穴を刻んだ石・露頭は周辺部にも散在しており、かつては石切り場であったと推定される。時期についての手掛りはないが、近世以降、戦前までの時期幅と推定され、農林部と協議の上、矢穴を持つ岩の移設、石垣ラインの記録保存等で対応している。

佐賀北部地区　佐賀北部地区では調査対象面積95.0ｈａに対して伊万里市煤屋地区・峰地区・小木原線、相知町浅井谷線、浜玉町ひれふり地区・今坂地区で確認調査を実施し、このうち伊万里市・浜玉町で計10,500㎡の遺跡を確認した。伊万里市では林道小木原線の確認調査に伴い黒曜石の剥片・チップ等を含む遺物包含層を確認し、平成12年度に発掘調査を行うこととしている。また、浜玉町では県営畑地帯総合整備事業ひれふり地区の確認調査に伴い3つの地区で古墳時代の墳墓を確認しており、古墳2基、墳丘未確認の竪穴式石室1基、石棺墓1基などの存在が明らかとなっている。このうち「小山田古墳」とされたものは直径30ｍを超える大型円墳で、内部主体に未盗掘の竪穴式石室を伴い墳丘の残存度も良好である。径30ｍという規模は古墳時代前期においては東松浦地域のみならず肥前東部地域でも最大級であり、同町内の国史跡谷口古墳・横田下古墳、径28ｍ円墳である経塚山古墳（畿内型の長大な竪穴式石室を伴い、方格規矩鏡1面を出土）と並んで当該地の首長墓系列を形作っていたものと推定される。今後、古墳の保存について農林部局と協議を図っていきたい。

このほか、相知町の浅井谷線の確認調査では標高100ｍの尾根上で弥生土器の甕・壺が確認されており、遺構については未確認であるものの、弥生時代の遺跡の密度が非常に薄い当該地にあって、当時の生活圏を考える上での示唆となろう。

佐賀上場地区　佐賀上場地区では調査対象面積68.0ｈａに対して唐津市鵜の尾地区・宇木半田2期地区、玄海町玄海支線24号農道、肥前町赤坂地区で確認調査を実施し、このうち唐津市の鵜の尾地区で2,400㎡の遺跡を確認した。鵜の尾地区の確認調査は平成10年度から継続して実施しているが、古墳・近世墓のほか鉄滓が検出されているため、製鉄関連遺構の存在も推定される。

発掘調査は唐津市の4遺跡で実施され、このうち、上場台地上の菅牟田荒谷遺跡・東山Ⅰ遺跡では旧石器時代～縄文時代の遺物包含層の調査を行った。菅牟田荒谷遺跡では旧石器時代のナイフ形石器や縄文時代の押型文土器・石槍が、東山Ⅰ遺跡では礫群のほか、細石刃・細石核など旧石器時代の、また縄文時代の土器・石器、弥生時代・古墳時代の土器も確認されている。また、鏡山南麓側の宇木・半田川流域では岸高Ⅱ遺跡・外原遺跡の調査が行われ、岸高Ⅱ遺跡では弥生時代の壺棺墓・甕棺墓、中世の土壙墓、近世の土壙墓が確認されている。このうち、中世の土壙墓は26基、近世の土壙墓は37基と数多く検出されており、中世墓では青磁碗・白磁碗・鉄刀子などの、また近世墓では陶磁器・漆器・銅銭などが副葬品として出土した。当該期の墓地の様相を把握できる好資料と言える。外原遺跡では炭焼窯、掘立柱建物跡、柵列などが確認されたが、特に炭焼窯についてはＣ14，年代測定により12～13世紀の所産と推定され、中世に遡る炭焼窯の数少ない調査例として貴重である。

以上、地区毎の概要について述べた。県下における農林業基盤整備事業は開発面積の上では年々減少している。このことは佐賀平野域における大規模なほ場整備がほぼ一段落した点に起因するが、反面、事業の数としては逆に増加の傾向にあり、小規模な農道・林道建設、かんがい排水事業（導水管埋設）など線的な工事が多くなってきている。これらには、今回確認調査を実施した東脊振村佐賀東部地区、発掘調査を実施した上峰町船石・船石南遺跡など、過去のほ場整備の際発掘調査を行った地点の隣接地内での開発が見られ、当時盛土保存とした部分を改めて調査を行うといったケースが出てきている。この傾向は今後も続くものと思われ、遺跡の保存と工事の

実施について細かな協議が必要となろう。農道・林道建設は従来文化財の有無について情報が乏しかった山間部へと延びてきており、例えば中原町鷹取山遺跡や相知町浅井谷線の確認調査などでは標高100～200mの深い山中で遺構・遺物が確認されている。特に県下の中世山城についてはその分布・遺跡の範囲（縄張り）についての詳細はほとんど明らかになっておらず、農林事業の計画策定と円滑な調整を図るためにも十分な分布調査が急がれている。このほか、平成11年度は有明町龍王堤に見られるような近世以降の土木関連遺構について確認調査を実施する機会を得た。農林事業の性格上、堤・水路・堰など水利関連の施設に係るケースが多く、中には近世期から大きな改変を被らずに遺存しているものも見られ、土木技術の変遷を考える上でも重要な資料と言える。こういった資料について、どのような形で文化財調査を実施し、また如何にしてその保存に関して農林事業との調整を図っていくのか、今後の課題である。

Ⅴ．資料－平成12年度農林業基盤整備事業等に係る文化財調査一覧表－

市町村名	地区名	事業名	工事量	主管課	遺跡名	取扱い内容
佐賀市	佐賀中部	大井手幹線水路工事	橋梁　1箇所	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
佐賀市	佐賀中部	嘉瀬排水路工事	460m	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
佐賀市	佐賀中部地区	市の江川副幹線水路工事（上流）	500m	佐賀中部農地防災事業所	筑洲遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
佐賀市	幹線水路徳永線	筑後川下流事業	450m	筑後川下流農業水利事務所	周知外	確認調査実施、支障なし。
佐賀市	金立東部地区	県営ほ場整備事業（担い手育成型）	31.7ha	農村整備課	上九郎遺跡	確認調査実施、遺構有り。要本調査。
佐賀市	兵庫北部地区	県営ほ場整備事業（担い手育成型）	24.1ha	農村整備課	野中遺跡	確認調査実施、支障なし。
唐津市	唐津東部地区	県営中山間地域総合整備事業	6.8ha	農村整備課	鵜ノ尾古墳群	確認調査実施、遺構有り。要本調査。
	半田宇木地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	189m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	半田宇木２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	300m	農村整備課	周知外	確認調査実施、支障なし。
鳥栖市	轟木・幸津地区	県営ほ場整備事業（担い手育成型）	6.8ha	農村整備課	周知外	確認調査実施、支障なし。
	鳥栖地区	県営かんがい排水事業	1,600m	農村整備課	惣楽遺跡ほか	確認調査不要、支障なし。
	鳥栖地区	県営かんがい排水事業	揚水機場　0.2ha	農村整備課	本行遺跡	確認調査実施、支障なし。
	九千部山横断	広域基幹林道開設	800m/1.6ha	林政課	勝尾城	確認調査不要、支障なし。
	神辺	県単林道開設	200m/0.4ha	鳥栖市（林政課）	立石開拓古墳群	確認調査不要、支障なし。
多久市	八ッ溝地区	県営ほ場整備事業（担い手育成型）	8.0ha	農村整備課	八ッ溝遺跡	平成12年度本調査予定。
	藤ノ川内２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	西山地区	ふるさと農道緊急整備	370m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	井上支	ふるさと林道緊急整備	200m/0.4ha	多久市（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
伊万里市	煤屋地区	基盤整備促進事業	200m	伊万里市（農村整備課）	周知外	確認調査実施、支障なし。
	大野岳３期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	800m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大陣岳２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	300m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	松浦２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	250m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大川内地区	ふるさと農道緊急整備	114m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大野岳２期地区	ふるさと農道緊急整備	500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	滝野	普通林道開設	1,100m/2.2ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大川眉山	普通林道開設	900m/1.8ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大野岳	ふるさと林道緊急整備	300m/0.6ha	伊万里市（林政課）	大野岳烽跡	確認調査不要、支障なし。
	小木原	ふるさと林道緊急整備	230m/0.46ha	伊万里市（林政課）	腰岳遺跡群	確認調査実施、要協議。
	倉谷	県単林道事業（作業道）	290m/0.58ha	伊万里市（林政課）	念作遺跡	確認調査不要、支障なし。
	大野岳	生活環境保全林整備	19.0ha	森林整備課	大野岳烽跡	確認調査不要、支障なし。
	野々頭	集落水源地整備	5.0ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	峰	地すべり防止事業	1.0ha	森林整備課	楠殿屋敷跡	確認調査実施、支障なし。
武雄市	武雄北部２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	1.0ha	農村整備課	古屋敷窯跡	確認調査実施、支障なし。
	武雄北部地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	1.3ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	武雄北部地区	ふるさと農道緊急整備	0.0ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。

	杵島山	広域基幹林道開設	970m/1.94ha	林政課	片白古墳群ほか	矢穴を持つ岩盤露頭、石垣状遺構有り、慎重工事。
	柚ノ木原	ふるさと林道緊急整備	460m/0.92ha	武雄市（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	赤穂山～内田	ふるさと林道緊急整備	230m/0.46ha	武雄市（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	柏岳	生活環境保全林整備	3.0ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
鹿島市	嘉瀬ノ浦地区	基盤整備促進事業	1,000m	鹿島市（農村整備課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	江副２期地区	ふるさと農道緊急整備	400m	農村整備課	箱崎遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
	多良岳２期地区	広域営農団地農道整備事業	440m	農村整備課	浜町皿山窯跡	確認調査実施、遺構有り。要本調査。
	多良岳地区	広域営農団地農道整備事業	80m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
川副町	佐賀中部地区	市の江川副幹線水路工事（下流）	600m	佐賀中部農地防災事業所	鰡江遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
久保田町	佐賀中部地区	久保田第２排水機場工事	機場　１箇所	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
	佐賀中部地区	久保田３排水路工事	500m	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
大和町	佐賀西部導水路	筑後川下流事業	1,030m	筑後川下流農業水利事務所	下村遺跡ほか	確認調査不要、支障なし。
	三反田	普通林道開設	400m/0.8ha	大和町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
富士町	佐賀北部２期	広域営農団地農道整備事業	1,300m	農村整備課	周知外	確認調査実施、支障なし。
	関屋地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	100m	農村整備課	馬場野遺跡	確認調査不要、支障なし。
	菖蒲池地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	620m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	無津呂地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	540m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	御民田	普通林道開設	300m/0.6ha	富士町（林政課）	貝野遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
	二本松大月	普通林道開設	400m/0.8ha	富士町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	藤瀬	水土保全緊急間伐	300m/0.6ha	富士町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	中敷	森林空間総合整備	400m/0.8ha	富士町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
神埼町	城原金立線	筑後川下流事業	500m	筑後川下流農業水利事務所	原の前遺跡	要協議。
	日出来地区	ふるさと農道緊急整備	380m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
千代田町	城田西地区	ふるさと農道緊急整備	500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
東脊振町	佐賀東部地区	県営かんがい排水事業	1,800m	農村整備課	西前田遺跡他	工事立会調査実施、遺構有り。記録保存後に工事実施。
	九千部山横断	広域基幹林道開設	150m/0.3ha	林政課	周知外	要協議。
	蛤岳横断	広域基幹林道開設	200m/0.4ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
脊振町	蛤岳横断	広域基幹林道開設	400m/0.8ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	川原田	普通林道開設	300m/0.6ha	脊振村（林政課）	大迎遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
基山町	九千部山横断	広域基幹林道開設	200m/0.4ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
中原町	九千部山横断	広域基幹林道開設	400m/0.8ha	林政課	鷹取山遺跡	確認調査実施、遺構有り。本調査予定。
	三養基地区	県営かんがい排水事業	0.06ha	農村整備課	周知外	要協議。
北茂安町	三養基地区	県営かんがい排水事業	0.13ha	農村整備課	赤瀬上居	確認調査不要、支障なし。
上峰町	三養基地区	県営かんがい排水事業	0.15ha	農村整備課	二本柳古墳群他	確認調査不要、支障なし。
小城町	牛尾地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	400m	農村整備課	牛尾城跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
	湯ノ谷地区	県営一般農道整備事業	200m	農村整備課	鏡山古墳群	確認調査不要、支障なし。
三日月町	佐賀中部地区	三日月１号排水路工事	600m	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
	佐賀西部導水路	筑後川下流事業	1,040m	筑後川下流農業水利事務所	赤司遺跡	要協議。

	三日月北部地区	県営土地改良総合整備事業	1,600m	農村整備課	久米遺跡	確認調査不要、支障なし。
	三日月第１地区	基盤整備促進事業	0.2ha	農村整備課	今市遺跡	確認調査不要、支障なし。
牛津町	佐賀中部地区	牛津２号排水路工事	300m	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
芦刈町	佐賀中部地区	芦刈１号排水路工事	400m	佐賀中部農地防災事業所	周知外	確認調査不要、支障なし。
	芦刈南部地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
浜玉町	ひれふり地区	県営畑地帯総合整備事業	21.6ha	農村整備課	大岩西遺跡ほか	確認調査実施、遺構有り。本調査予定。
	今坂	農業生産体制強化総合推進対策事業	10ha	園芸課	周知外	確認調査実施、支障なし。
七山村	水上地区	基盤整備促進事業	5.4ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	滝川地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	150m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	藤川２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	151m	農村整備課	城ノ元遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
	馬川地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	3,300m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	滝川地区	ふるさと農道緊急整備	橋梁下部工　１ヶ所	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	荒川～天川	広域基幹林道開設	460m/0.92ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	道太郎～蟹川	普通林道開設	167m/0.33ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	道太郎～蟹川支	林業構造改善事業（作業道）	1,000m/2ｈ	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大立平支	林業構造改善事業（作業道）	700m/1.4ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	袋底	保安林管理道整備	150m	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
厳木町	浪瀬２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	685m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	岩諸～栗ノ木	林業地域総合整備	300m/0.6ha	厳木町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	滝山	林業地域総合整備	200m/0.4ha	厳木町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
相知町	大野地区	基盤整備促進事業	360m	相知町（農村整備課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	蔵野地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	300m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	蔵野地区	ふるさと農道緊急整備	300m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	障の山	普通林道開設	600m/1.2ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	浅井谷	普通林道開設	400m/0.8ha	相知町（林政課）	周知外	確認調査実施、支障なし。
	平山	保安林管理道整備	150m	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	蔵野	地域防災対策総合治山	2.0ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
北波多町	帆柱地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	250m	農村整備課	飯洞甕窯隣接地	確認調査不要、支障なし。
	霧差地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	350m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	岸山地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	300m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
玄海町	藤平地区	基盤整備促進事業	414m	玄海町（農村整備課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
	榊田地区	基盤整備促進事業	640m	玄海町（農村整備課）	榊田Ⅰ遺跡	確認調査予定。
	玄海支線24号	県営畑地帯総合整備事業上場Ⅳ期地区	3,000m	農村整備課	周知外	確認調査実施、支障なし。
	大薗地区	県営畑地帯総合整備事業上場Ⅳ期地区	15ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	棚橋地区	県営畑地帯総合整備事業上場Ⅳ期地区	39ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	大薗・浜野浦地区	ふるさと農道緊急整備	300m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	高江	予防治山	0.02ha	森林整備課	高江城跡	確認調査実施、遺構有り。記録保存後、工事実施。
肥前町	赤坂	県営畑地帯総合整備事業	1.5ha	農村整備課	周知外	確認調査実施、支障なし。

鎮西町	打上北部地区	一般農道整備事業	2,100m	農村整備課	野中遺跡ほか	確認調査不要、支障なし。
西有田町	西有田西部地区	県営中山間地域総合整備事業	農村公園ほか1.46ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	西有田西部地区	県営中山間地域総合整備事業	用排水路1,500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	二の瀬地区	ふるさと農道緊急整備	400m	農村整備課	館中遺跡	確認調査不要、支障なし。
	山谷地区	一般農道整備事業	2,343m	農村整備課	谷平遺跡ほか	確認調査不要、支障なし。
	曲川北部地区	一般農道整備事業	2,200m	農村整備課	前原遺跡ほか	確認調査不要、支障なし。
	曲川南部地区	一般農道整備事業	1,500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	曲川	水源森林総合整備	0.5ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
山内町	神六山	水源森林総合整備	10.0ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
北方町	北方第２地区	基盤整備促進事業	17.8ha	農村整備課	堺町遺跡ほか	要協議。
	杵島北部地区	ふるさと農道緊急整備	0.4ha	農村整備課	周知外	確認調査予定。
大町町	杵島北部地区	ふるさと農道緊急整備	0.8ha	農村整備課	神山遺跡ほか	確認調査不要、支障なし。
	聖岳	生活環境保全林整備	5.0ha	森林整備課	鬼ノ鼻遺跡	要協議。
江北町	八町城ノ井樋地区	ふるさと農道緊急整備	0.2ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
有明町	牛屋地区	一般農道整備事業	0.9ha	農村整備課	六千間土居跡	確認調査不要、支障なし。
	牛屋東分地区	一般農道整備事業	0.1ha	農村整備課	六千間土居跡	確認調査不要、支障なし。
	新明地区	ふるさと農道緊急整備	1.4ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	新明地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	0.9ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	杵島山	ふるさと農道緊急整備	230m/0.46ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	龍王溜池	溜池改修工事	0.4ha	農村整備課	龍王峠古墳群	確認調査実施、遺構有り。記録保存後、工事実施。
太良町	伊福地区	基盤整備促進事業	1.5ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	糸岐川南地区	ふるさと農道緊急整備	1,500m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	多良岳地区	広域営農団地農道整備事業	80m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	多良岳３期地区	広域営農団地農道整備事業	340m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	柳谷	県単林道事業（作業道）	265m/0.53ha	太良町（林政課）	周知外	要協議。
	大野	集落水源山地整備	20.0ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	糸岐	自然環境保全治山	2.0ha	森林整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
塩田町	塩田西部２期地区	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備	400m	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	杵島山	広域基幹林道開設	450m/0.9ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	杵島山	ふるさと林道緊急整備	700m/1.4ha	林政課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	鍋野	普通林道開設	270m/0.54ha	塩田町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。
嬉野町	三坂地区	県営水環境整備事業	0.2ha	農村整備課	周知外	確認調査不要、支障なし。
	椎葉	林業地域総合整備	133m/0.27ha	嬉野町（林政課）	椎葉遺跡隣接地	確認調査不要、支障なし。
	上不動	林業地域総合整備	130m/0.26ha	嬉野町（林政課）	周知外	確認調査不要、支障なし。

佐賀県文化財調査報告書第147集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書19

平成13年3月31日発行

編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内一丁目1-59
ＴＥＬ　0952（24）2111

印　　刷　山口印刷株式会社
伊万里市二里町大里乙3617-5
ＴＥＬ　0955（22）5188